

岐阜大学夏期短期留学 サマースクール2009



LUND UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV.
OF TECHNOLOGY



GIFU UNIV.



GRIFFITH UNIV.



MOKPO UNIV.

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

Summer School 2009 Report Contents

巻頭言

.....	1
-------	---

第一部 夏期短期留学（受入）

プログラムと日程	2
日本語の授業	5
日本事情講義	6
エクスカージョン	11
役員の先生方との昼食会	17
工学部との交流授業	18
夏期短期留学参加者名簿	19
ホームステイファミリー	20
宿舎チューター	23
宿舎チューター名簿	31
サマースクール感想文	32
総括とアンケート集計結果	42

第二部 夏期短期留学（派遣）

グリフィス大学	50
ソウル産業大学	64
木浦大学	80
短期留学（サマースクール）参加者アンケート	85
〔特別寄稿〕ソウル産業大学サマースクールに参加して	96
岐阜大学夏期短期留学（サマースクール）担当者一覧	101

今年度もサマースクールが無事終了した。今年度のサマースクールの参加者は、8週間コースが17名（ルンド大学）、4週間コースが5名（ソウル産業大学2名、木浦大学3名）計22名であった。今年度も昨年同様、日本語の授業、日本事情の講義のほか、上高地・高山市・白川村へのエクスカーション、土岐市での陶芸教室、大相撲観戦、郡上八幡でのホームステイ等、多彩なプログラムを提供することができた。受講生が授業やエクスカーション等の行事に熱心に参加してくれたことを留学生センターの諸先生から聞き、大いに喜んでいる。私自身、日本事情の講義を受け持ち、郡上八幡でのホームステイプログラムに参加する機会を得たが、彼らの真摯で意欲的な態度に接することができた。

本年度は、サマースクールの最中に、留学生センターフォーラム「協定校との更なる連携を目指して～ルンド大学・木浦大学の先生をお迎えして～」を開催することができた。このフォーラムでは、ルンド大学との交流協定にご尽力いただいた岐阜大学元学長の加藤晃先生、ルンド大学日本語常勤講師、鈴木ルンドストルム和代先生、木浦大学日語日文学科長、朴賛基先生をお迎えして、3先生の講演を聴くことができた。また、森秀樹学長をはじめとする岐阜大学役員との昼食会も開催することができ、古田善伯理事、梅村将夫学長特別顧問には、日本事情の講義もしていただいた。こうした企画は、サマースクールのこれまでの成果や意義、今後の在り方を考えるうえできわめて有益だった。さらに、受講生のために、宿舎と大学間の通学バスを一便増発していただいたこともつけ加えておかなければならない。

今後の課題として一長年の懸案でもあるが、授業のための教室をいかに確保するかがあげられる。本年度もまた、医学部看護学科及び大学院連合創薬研究科のご好意で、教室を借りることができたが、これは、

とりもなおさず留学生センター独自の講義用教室がないためである。悲しいかな、毎年、サマースクールのために、教室探しに奔走する状況が続いている。心おきなく講義用教室が利用できるよう、関係者のご理解と努力をお願いしたいと思う。

第2期中期目標の策定とからんで、岐阜大学においても国際化・国際交流の議論が盛んであるが、重要なことは、各部局がこれまでの実績を十分踏まえて、それをもとに独自の国際化・国際交流を模索していくことである。その意味で、一步一步、地道に進むことが、今ほど求められている時はない。われわれもこうした点に立って、さらなるサマースクールの発展のために、活発な議論をしたいと思う。

ともあれ、本年度のサマースクールが大きな成果をあげることができたのは、留学生センター及び留学生支援室の皆様はじめ、日本語を熱心に教授いただいた非常勤講師の諸先生、受講生を細かくお世話いただいたチューターの方々に負うところが大きい。また、サマースクールに対して積極的にご支援いただいた森学長はじめ役員の皆様、エクスカーション等の行事にご同行いただいた各部局の諸先生のおかげである。これらの方々に心から感謝申し上げたいと思う。



第一部 夏期短期留学（受入）

プログラムと日程

留学生センター・准教授 土谷 桃子

岐阜大学サマースクール（受入、以下略）は、今回で22回目を迎えた。昨年度のサマースクールで大胆な転換・発展に着手し、今年度はその継承と微調整に務めたが、我々の目指す方向性に間違いのないことを実感するサマースクールとなった。以下に今年度のプログラムと日程を記載し、関連事項について述べる。

6月8日（月）から8週間コースを開始した。10日（水）に8週間コース参加学生17名（スウェーデン・ルンド大学）の開講式及びガイダンスを実施し、翌11日（木）から実際のプログラムが走り出した。7月1日（水）には、後半4週間に参加する4週間コースの開講式及びガイダンスを行ない、5名（韓国・ソウル産業大学2名、同・木浦大学3名）が合流した。よって今年度の参加学生は、合計22名となった。

プログラムには、以下の内容が盛り込まれた。後掲の日程表を参照願いたい。

1. 日本語授業：毎週月～木曜、1日2コマ（8：50～10：20、10：30～12：00）
2. 日本事情講義：全7回実施（講義内容：能の実演6/16、日本の経済6/29、岐阜大学の概要7/2、岐阜の自然・産業・生活7/7、能と狂言7/14、相撲7/15、狂言の実演7/21）
3. エクスカーション：美濃6/18、土岐7/6、相撲7/16
4. 旅行：郡上7/10～13、上高地・高山・白川郷7/23～24
5. その他：工学部数理デザイン学科フレッシュャーズセミナーとの交流会、開講式、ガイダンス、役員との昼食会、歓迎会、歓送会等

それぞれの項目について、説明を加える。

項目1・日本語授業では、『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）を使用し、8週間コースでは全冊、4週間コースでは後半半冊を学習した。参加学生の国籍が偏らないようにクラス分けをし、留学生センター専任教員2名を含む6名の教員が授業を担当した。4週間コース参加学生のうち2名の日本語学習歴がゼロに近いことが学生来日後に判明し、クラス運営をどうするか苦慮したが、授業担当者の工夫により当該学生をサマースクール日本語授業に出

席させることで今年度は対応した。授業教室は、昨年度同様学部空き教室を当てたが、来年度以降の教室が確保できないという点では、進展はなかった。

項目2・日本事情講義は、昨年度9回実施は多すぎたという反応があったため、7回とした。本サマースクールの目玉である「本物に触れる」講義、すなわち「能の実演」と「狂言の実演」は今年も講師の先生方（能：観世流シテ方味方園先生・同田茂井廣道先生、狂言：大蔵流狂言方山口耕道先生・同茂山良暢先生）のご協力を得て開講が可能となった。その他の講義は、エクスカーション等の予習の意味合いを込めた講義（「岐阜の自然・産業・生活」、「能と狂言」、「相撲」）、役員の先生方による講義（梅村学長特別顧問「日本の経済」、古田教学担当理事「岐阜大学の概要」）であった。「岐阜大学の概要」は、本サマースクールの実施母体である留学生交流委員会委員長でもある古田善伯理事から講義提供の申し出をいただき、今年度初めて行なった講義である。また、昨年度は学長に講義いただいたが、今年度は学長のみならず多くの役員にサマースクール参加学生との交流を持ってもらいたいとの希望から、学長初め役員の先生方との昼食会を企画し（詳細後述）、学長講義は設けなかった。

項目3・エクスカーション、同4・旅行については、毎年頭を悩ませている。昨年度から岐阜大学ならではの地域性を生かした「地域密着型志向」を打ち出しているが、昨年度はそれが空回りした部分もあった。その反省を踏まえて、変更と追加をしている。

昨年度、地域密着志向を意識して、美濃、土岐、長良川鵜飼の見学を追加し、京都旅行を廃止した（その経緯については2008年度サマースクール報告書「プログラムと日程」参照）。しかし、それぞれについてかなり厳しいフィードバックが学生から得られたため、今年度は以下のように変更した。





美濃：昨年度は全日行事だったが、今年度は好評の浴衣の着付けと和太鼓体験に内容を絞り、午後みのプログラムとした。

土岐：昨年度は美濃と同様全日行事だったが、今年度は好評の陶芸体験（轆轤及び絵付け）に絞り、午後みのプログラムとした（2007年度の方式に戻した）。

長良川鶉飼：学生は各自で適宜鶉飼を川岸から見ているということなので、今年度は盛り込まず。

旅行：昨年度京都旅行を廃止し、それに代わる旅行は実施しなかったが、学生たちは旅行を非常に楽しみにしているということが感じられたので、今年度はなんらかの形で旅行を復活させたいと考えた。その場合、岐阜または岐阜近隣地域を訪問先にしたいと考え、上高地から高山に回り1泊、岐阜への帰途途中に白川郷に立ち寄りというプランを立てた。

尚、毎年度好評の郡上プログラム、大相撲名古屋場所観戦は、自信を持って今年度のプログラムにも盛り込んだ。

昨年度も感じたことであるが、地域密着を志向する場合、地域の協力なくしてプログラムの実施は不可能である。美濃、土岐、郡上の自治体やボランティア団体の皆様には、心より感謝申し上げるとともに、今後ご協力いただけるよう、お願い申し上げたい。

項目5・その他の、工学部数理デザイン学科フレッシューズセミナーとの交流会は、昨年度に続いて2回目を実施した。サマースクールを岐大生が異文化に目を向ける有益なきっかけとしたいという試みである。同セミナーで実施しているルンド大学日本語学科生とのメールプロジェクトが存続する限り、連動企画として毎年度改善・調整を加えつつ継続していきたい事業である。

今年度初めての企画は、役員の先生方とサマースクール参加学生との昼食会である。サマースクールは、留学生交流委員会が掌握する全学事業である



が、実際の運営に当たる留学生センター外の教員にサマースクール参加学生が接触する機会は非常に少ない。それを打破するために、役員の先生方へ出席を依頼して昼食会を設けた。講義という形での交流もいいが、形式に縛られず自由に気軽な雰囲気での交流できる昼食会は、新規に挑戦するに相応しいイベントであった。

この項目に関して1点言及しておかねばならないのは、毎年度サマースクール最終日に行なっていた「まとめの会」を実施しなかったことである。例年のまとめの会では、サマースクール全体について、参加学生から直接口頭または筆記でフィードバックを得、それを次年度に生かしている、非常に重要な会なのだが、今年度はサマースクール（受入）コーディネーターが2名ともに7月末より出校がかなわない事態になり、まとめの会を行なうことができなかった。学生の正直な意見を得る機会を失ったことを残念に思っている。

最後に、「プログラムと日程」そのものには直接関連しないが、今年度特記しておきたいことを記す。今年度は4月頃から新型インフルエンザが流行し、連日感染者数が逐一報道されるような状況であった。このような中、海外からまとまった数の学生を迎えることができるのか、もしサマースクール期間中に岐大で新型インフルエンザ感染者が多発した場合サマースクールはどうするのか、という課題がつけつけられた。幸い、サマースクール実施期間中には季節性インフルエンザと同様の警戒でよいという判断となったが、今後もこのような想定外の事態に陥る可能性について、対策はできないまでも心構えだけはしておかなければならないと痛感した。サマースクールも終盤となった7月17日に、鈴木ルンドストロム和代先生（ルンド大学人文学部言語文学センター日本語常勤講師）、朴賛基先生（木浦大学日語日文学科長）を講師にお迎えして、留学生センター・フォーラム「サマースクール関連企画・協定校との更なる連携を目指して～ルンド大学・木浦大学の先生をお迎えして～」を開催した。加藤晃第8代岐阜大学学長にも講演いただき、岐阜大学の国際交流の黎明期から現在までを、特にサマースクールをキーワードにして学ぶ機会となった。今後も、協定校の協力を得ながら、参加者に充実感と楽しさを与えられるサマースクールを提供していきたいと強く思っている。



2009年度夏期短期留学（サマースクール）受入日程

期 間 8週間コース [2009年6月8日（月）～8月4日（火）]

4週間コース [2009年7月1日（水）～8月4日（火）]

参加人数 22名 [内訳……ルンド大学17名, ソウル産業大学2名, 木浦大学3名]

6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	6月11日(木)	6月12日(金)	6月13日(土)	6月14日(日)
学外研修施設 入居手続き	学外研修施設 入居手続き	8週間コース開始 開講式、ガイダンス 歓迎会	日本語授業 8:50～10:20 10:30～12:00		フリー	フリー
6月15日(月)	6月16日(火)	6月17日(水)	6月18日(木)	6月19日(金)	6月20日(土)	6月21日(日)
日本語授業	日本語授業 日本事情講義1 「能の実演」 13:30～15:00	日本語授業 数理デザイン交流会 13:00～15:00	日本語授業 エキスカージョン1 「美濃」		フリー	フリー
6月22日(月)	6月23日(火)	6月24日(水)	6月25日(木)	6月26日(金)	6月27日(土)	6月28日(日)
日本語授業	日本語授業	日本語授業	日本語授業		フリー	フリー
6月29日(月)	6月30日(火)	7月1日(水)	7月2日(木)	7月3日(金)	7月4日(土)	7月5日(日)
日本語授業 日本事情講義2 [Corporate Culture in Japan] 13:30～15:00	日本語授業	日本語授業 4週間コース開始 開講式・ガイダンス	日本語授業 日本事情講義3 「岐阜大学の紹介」 13:30～14:30		フリー 4週間コース学生 歓迎会	フリー
7月6日(月)	7月7日(火)	7月8日(水)	7月9日(木)	7月10日(金)	7月11日(土)	7月12日(日)
日本語授業 エキスカージョン2 「土岐」	日本語授業 日本事情講義4 「岐阜県 of 自然・産業・生活」 13:30～15:00	日本語授業	日本語授業 役員との昼食会 12:10～13:00	「郡上プログラム」 郡上のホストファミリー宅で7月13日(月)までホームステイ		
7月13日(月)	7月14日(火)	7月15日(水)	7月16日(木)	7月17日(金)	7月18日(土)	7月19日(日)
	日本語授業 日本事情講義5 「能と狂言」 13:30～15:00	日本語授業 日本事情講義6 「相撲」 13:30～15:00	日本語授業 エキスカージョン3 「大相撲」		フリー	フリー
7月20日(月)	7月21日(火)	7月22日(水)	7月23日(木)	7月24日(金)	7月25日(土)	7月26日(日)
フリー (海の日)	日本語授業 日本事情講義7 「狂言の実演」 13:30～15:00	日本語授業	エキスカージョン4 「上高地・高山・白川」		フリー	フリー
7月27日(月)	7月28日(火)	7月29日(水)	7月30日(木)	7月31日(金)	8月1日(土)	8月2日(日)
日本語授業	日本語授業	歓送会	学外研修施設大掃除	学外研修施設退居	学外研修施設退居	学外研修施設退居
8月3日(月)	8月4日(火)					
学外研修施設退居	学外研修施設退居					

日本語の授業

留学生センター・准教授 橋本 慎吾

サマースクールの日本語をコーディネートすることになって5年目の夏を迎え、一度コース全体を見直す時期であると感じながら、今年度の日本語コースを進めた。

今年度の日本語コースも例年同様、8週間コースが先行し、途中から4週間コースが合流するというスケジュールで計画を進めた。今期の8週間コースはスウェーデンのルンド大学から17名の学生を受け入れた。事前に学生の日本語能力に関する資料を送っていただいていたが、大きなレベル差はなかったので、機械的に名簿の頭から2つのクラスに分けた。教科書は、これも例年と同じく初級終了レベルの『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）を使用し、これに岐大で作成した文法補助教材と読解教材を合わせて授業を行なった。授業の方針としては、文法を正確に使うことも重要であるが、学生の知的欲求を満たしながら自分の言いたいことを自分の言葉で話す機会を提供することに努めた。スケジュールの中にも適宜フリートークの時間を作り、自国のことや日本での出来事等を話す機会を設けた。

この8週間コースの途中から4週間コースが合流する形で例年進むが、いつも問題になるのは、4週間コースの学生の日本語レベルが来日まで全くわからないということである。基本的にサマースクールは、初年度からの参加校であるルンド大学の参加学生を基準とし、初級終了程度の日本語学習歴がある学生を受け入れることにしているが、実際には能力試験1級レベルの学生や、初級前半レベルの学生が来ることもあり、毎年何らかの対応を行なっている。今年度は韓国のソウル産業大学と木浦大学からの参加があり、ソウル産業大学の学生は2名とも既習者だったので問題なかったが、木浦大学の3名のうち、2名が学習歴がほとんどない学生だった。日本語が全く分からない学生が参加するというのはこれまでなかったことで、例えば初級前半レベルであれば留学生センターが開講している日本語初級クラスに入ってもらってもできるが、全くできないとなると、未習者クラスであっても既に4月から授業

が始まっているため、こちらに参加してもらうわけにもいかず、かといってこの学生のために新たに未習者クラスを作るのは時間的に不可能であった。幸い（というべきかどうか）、木浦大学の1名は既習者であったので、この学生にサポートをお願いすることにして、3名には他の学生と同じクラスで勉強してもらうことにした。当然ながら日本語クラスの内容には全くついていけなかったので、文字の練習や、簡単な質問をしたり、既習学生に通訳してもらいながら韓国の状況を説明してもらったりなどの対応をした。この学生達は、宿舎に帰ってからもチューターさんたちと会話練習をしていたようで、驚いたことにこのサマースクールの最終日には日本語である程度会話できるようになっていた。韓国語と日本語の近さを考慮してもこの進歩は驚きで、若いうてすばらしいと感じるとともに、日本語のクラスの意味についてもしみじみ考えてしまった。

また今期は、英語教育を勉強しているチューターさんから日本語授業を見学したいとの希望があったので、見学を許可した。熱心にメモを取り、また学生達が練習問題や作文に取り組んでいるときにはサポートをしてくれた。また上記の木浦大学の学生に対するサポートもしてくれた。感謝するとともに、この見学が学究活動に活かされることを期待する。

最初に書いたが、5回目の日本語コースが終わったところで、来年度以降よりよいコースにしていくため、授業の進め方や内容などについての検討を始めている。現在は文法中心の授業を行なっているが、学生は違ったものを求めているのではないかと、もう少しクリエイティブで楽しい内容の授業が必要では、という意見がこのコースで教えてくださっている先生方から聞かれた。方針はまだ固まっていないが、参加大学の要望をうかがったりしながら、来年度の授業をよりよいものにしていきたいと考えている。

担当講師（50音順）

梅野由香里・加藤由紀子・河合瑞恵・橋本慎吾・吉成祐子・六郷明美

日本事情講義

日本事情講義①

能の実演

留学生センター・准教授 土谷 桃子

観世流シテ方味方團先生・田茂井廣道先生による岐阜大学サマースクールの能の実演講義は、今年度で5回目を迎えた。講師の先生方にも、例年の行事として認めていただき、サマースクール実施担当者としては、嬉しい限りである。後掲のアンケートにも明らかのように、学生からも大変好評であり、当サマースクールの大きな目玉と胸を張ることができる。

今年度の能の実演は、6月16日（火）、13:30～15:00、学内施設柳戸会館の和室（32畳）にて実施した。受講学生は、8週間コース参加のルンド大生17名である（他に日本語・日本文化研修留学生6名も参加した）。サマースクール開始から日も浅いということで、2年前のサマースクール参加学生で、2008年10月から日本語・日本文化研修留学生として岐大に再度留学しているポントス・アンデルソン君に適宜スウェーデン語への通訳をしてもらった。

講義では、まず初めに、味方先生と田茂井先生による「石橋」の舞が披露された。例年は味方先生お一人での舞だが、今回はお二方に舞っていただいた。舞の迫力も増し、毎年拝見している筆者にとっても、新たな感動を得られる経験となった。学生たちは、正座に苦しみつつも舞をじっと見つめていた。次に、田茂井先生が650年の能の歴史と芸術の極みとしての能の特徴を簡潔に説明され、「高砂」を用いた謡の実習へと続いた。そし



て、引き続き味方先生による能面の紹介となり、学生たちは、若い女性から年齢を重ねた女性へ、そして嫉妬に狂い鬼となった女性へという変化を示す面1つ1つを、時に歓声を上げながら見入っていた。能特有の歩き方や喜怒哀楽を示す所作の実習では、ますます学生たちは能の奥深さ、面白さを感じたことと思う。そして、学生代表のジェシカさんが、先生方の鮮やかな着付けの手さばきにより、美しい能装束を身に纏い華麗な変身を遂げた。学生たちはカメラ片手に、しきりとスウェーデン語でジェシカさんに話しかけながら彼女の変身を楽しんでいた。見るだけでなく参加する日本伝統文化の講義として、一形態を確立しつつあることを実感した。今後とも講師の先生方のご協力を得て、この講義を継続・

発展させていきたいと強く念願している。

本講義に関連して、味方先生には格別のご配慮をいただいた。講義をご担当いただいた週の週末（6月20日（土））に、味方先生ご出演の林定期公演があるので、希望者を無料招待していただける旨お申し出いただいた。数日後と日程も迫っており、公演地が京都ということで、せっかくのご好意にお答えできないかもしれないと懸念したが、講義で能の魅力に目覚めた学生5名が、当日会場に赴いたということであった。学生にとって、本物の能舞台で行なわれる能を見るというまたとない機会となった。味方先生は、その後も先生のホームページに写真入りで本講義をご紹介くださったり、7月21日（火）に実施したサマースクール講義「狂言の実演」にも足をお運びいただいたり、ご配慮にただただ有難く、嬉しくお礼申し上げるのみである。

最後に、蛇足ながら会場として利用した学内施設の柳戸会館について言及する。柳戸会館は、今年度改修工事を行なうことが大学執行部によって決定されたが、当初のプランでは2階の和室を廃止し洋室に改修することになっていた。留学生センターとしては、サマースクールで能の実演、狂言の実演で和室を利用していること、サマースクール以外にも茶道の授業、着物の着付け授業等で日本文化教育に不可欠な施設であることを執行部に強く訴えた。幸い、その後当初のプランは変更され、和室が設けられることになった。和室の存続は留学生センターが訴えたことだけが理由ではないと思うが、サマースクールの地道な実績が認められたと自負している。来年度は、改修を経てきれいになった和室で、味方先生・田茂井先生をお迎えして能の実演を拝見できることを、今から楽しみにしている。



日本事情講義②

日本の企業文化

学長特別顧問 梅村 将夫

昨年の秋に世界経済が大不況に追い込まれました。その理由のひとつに自由放任で、かつ、株主利益を最優先して短期的利益を求めるアングロ・サクソン流の経営スタイルにあったと言われます。ここ10数年アメリカ流の経営をグローバル・スタンダードとして、時代遅れの日本流の経営からアメリカ流の経営に転換するのがよいとされてきました。今般の大不況に伴う失業問題に直面して、日本の従来の企業文化の特徴たる人間関係を大切にする経営がどのようにして機能していたかを話そうと考えました。「人本主義」という人間関係を大切にする日本的経営を、企業の実質支配者は誰か、企業経営の責任分担と受益者は誰か、そして、企業取引の慣行はどうかという3つの観点から話しました。

冒頭で英国フィナンシャル・タイム紙の特集「資本主義の将来」から「良好な人間関係が幸福のもと」とか「人間にやさしい北欧流の経営」などの記事を紹介し、日本流の経営に通ずる点があるのではないかと話しました。しかし、実社会経験の乏しい学生たちには実感をもてず、自分たちの社会の在り方について具体的なイメージはないようであった。ただ、若者らしい正義感に基づく発言があったことを最後に記しておきます。



日本事情講義③

岐阜大学の紹介

教学担当理事 古田 善伯

私の講義では、自己紹介を兼ねて、私が柔道を行っている関係で、日本で発祥した柔道の話から始めた。柔道を創設した嘉納治五郎の銅像の写真を示して柔道の段位の仕組みにも触れて話をしたが、留学生にとっては難しかったかもしれない。これに続いて日本の国技として知られる大相撲の番付表（最新版）をみせて、相撲の階級の仕組みの説明をし、私が経験した相撲の世界の情報について話をした。これについては、留学生諸君も興味を持ったように感じた。

本題の岐阜大学の紹介についてパワーポイントを使って紹介した。本学の学部構成を始め、各学部の特徴について話を進めたが、日本語の図表を使って説明したためか、留学生にとっては難しかったかもしれない。この説明の途中で岐阜大学とルンド大学との違いを確認したかったが、日本語によるコミュニケーションが円滑に進まなかったため、当初考えた計画を変更して説明を進めてみた。情報を伝えるためのコミュニケーション能力の重要性を痛感するとともに、留学生をよく理解して講義内容を構成する必要性を感じた次第である。

講義とは別の時期に、サマースクールを担当されているルンド大学の鈴木先生の講演を聴く機会があり、その時質問した回答がとても印象的であった。それは、学生が大学の運営に関与しており、学生の意見が尊重されているということであった。ルンド大学の学生は自立心が確立されているという印象を強く抱いた。

今後も地域密着型のサマースクールが益々発展することを願っています。



日本事情講義④

岐阜の自然・産業・生活

留学生センター長・教育学部教授 小林 浩二

岐阜県の地域的特色は何でしょうか？何といても多様性に富んでいることです。南部を中心とした地域は、濃尾平野の一部を形成しています。「木曾三川」に代表されるように低地で、名古屋大都市圏にも含まれます。一方、中部から北部にかけては農山村が卓越しており、今日なお農業や林業が盛んです。観光資源を有するところでは、観光化が進展しています。本講義では、こうした岐阜県を持つ多様性を自然とそこに暮らす人々の生活を通して明らかにしました。

私が専門とする地理学では、地域の特性を把握するために、景観や地形図を読み解くことがきわめて重要です。そこで、実際の講義では、スライドを用いてビジュアルに地域を説明するとともに、景観の把握の仕方ならびに地形図の読み方（読図）も若干盛り込みました。

昨年の講義では、私の講義内容（日本語）を理解していただけなかったのではないかと反省があります。そこで、今年の講義では、できるだけ平易な日本語を使用するように心がけるとともに、学生達に読図等の作業をしてもらいました。はたしてその成果はどうだったのでしょうか？



日本事情講義⑤

日本の伝統文化 —能と狂言—

留学生センター・教授 太田 孝子

昨年から「能と狂言」の講義を実施するようになったが、サマスクで行なわれる他の講義との違いを示すために、今年は「日本の伝統文化」というタイトルを付け、「伝承」という点にも重点を置きながら授業を行なった。

配布資料やレジュメにより、日本の伝統文化がどのように誕生し発展してきたのかを解説した後、ビデオでそれぞれの所作や意味などを確認、さらに能と狂言の代表的な演目を説明を加えながら鑑賞した。能を象徴する「ゆったり」、狂言を象徴する「こっけい」という二つの語は確実に覚え、実感してくれたことと思う。

能の所作の説明では、すでに「能の実演」を体験しているルンドの学生が、韓国の学生に歩き方などを教えてくれ、教室の雰囲気が和んだ。また、狂言に登場する室町時代から続く擬音語（猿や犬の鳴き声、僧の読経の声、戸の開閉やノコギリで物を切る音など）を、それぞれの国の音と比較してみたが、積極的に発言してくれた。ルンドの学生の中には、能を観に京都まで出かけた人もおり、ほとんどの学生が興味を持って講義に耳を傾け、楽しんで鑑賞してくれたように感じた。



日本事情講義⑥

相撲

留学生センター・准教授 橋本 慎吾

相撲観戦の前に、相撲の歴史、仕組み、ルールなどについて講義をしている。相撲は海外でも有名な日本文化の一つなので、「知らない」という学生はいない。「テレビやインターネットで観たことがある」という学生も多い。それで例年、基本的な歴史やルールとともに、土俵作りや祝詞あげなど、日本人でもあまり見たことのないような映像を示して、細かい解説をしている。今年度の学生は格闘技に興味のある学生が例年より多く、相撲にも強い関心を示していた。この講義の後、学生達は実際に名古屋場所の観戦に行ったが、観戦後に学生と話す機会があった。そのとき、「試合と試合の間に男の人が歌を歌うんですがあれは何ですか？」と聞かれた。何のことかと思って詳しく聞いてみると、呼び出しの人が「ひが〜し、〇〇やま〜」と呼び出す声が歌に聞こえたのだそうだ。



日本事情講義⑦

狂言の実演

大蔵流狂言方 山口 耕道

日本の伝統芸能「狂言」を紹介するにあたり、狂言師の日頃の稽古法を体験することで、狂言に触れてもらおうと考えた。科学的なトレーニングではなく、繰り返し繰り返し謡を謡い、舞を舞うことで、狂言師としての、声、足の運び、立ち居、姿勢を作り上げて行くことを伝えたかった。

留学生たちには、常の稽古場と同じように、同僚の茂山良暢氏と二人で、小謡「盃」と狂言「末広がり」のセリフの一部を口移しで教え、又、留学生たちの「盃」の謡で私たちが舞を舞った。

後半は、狂言に登場する女の面「乙（おと）」と鬼の面「武悪（ぶあく）」を説明し、数人にその面をつけて動いてもらおうと、その滑稽さに笑いが起こり、写真を撮る人たちもいて、会場が一層なごんだ。最後に、狂言「寝音曲」を演じ、大いに笑っていた。

私たちには、笑いの普遍性を感じた一日でもあった。



エクスカーショ

美濃エクスカーショ

.....

地域科学部・講師
小西 豊

6月18日、サマースクール参加のルンド大学からの学生たちと日本語・日本文化研修生たちは美濃市を訪問した。昨年のプログラムと比較してみると、内容的には随分シンプルなエクスカーショとなったが、それでも以下のような内容に参加者たちは大満足であった。

13時に岐阜大学を出発し、14時に会場の美濃市勤労青年ホームに到着。さっそく地元婦人会の皆さんに浴衣を着せて



いただき、14時半から本日のメインイベントである太鼓の演奏に挑戦した。学生たちを指導してくださったのは、この道30年のベテラン服部勝利先生で、年間300日以上演奏家として、また指導者として太鼓演奏をなさっておられる方である。

まず最初に「美濃小倉太鼓」の皆さんの模範演奏を拝聴し、その後参加者は恐る恐るバチを手にとったが、ものの10分もすると、服部先生の軽快なバチ



さばきにあわせて合奏ができるまでに上達した。約2時間、服部先生がこの日のために作曲してくださった課題に集中し



たおかげで、終盤には見事に2パートにわかれての合奏までこなせるようになった。

最後に、心に響く服部先生のソロ演奏を満喫し、日本の伝統文化の理解が一層深まったのではないかと思います。

美濃エクスカーショ スケジュール

6月18日（木）	
13：00	バス大学出発
14：00	美濃市着
14：00～14：30	浴衣着付け
14：30～16：30	小倉太鼓体験
16：30	バス美濃市出発

土岐エクスカージョン

応用生物科学部・准教授
岩澤 淳

7月6日、土岐の陶芸体験に向かった。7月1日からサマースクールの4週間コース（ソウル産業大学と木浦大学）が始まったところで、日本ですでに1ヶ月を過ごした8週間コース（ルンド大学）の学生に、1年間の日本語・日本文化研修生を含めて総勢30名ほどが参加した。いまにも降り出しそうな梅雨空にもかかわらず、幸い最後まで傘を開く機会はなかった。

1時間あまりで目的地の「どんぶり会館」に到着した。さっそく2班に分かれて、交代でロクロと絵付けを体験した。事前の授業で、土岐を中心とした地域が美濃焼と呼ばれるわが国有数の陶磁器の産地であるといった基礎知識は仕入れてあるとのことだったが、思うようにはならない土のかたまりと格闘しながら、日本人でもあまり機会のない体験を皆で楽しんだ。絵付けはアニメのキャラクターや難しい漢字の他、さらさらと川柳を書いた学生がいたのには驚いた（しっかり韻も踏んでいた）。

当日お世話していただいた土岐市の国際交流協会の会長さんによると、留学生の作品の一部が10月に地元で行われる作品展に展示される予定とのことである。日本人には思いもつかない絵柄の数々は、きっと訪れる人たちの印象に残ることであろう。



土岐エクスカージョン スケジュール

7月6日（月）	
12：30	バス大学出発
14：30	どんぶり会館着
14：30～16：15	陶芸体験（轆轤および絵付け・どんぶり会館にて）
17：30	バスどんぶり会館出発



郡上プログラム

留学生センター・准教授
土谷 桃子

毎年サマースクール参加学生から、一番良かったと絶賛される郡上プログラムが、今年も郡上八幡国際友好協会と郡上市役所のご協力によって実施された。郡上踊りが始まる週末に合わせて、7月10日（金）に、サマースクール参加学生21名と、引率3名（留学生センター長、留学生センター教員1名、事務職員1名）が郡上に向かった（参加学生22名のうち1名は、前日に自転車と乗用車との接触事故を起こし頭を強打していたため、大事をとって宿舎で休ませることとした。よってこの学生は郡上プログラムに不参加）。7月10日から13日までのプログラムは、後掲のとおりだが、全て郡上の皆様がセッティングしてくださったものである。引率の事務職員1名は郡上到着後すぐ大学に戻ったが、教員2名は、初日の歓迎交流会の途中まで同行させていただいた。よって本稿では、初日のプログラム内容と学生の様子について報告する。

今年度のサマースクール参加学生は、例年にも増して生活態度がよく、ルールを守るという印象を受けていたが、迎えるバス到着前に全員が集合場所で待っていたのには驚いた。これなら郡上で粗相することもなく、大いに歓迎してもらえらるだろうと心強く感じた。郡上へはほぼ時間通りに到着し、オリエンテーションでこれからお世話になる方々から言葉をもらった後、書道体験講座へと移った。講座では、「水」「城」「踊」の三字や、事前に連絡した自分が書きたい漢字一字を、一人一人が先生の指導を受けながら書いた。先生の筆使いを凝視し、あるいは手持ちのカメラで撮影するなど、学生は真剣そのものであった。講座の最後には各自色紙を書き上げ、先生から団扇をもらって書道を満喫した様子であった。

昼食後は、八幡小学校を訪問した。今年度は、



全市児童との面会后、5年生との交流会が設けられた。小学生お手製のネームプレートを一人ずつ首にかけてもらい、学校案内を経た後、全校集会の会場である体育館へ。日本の小学校の実態を見ることができたのではないだろうか。その後、5年生と英語・日本語でのおしゃべりを楽しんだ後、郡上踊りを小学生と共に踊った。最後には、小学校の先生方のご配慮で自由時間が設けられ、思い思いに写真を撮ったり、体育館を走り回って鬼ごっこをしたり、サマースクール参加学生と小学生の若さが炸裂する時間を過ごすことができた。

実は昨年度、小学校訪問の際に小学生と英語で話すことが予定に入っていることを事前に知らず、現地で学生がいささか当惑するという場面があった。サマースクール参加学生は、日本語が話したくて日本に来ているため、学生によっては英会話の相手をさせられることを不満に感じてしまうことがある。今年度は、昨年度の反省を踏まえ、郡上へ向かう車



中で、小学生から英語の質問があるかもしれないが、応じてほしい旨学生に依頼しておいた。十分な説明をし事態を明らかにすれば、快く応じてくれるのがサマースクール参加学生のいいところで、小学生のたどたどしく可愛らしい英語に笑顔で応じている姿に、良かったとほっと胸をなでおろした。

さて、次に向かったのは遊童館である。館長水野政雄先生が楽しそうににこにこしながら紙とシールと鋏を操り、指先からあれよあれよと言う間に怪獣や虫や骸骨の紙細工を湧き出すように作り上げるのを、学生は呆気にとられながら見つめ、自分たちも見よう見真似で作ったりしていた。

午前中は雨に降られ、傘を持っていない学生が多いことから急遽ビニール傘を購入したが、昼過ぎからは傘が必要のない天気となった。学生たちは、郡上の山と川が織り成す美しい景色に感嘆しあちこちで立ち止まって写真を撮影し、町歩きを楽しんだ。夕食を取った後、歩きつかれたためか食事場所の和室で横になって寝入る学生がかなり多かったため、ここでゆっくり休憩を取らせた。

そして、いよいよ歓迎交流会でホームステイファミリーとの対面である。学生名が一人ずつ呼ばれ、次にその学生を受け入れてくださるご家族の名前が呼ばれる。学生の、どんな方だろうという、大きな期待と少しの不安が交じった視線が、ホームステイファミリーの笑顔に出会う瞬間には、なんとも言えない感慨を得た。これから3日間、どうか楽しく（しかしくれぐれも迷惑をかけずに）過ごしてほしいと願いながら、引率2名は郡上を後にした。



郡上市の皆様には毎年大変なお心遣いをいただいているが、今年度は学生からのフィードバックを踏まえてプログラム内容を一部変更してくださった。昨年度まで、2日目のプログラムには寺院での座禅体験が入っていたが、「叩かれる（喝を入られる）」ことに対して拒否反応を示す学生がいることを以前お伝えしていた。それを受けて、今年度は座禅体験の代わりに、剣道または着付けを選択して体験するというプログラムにしてくださいました。このようなきめ細かい対応をいただき、大変感謝している。

末筆になりますが、1996年度以来、毎年郡上プログラムの実施にお力を尽して下さる郡上八幡国際友好協会、郡上市役所、そして郡上の皆様に、心よりお礼を申し上げます。今後も変わらぬご協力・ご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。どうもありがとうございました。

郡上プログラム スケジュール

7月10日（金）	
8：30	バス宿舎出発
10：00～10：40	郡上市着・オリエンテーション
10：45～12：00	日本文化体験講座（書道）
12：15～13：00	昼食・休憩
13：15～14：35	八幡小学校交流会・郡上おどり
15：15～16：30	日本文化体験講座（紙細工）
16：30～17：15	町内散策
17：15～18：45	夕食・自由時間
19：00～20：30	歓迎交流会（のち各ホームステイ宅へ）
7月11日（土）	
9：20～10：20	剣道・着付け
10：30～11：30	日本文化体験講座（茶道）
11：40～13：00	昼食・意見交換・休憩（のち各ホームステイ宅へ）
7月12日（日）	
	終日ホームステイ宅にて過ごす
7月13日（月）	
9：30～10：30	反省会・記念撮影
10：30	バス郡上市発

大相撲名古屋場所観戦

工学部・教授
大矢 豊

去る7月16日午後、岐阜大学からバスで大相撲名古屋場所12日目を観戦に出発した。留学生はもちろん初めての



大相撲観戦であり、私も初めてである。名古屋場所の会場である愛知県体育館は名古屋城敷地内にあり、そのロケーションからも日本の文化に触れる絶好の機会である。名古屋城のお堀の脇を通り、門を抜けて愛知県体育館に至る。観戦席は土俵からちょっと離れているが、みんなデジカメを構えて楽しんでた。またあらかじめ相撲についての講義を聴いていたとのことで、“古代からの神事”であることは理解していたと思うが、それと相撲を“観戦する”とは別の話である。我々のすぐ前の席の“相撲ファン”が声援しながら観戦していたこともあり、その観戦方法に次第に馴染んでいったようである。ポップコーンを抱えビールを飲みながら、時折“がんばれー”と声援しながらの2時間であった。朝青龍、結びの白鵬とも盤石の“横綱相撲”で無事観戦を終えた。



中部日本の自然と文化を巡る エクスカージョン

上高地・古川・高山・五箇山・白川郷

教育学部・教授
大関 泰宏

2009年度のサマースクール見学旅行は、スウェーデン・ルンド大学17名、韓国・木浦大学3名、韓国・ソウル産業大学2名の留学生22名が参加して、7月23日から1泊2日の日程で実施された。この夏は梅雨明けが遅れて天気が心配であったが、両日ともほとんど雨に降られることなく、とくに初日の上高地が晴天に恵まれたことは留学生の皆さんへの何よりのプレゼントであった。



上高地には昼過ぎに到着し、大正池から河童橋まで、焼岳や穂高の雄大な景観を眺めながらの散策は昼食をとるのも

忘れてしまいそうな爽快な小一時間であった。その後、「飛騨古川まつり会館」で千鳥格子のパズルに挑戦したり、瀬戸川沿いの白壁土蔵が続く町並みを巡ったりして、夕方には宿泊先の「ひだホテルプラザ」（高山）に到着した。





2日目、「高山祭屋台会館」の見学後は午前中いっぱいフリータイムで、昼食場所を探しながら散策することで観光地高山のにぎわいを実感できたようである。午後は、再び県境を越えて五箇山の村上家へ移動し、合掌造り家屋の歴史と生活について説明を聞き、楽器「ささら」を使った民謡「こきりこ」の実演を鑑賞した。岐阜県に戻り、白川郷合掌造り集落に立ち寄った後、岐阜市への帰途についた。

今回のエクスカーションは、岐阜・長野・富山の3県にまたがるもので、留学生の皆さんは中部日本の自然と文化の原型を実体験し理解を深めることができたのではないだろうか。引率に際して留学生支援室の薬師若菜さんに大変お世話になりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。



高山エクスカーション スケジュール

7月23日（木）	
9：20	バス宿舎出発
12：30～14：00	上高地・大正池・河童橋（各自昼食）
15：30～17：00	飛騨古川まつり会館・起し太鼓の里
17：30	高山市内ホテル着（のち夕食・自由時間）
7月24日（金）	
9：00	高山市内ホテル出発
9：10～12：30	高山祭屋台会館（のち各自自由時間・昼食）
14：00～15：00	世界遺産合掌造り家屋見学・村上家・民謡鑑賞
15：30～16：30	白川郷・萩町合掌造り集落
16：30	バス萩町出発



役員の先生方との昼食会

留学生センター・准教授 土谷 桃子

岐阜大学サマースクールは、2006年度より留学生交流委員会が掌握する全学行事と位置づけられている。実際の運営は、留学生センターが担っているが、全学行事であることに責任と誇りを持ちつつ、留学生センターはサマースクールに関わっている。

本校のサマースクールは、全国的に見ても長い歴史を持つ、岐阜大学の誇るべきプログラムである。そのサマースクールを、是非学長はじめ役員の先生方にも見ていただきたいと、常々思っている。過去には、学長講義を設けてその機会を作ったが、今年度は学長始め理事・副学長等にもサマースクール参加学生の実際を見ていただきたく、昼食会を企画した。

昼食会は、7月9日（木）12：10～13：00、図書館1階会議室にて実施した。軽食を準備し、立食形式で自由に役員の先生方と学生が話せる雰囲気作りに努めた。サマースクール（受入）コーディネーター土谷が司会進行役を務め、まず役員の先生方に一言

ずつご挨拶いただいた後、自由に立食、歓談するという自由度の高い会にした。先生方と学生がなかなかなじもうとしないのではないかと懸念したが、杞憂であった。先生方は積極的に学生に話しかけ、学生たちも、留学生センター教員に促されて先生方との会話に挑戦していた。自画自賛ではあるが、学生も楽しんでいただけたのではないかと思います。今年度初めての試みで、準備にはいろいろと手間取ったが、今後も継続できるよいイベントではないかという感触を得ている。

多忙にもかかわらず、森学長、安田理事、古田理事、小森理事、竹森理事、杉戸副学長、土肥副学長、水谷幹事、梅村学長特別顧問の9名にも上る多くの役員の先生方ご参加くださった。大変有難く、嬉しいことである。この場を借りてお礼申し上げます。来年度以降も、是非サマースクールの継続と発展にお力添えをお願い申し上げます。



工学部との交流授業

岐大生との交流授業～サマースクール参加生・数理デザイン工学科交流会

工学部数理デザイン工学科・助教 新田 高洋

6月17日にルンド大学からのサマースクール参加生と工学部数理デザイン工学科1年生との交流会が行われました。この交流会は、数理デザイン工学科1年生を対象としたフレッシュャーズセミナーの一環として昨年度から開催され、数理デザイン工学科の学生の国際性涵養を目的としています。

交流会の冒頭に、ルンド学生の流暢な日本語による、スウェーデンやルンド大学についての紹介がありました。その後、ルンド学生と数理学生を7、8人のグループに分け、グループディスカッションを行いました。グループディスカッションは和やかな雰囲気のもとに行われ、大半のグループではスムー

ズに会話が進んでいました。この交流会を通して、数理学生はルンド学生の語学力、日本への関心の強さ、人に接する態度、ものの考え方に大きな刺激を受けたようでした。交流会後、数理学生は「外国語学習の必要性を感じた」、「外国に対する関心が強まった」などの感想をもったようです。この交流会が数理学生の視野を広げ、自分自身を見つめ直すきっかけになることを期待しています。

最後に、本交流会の趣旨にご賛同いただき、ご協力くださった土谷先生、吉成先生をはじめ、留学生センタースタッフの皆様に感謝いたします。



夏期短期留学参加者名簿

No.	氏名	性別	大学
1	エク ヨハン ニクラス Ek, Johan, Niklas	男	ルンド大学
2	ファルケ マヤ ウッリーカ Falke, Maja, Ulrika	女	ルンド大学
3	ホルムベルグ グンナル エロフ オシアン Holmberg, Gunnar, Elof Ossian	男	ルンド大学
4	カルソン ジェシカ ヒレヴィ Karlsson, Jessica, Hillevi	女	ルンド大学
5	カルソン マリア テレーズ Karlsson, Maria, Therese	女	ルンド大学
6	キョエンディス ペトルス アンтони Kiendys, Petrus, Antoni	男	ルンド大学
7	クラソン クリストファ エリック エマヌエル Klasson, Kristoffer, Erik, Emanuel	男	ルンド大学
8	コレルト ジェンス フーゴ Kollert, Jens, Hugo	男	ルンド大学
9	モスベク エレン カリン Måsbäck, Ellen, Karin	女	ルンド大学
10	ニルソン ビクター オロフ Nilsson, Viktor, Olof	男	ルンド大学
11	パルムローズ タイム リカード Palmroos, Tim, Rikhard	男	ルンド大学

No.	氏名	性別	大学
12	レンステト ヨハン カール フレドリック Rengstedt, Johan, Karl, Fredrik	男	ルンド大学
13	ロンクイスト アンナ エリノア Rönqvist, Anna, Elinor	女	ルンド大学
14	セゲルブロム レックス シモン エリック Segerblom Rex, Simon, Erik	男	ルンド大学
15	スマジス アルヴィン Šmajic, Alvin	男	ルンド大学
16	ヴェンベリ エリク グスタフ Wennberg, Erik, Gustav	男	ルンド大学
17	オーケルンド ジョナタン マグヌス Åkerlund, Jonathan, Magnus	男	ルンド大学
18	イム ギユナム Lim Gyunam	男	ソウル産業大学
19	ファン エン ミ Hwang Aengmi	女	ソウル産業大学
20	チョン スミ Jeong Sumi	女	木浦大学
21	キム セ ヨン Kim Se Young	女	木浦大学
22	イ セ ヨン Lee Se Young	女	木浦大学



ホームステイファミリー ～郡上から～

7月10日（金）から13日（月）まで、郡上市でエクスカージョンとホームステイを行いました（p.13参照）。現地でお世話になったホストファミリーの皆様が感想文を送って下さいました。

大野弘勝さん

初めてのホストファミリーで、言葉の心配もありましたが、家には、わんぱく盛りの小さな子供が3人いるので迷惑をかけたりしないかをもっと心配でした。

案の定子供たちは、外国からのお客さんに大興奮してしまい失礼なこともたくさんあったと思います。でも、そんな子供たちと4日間本当に仲良く遊んでもらいやさしく接してもらえたのでとてもうれしかったです。特に三男心平は、しんぺいのしんとわんぱくのぼくで「しんぱくちゃん」と呼ばれてとてもかわいがってもらいました。そのせいか二ヶ月以上たった今でも心平は、「イムさんはね～」と話の中によく出てきます。子供たちにとってかけがえのない思い出になったと思います。ありがとうございました。

いむさん

いっぱいあそんでくれてありがとう。また、いっしょにあそびたいです。

しんぺい



河合慶子さん

我が家は一年を通して外国からの留学生を受け入れさせて頂き、とても楽しい時間を共有させていただいています。

今回、スウェーデンのルンド大学の20歳の学生「エリク」と過ごさせて頂きました。

主人と一緒に迎えに行き、最初に私の目に入った学生がエリクでした。主人に「彼だったら、いいなあ……。」と言ったのが見事に的中でした。インスピレーション!?（笑）

エリクの私に対する第一声が「お住まいは綺麗ですか?」でした。まあ、外人なので初対面でも……と思いましたが、後に明らかになりました。実はエリクたちの岐大の留学生の寮が「百足」が頻繁に出る事でとても有名らしく、その上、エリクは足を三回噛まれ、トラウマになってしまったのです。そして、我が家で滞在の初日、ゲストルームで寝ていたエリクだけが、額・腕を蚊に刺され、百足に続き、蚊のトラウマになってしまった事でしょう。

我が家は私の仕事の関係で、幼児～大人まで毎日、多くの人達が出入ります。エリクにとっても沢山の刺激があった様で、とても楽しかった様です。



ゴルフ・高橋野球の観戦・居酒屋・英会話のレッスン参加・ドッグカフェ・温泉・釜ヶ滝への訪問（自然が大好きなエリクにとって、とても感激だった様です）・回転寿司……。私達もエリクのお陰で普段行けない処へ行けたりして、楽しくて貴重な体験をさせて頂きました。

エリクは、我が家がとても気に入ってくれたらしく「週末と一緒に過ごしたい。」とメールをくれました。再びホームステイが実現しました。迎えに行ったその日は、偶然にも、亡くなった一人息子の誕生日の7月18日の事で、エリクと同じ20歳になった日でした。

今回のホストファミリーは、亡くなった息子からの私達へのプレゼントだと思い、とても感謝しています。

エリク、有難う！エリク、あなたは私達の家族であり私達の息子です。日本のあなたの家に又、遊びに来て下さい。

辻下一三さん

今回初めて岐阜大学サマースクールのホームステイの学生を受入れました。

学生たちに剣道について一時間話や実技をしてほしいとの依頼があり、その打合せに来られた方より、まだホームステイ先を捜しているとの事でしたので、私共でも受入れてみようと考えた訳です。

丁度その期間中、昨年から外国にしばらく留学していた娘が在宅していたので、彼女に学生の相手を主にしてもらえば、私達夫婦は仕事も続けられることもありました。

ジェシカさんが来てくれました。言葉も話せるし何不自由なく四日間が終えられて良かったです。

日曜日は私も休みでしたので、阿弥陀ヶ滝に行き、流しそうめんを食べたり、釣堀りで魚を釣ったり、夜は私の剣道の教え子達を呼んで一緒にバーベキューをしたり楽しみました。二日目の午後から、あっちこっちに連れて行ったので、彼女にとっては強行日程でなかったかと帰ってから多少反省したところです。学生達が剣道に触れる機会を作っていただいていたありがとうございました。

日本古来の伝統文化であり武道である剣道をいろんな人に知っていただけなのは、剣道を愛好する者として、とても嬉しい事です。

時間が短い中で多くの事をお話ししようとして、分かりにくい点もあったと思いますが、これに懲りずに、又機会を与えてください。初めての経験でもあり、ジェシカさんには多少嫌な思いもさせた点があったな、と思っているところです。

良い経験をさせていただきありがとうございました。



杉下浩子さん

岐阜大学の留学生をホストとなり受け入れさせていただき、二回目となります。

今年も昨年に引き続き、ルンド大学より男子学生のヨハンさんが来て下さいました。彼らとお話して感じることは、スウェーデンの国が平和であること。王室の立場を理解し認めていること。国が養育、強いて言えば人作りに税金を使っていると思いました。

ヨハンは、私にとっては驚きだったのですが、小麦のアレルギーを持っていました。じゃあお米ばかり食べてもらえばいいと考えましたが、うどんやラーメン、たこ焼き、ケーキなど、たくさんの食材に小麦粉が使われていることを再認識しました。でも何を出しても「おいしい。」と言って食べてくれました。

八幡はとても日本情緒の残っている町で、郡上踊りの、踊りはじめということもあって町がとてもにぎやかになっていました。ヨハンと娘と犬のルルト

四人で吉田川添いを散歩したり、お寺へ行ったり、夜は郡上踊りにゆかたを着て家族皆で出かけ、とても楽しかったです。主人はお酒をいっしょに飲める家族が出来て、とてもうれしかった様です。ヨハンがゴルフが得意と聞き予定していたゴルフにヨハンを連れて行くと言い出したので、娘に「お父さんはずるい。」と言われ、結局、娘と私もカートに乗っていっしょにゴルフについて行きました。ヨハンはアップダウンがきついコースにもうまく対応して、ゴルフを楽しんでくれたようでした。いつも落ち着いておだやかに行動しているヨハンを見るにつけ、せわしく生活している自分を反省させられます。「忙しい」という漢字は、心を亡う。と教えてもらったことがあります。ヨハンと共に過ごした時間は、もう一度この言葉を自分に問いかけるきっかけになりました。

ヨハンさん、ようこそ私達の家に来て下さいました。また日本にみえたら遊びに来て下さいね。待っています。この機会を与えて下さった係の皆様にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



宿舎チューター

「また会える日まで」

教育学部3年 依田 芽生

今年でサマースクールのチューターを行うのは3回目となりました。1年目。何も分からずただただ先輩に言われたことをやるだけ。2年目。1年目よりは積極的に関わることができました。そして今年はリーダーとしての参加。3回目ともなると初日から臆することなくみんなに話しかけ、全体を見て行動できるようになりました。

サマースクールを毎年見ているとその年によって学生にもかなり違った個性が見られます。今年のサマスク生はととてもまじめで、しっかりしている子が多いというのが第一印象でした。裸になってトイレの掃除をする子がいたり、ほぼ全員が授業も休まず参加していたり、チューターの手を借りることなく「日本ででの生活を楽しもう！」と積極的に行動している姿が多くありました。この2ヶ月は本当に楽しく、あっという間に過ぎてしまいました。パーティーをしたり、みんなでDVDを見たり、お酒を飲んだり、花火をしたり、お互いの文化を話し合ったり、言葉を教え合ったり。この2ヶ月には、普段味わうことのできない、たくさんの素晴らしい思い出が詰まっています。それはきっとサマスク生にとっても、チューターにとっても同じなのではないかと思えます。だからこそ、私たちチューターは、自分の時間やお金を犠牲にしても、サマスク生がこの2ヶ月間で日本での「最高の思い出」を作れるように手助けをしたい、と思うのだと思います。

サマースクールのチューターを行う中で学ぶこと

は本当にたくさんあります。海外の文化、言葉、私たちが知らなかったような日本のこと、岐阜のこと。3回目になっても、まだまだ私が知らないことはたくさんあって、今年も驚きの連続でした。自分の夢に近づくため始めたチューターですが、今ではこの大学生活になくはならないものになっています。この2ヶ月を中心に大学生活が回っていると、いっても過言ではありません。

サマスクを通して出来たたくさんの友人たちとは、今でも連絡を取り合い、日本で、海外で会うこともあります。この2ヶ月で出来た絆というのは、きっと一生ものなのだと思います。「また会える日まで」。この言葉を私は忘れることはないと思います。いつかまたどこかでみんなに出会えることを楽しみにしています。



「最高の日々 反省と感謝」

工学部3年 原田 剛志

チューターをやるのは、今年で2回目になりま

す。今年の目標は、去年のリベンジでした。コミュ

ニケーションに偏りがあり、全員と話せなかった昨年。「全員と話し、打ち解ける」これが公言していた目標でした。

今年のサマースクールを振り返ると、この目標は未達成に終わりました。全員と話すことはできました。しかしながら、「打ち解ける」これが難しかったです。

打ち解けた状態を「笑って話ができること」にすると目標を100%達成しました。しかし、そんな生温いことは言ってられません。「全員と本当の意味での友達」になれなかったことが心残りです。これは来年以降に達成すべき課題です。

サマースクールを終えた今、チューターをやったよかったと心から思います。サマースクール生から元気をもらえた2ヶ月間でした。

4回のパーティーがあり、そのつど仲が深まっていきました。スウェーデンの子どもたちの遊び「音と動きのゲーム」が盛り上がりました。

短い言葉で、思い出を振り返ってみます。ホタル、

立ち上がり拍手絶えないカラオケ、色とりどり手に持った花火、浴衣、キッチンに入り浸る特定のメンツ、巨大おにぎり、手に描いたラクガキ、おいしい料理、「ただいま」とともに現れる笑顔。

振り返ってみて一番印象的なのは、笑って話をしてきた日々そのものです。特別なイベントよりも、何気ない会話、何気ない日常が幸せな時間を感じられます。笑顔の絶えない2か月間でした。

「スウェーデンで会おう」大学生活最大の約束をしました。この約束を達成する日が楽しみでなりません。

大学生活に、こんなにも楽しい思い出ができたことを誇りに思います。将来、人生を振り返ったとき、大学生活に最高の思い出ができたと思います。

機会を与えてくださりサポートしていただいたセンターのみなさん。楽しい思い出をくれたサマースクール生。そして、思い出作りに頑張ってきたチューターズ。みなさんがいたからこそこの2か月間でした。本当にありがとうございました！



「サマスクチューターを終えて」

応用生物科学部1年 坂井 悠里

サマスクが終わってしまい、部活以外大してやることのない夏休みを送る今、毎日のように自転車で通った学外研、昼下がりにくらいから始まるくせにずーっとずーっと続いて気がつけば丑三つ時も過ぎていたパーティ、カラオケ・名古屋観光などの様々なイベント、たくさんの方が思い出されます。

大学に入学して間もなく、サマスクが始まりました。自分がチューターができるようになった時はとて

も嬉しかったのに、初日、まったくうまく話すことができなくてとてもへこみました。しかも先輩チューターは、すぐにサマスクのみんなと打ち解けているように見えて、これから先大丈夫かな、と心配でした。しかし、頼もしい先輩チューター、いつもにぎやかで一緒にいるとすごく元気をもらえるスウェーデンズ、とっても温かくて優しい韓国のみんなのおかげで、学外研でのあいさつが「こんばんは」

からいつの間にか「ただいま！」になっていました。学外研に帰ると、みんなが「おかえりー」と迎えてくれました。フォーラムに出席して、みんながどれだけ頑張って日本語を勉強して、どれだけ日本に来ることを楽しみにしていたのかを知り、サマスタ生全員に「日本はすごい良かった」と思ってもらえるようにしなきゃな、と思いました。フェアウェルパーティで「また会える日まで」を歌ったとき、ぼろぼろ泣いて涙が止まらなくて、本当に楽しい2か月だったんだな、と改めて思いました。

先輩チューターのみなさん、私は1年生で、先輩



方の後ろに金魚の糞のようにくっついていただけだったんじゃないか、と思ったり、困ったことが起きた時は何の役にも立たなかったんじゃないか、と思ったりしますが、サマスタチューターがこんなに楽しくて、みんなとのお別れがこんなに辛くなるなんて、想像していませんでした。

いざ文章に書こうとするとなかなかうまく書けません、頭の中ではみんなと過ごした毎日がびゅんびゅん蘇っています。思い出すと思わずにっこりしてしまう、そんな感じです。



「サマースクール発展のために」

教育学部3年 小島 秀祐

私はこのサマースクールでかけがえのない友人と出会うことができました。彼らはいつも元気で、私も彼らから多くの元気をもらいました。もちろん、日本人のチューターの仲間や留学生センターの



方々、日本語クラスの先生方、そして西川さんご夫妻からも、天ぶらの揚げ方を始め、たくさんのことを勉強させていただきました。この場を借りてお礼を言わせていただきます。ありがとうございました。

このサマースクールは、他国の同じ年代の人々に日本の文化を学んでもらうだけのものではないと思います。その相手をする日本人チューターにも、他国の文化について触れる機会を提供すると共に、日本の文化について再度目を向ける機会を与えてくれます。例えば、私はスウェーデンに日本のアニメがあふれていることを知りませんでした。それほど日本のアニメ文化がビジネスとして確立していることを知らなかったからです。私たちは自国の文化や経済、置かれている状況にもっと目を向けるべきだと思います。だからその第一歩として、その契機を与

えてくれるサマースクールにしろ、交換留学にしろ、もっと他国の人と触れ合う時間を大切にすべきだと感じました。それが真の国際理解なのではないでしょうか。

今後のサマースクールの発展を願って、2点、改善すべきと思う点を挙げます。

1つは、日本語クラスにチューターが参加するシステムを確立することです。日本語の授業は、先生方が苦労を重ねて工夫していらっしゃると思いますが、どうしても文法の時間は退屈になりがちです。でも考えてみてください。日本人の友達が近くで一緒に授業を聞いているなら、彼を笑わせるために例文を工夫して「ムカデはおいしいでしょうが、私は食べたくありません。」と言ってくるかもしれません。そうなったら、授業は退屈でなくなります。是非、日本語クラスに日本人チューターを参加させるべきです。そうはいつてもチューターも授業があつて忙しいのが現実です。そこで、日本語教授法というクラスの中で、留学生だけでなく、日本人にも単位認定

を認め、ひとつの授業として確立してみてもいいのではないでしょうか。外国で日本語を教えたい日本人は年々増加しているのが現状です。日本人が英語を学んで世界に羽ばたくことも大切ですが、外国人も日本語を学んで私たちに少し歩み寄るいい機会になると思います。

2つ目は、留学生の居住環境の改善です。彼らは招待されて岐阜に来ているのですから、快適な生活環境で生活する権利があると思います。逆に、快適な生活環境がないなら、招待すべきじゃないと考えます。シャワールームを男女別に1つずつつくるべきだし、何より部屋にクーラーをつけるべきです。せっかく日本に来てくれたのに嫌な想いをして帰ったら、二度と日本に来たくないと思うかもしれません。国立大学ゆえの台所事情も理解しているつもりですが、何とか改善していただけないでしょうか？

以上の2点を改善すれば、胸を張って岐阜大学を留学先として紹介できます。よろしくお祈りします。

「楽しかったね！！！」

教育学部2年 松野 綾野

今年は昨年に続き、2度目のチューターでした。経験者チューターとして、新しくチューターに加わった仲間に様々なことを伝えていくと共に、昨年とはまた違った“サマースクール2009”を作ろう！というのが、私の今年のサマースクールに掛けた秘かな目標でした。サマースクールが終わって2か月ほど経った今、彼らとの思い出を振り返ってみると、その目標が達成できて良かったという思いと満足感で、胸がいっぱいになります。

今年のサマースク生は昨年とは違い、騒いでもそんなにうるさくならなかったり、昨年よりも早く部屋に戻り朝は早くから起きるなど、とても規則正しい生活をしていたなあという感じがしました。2回のサマースクールを通して、サマースク生も年度によってその性格が全然違うという、当たり前のようなことも改めて実感できました。

今年は、サマースク生と仲良くなるだけでなく、できるだけたくさんの楽しい思い出をつくってもらおうと、自分なりに動くことができたと思います。昨年のサマースクールで先輩チューターがやってくれ

ていたことを、今年は自分たちがやっていかなければならないというプレッシャーもありましたが、今年も集まったとても愉快的チューターの仲間たちと共に、昨年とは違ったサマースクールを創り上げることができました。ウェルカムパーティーから最後のフェアウェルパーティーまで、たった2ヶ月ほどしかありませんが、この期間は私の大学生活のなかで、最もキラキラした時間とも言えるほど充実した





時間です。パーティーなどの行事はもちろん、一緒に買い物に行ったり、日本の料理を作って食べたり、ホテルを見に行ったり、ボーリングをしたり…と、本当にたくさんのかげがえのない思い出ができました。私自身にもすごく楽しい思い出ができましたが、一緒に過ごしたサマस्क生も同じことを感じてくれていたのではないかなあと考えています。2か月間、私はサマस्क生や他のチューターと一緒に、毎日お腹が振れるくらい笑っていた気がするし、いつも楽しい！や、おもしろい！という言葉が発していた気がします。だから、今年のサマースクールを私が一言でコメントするならば、とても単純ですが「楽しかったね!!!」の一言に尽きます。また、私が今年サマस्क生と別れるときに必ず言っていた言葉が、「またね!」という言葉です。去年は別れるのが辛すぎて考える余裕もなく、ただ「バイバイ!」と言って泣いていた気がします。今年はまだいつか会えることを信じて、そしてまた会いたいね!という意味も込めて、全てのサマस्क生に「ま



たね!」という言葉かけることができました。

2度目のチューターは、私自身すごく考えさせられることも多く、チューターや他の日本人との間でのサマスクの位置づけで問題が生じたり、サマस्क生に言いたくないようなことも注意しなければならなかったりと苦しいことも少なくありませんでしたが、サマスクに関わるみんなの笑顔とキラキラした毎日の発見や思い出によって、今年の夏もやはり素晴らしいものになりました。今年もかけがえのない経験をさせていただくことができたこと、すごく感謝しています。サマスクに参加してくれたスウェーデンズやコリアンズ、一緒にいろいろ企画し、楽しい思い出を作ろうと頑張ったチューター、様々な面でサポートをしてくださった先生方、留学生課の方々、西川さん、郡上のホストファミリーの方々等、サマスクに関わる全ての人にこの場を借りてお礼を言いたいと思います。最高の2か月を、本当にありがとうございました。

「きずな」

応用生物科学部4年 中島 のぞみ

学外研から大学までは自転車です。大きな坂を降りて田んぼの道、堤防の道を抜けて行きます。早朝の空気の中で夏の訪れを感じるこの時間が好きでした。

ちょっとしたきっかけで始めたチューターだったけど、いつのまにか、サマースクールのない夏なんて考えられなくなっていました。大学に入学してから毎年このサマースクールに関わってきましたが、

この時ほどこんなにも誰かと強い結びつきを感じる時はありません。こんなにもはっきりと自分の成長を感じる事も。例えば朝、バスに乗る皆を見送る時の「いってきます」の笑顔。最後の夜、サプライズで贈ってくれたあの歌。

チューターの醍醐味はそんな些細なものの中にあるんだと思います。



「大大大」

工学研究科1年 田邊 圭佑

すごく大変だったけど、とても楽しくて、めっちゃ充実してた2ヶ月間でした。これほどの「やりきった感」を味わえる機会はそうそうないと思います。……でもというか、やはりというか、初めてチューターという役目をもらったということもあり、サマースクールが始まる前はとても不安でした。

みんなと仲良くなれるのか、日本の文化を紹介出来るのか、ちゃんと自分の責任を果たせるのか、考えても切りのないことばかり考えてました。それと同時に、全く逆で「自分がいるから今年のサマースクールの参加学生はきっと楽しい思い出を残せるはず」という無根拠な自信もありました。

いざサマースクールが始まると、流れる時間が早いこと早いこと。もう楽しくて、その時間の流れに置いていかれないようにするのが精一杯。なにがあんなに楽しかったのか今になって考えるとよくわか

らないけど。

そのなかで、今回改めて集団で生活する事の難しさを感じました。みんなで行動するのはやっぱり大変。今から振り返ると、あそこでああしとけばよかったなと思う事はたくさんあるけど、それを言うのはちょっと贅沢な気がするのでやめときます。と同時にみんなから多くの事を学ばせてもらいました。今回のこのメンバーだったからこそ、たくさん思い出が作れたんだと思います。

思い起こせば、1年前。偶然サマースクールの歓迎会をやってる横を通りかかったのがきっかけでした。「なんて楽しそうなんだ！」と直感して来年は必ずチューターをやろうと胸に誓った日の事を忘れません。

念願叶って、今年チューターをやってみた感想は直感通り「なんて楽しいんだ！」でした。具体的な



話は、しだすと終わりが無くなっちゃうんでここで
は割愛します。

2か月という短い間でしたが、サマस्क生のみん

な・チューターズ、一緒に過ごしてくれてありがと
う。そして、大学の先生方、職員のみなさん、学外
研の管理人さん、お世話になりました。

「友情は国境を越えた！」

地域科学部2年 半田 実里

今回サマスクのプログラムにチューターとして参
加して、本当に2か月間充実した日々を過ごすこと
ができました。さらに、昨年参加することができな
かった分、今年思いっきり楽しむことができたと思
います。

私は部活動とサマスクを両立するという形での参
加でした。大会や練習の予定が入り、参加すること
のできない行事もありましたが、参加できるときは
精一杯楽しむことができたと思っています。今年度
は、部活動に参加するサマスク生が多かったよう
で、私自身が毎日のように練習があったのでみんな
と「今日の練習疲れた～。〇〇部はどんなことやっ
たの？楽しかった？」という会話ができたことも私
が自身の活動を無理せず両立できた理由だと思いま
す。みんなが「筋肉が痛い…。」と言っている姿を
見てもなんだか嬉しくなりました。更に、スウェー
デンには大学内において部活動がないらしいので、
このような活動に参加できて良かったと思います。
そして、2か月間のスウェーデンの学生との方が仲
良くなってしまおうかなとも思いましたが、韓国の学

生も個性豊かですぐにみんなとも打ち解けることが
できました。私は、第二外国語で韓国語を専攻して
いるので、少しでも会話をすることを楽しみにして
いました。会話といっても「今日何があったの？」
や「楽しかった？」という簡単な会話ではありまし
た。これからもっと頑張って勉強したいという気
持ちは芽生えましたし、良い経験になりました。ほ
かにもたくさんの楽しかったことや嬉しかったこと
がありましたが、少しはもちろん嫌なことや悲し
かったこともありましたが、とても書ききれぬ量で
はないのでこのくらいにしておきます。

今回参加したことにより、これからも友人でいた
いと思える人がたくさんできました。だから、絶対
スウェーデンにも韓国にもみんなに会いに行きま
す。今回本当に参加することができて良かったで
す。関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱい
です。そして、チューターの皆さんにも迷惑をたく
さんかけてしまいました。皆さんと行なうことが
できてとてもよかったです。また来年も是非参加し
たいと思います。ありがとうございました。



「素敵な出会い，最高の夏，心からありがとう」

地域科学部2年 箕浦 みさき

ありがとう。長いようでとても短い2か月間を振り返り，まず初めにでてくる言葉です。私は今年2度目のサマースクールチューターをさせていただきました。昨年は初心者で，先輩方から教わることばかりでしたが，今年は去年の経験を踏まえて，引張っていく立場でもありました。2か月というのは過ごしてみればあっという間で，その短い間にどれだけ楽しい思い出をつくってもらえるか，充実した時間を過ごしてもらえるか，考える点はいろいろありました。初めて訪れる土地で2か月（または1か月）暮らすというのは留学生それぞれ大きな楽しみの中に不安もあると思います。その点においてチューターがいかに皆をフォローできるかというのが重要な課題です。

6月に入りサマースクールがはじまってみると，驚くほど早く時は経ち，そしてそれにともなって皆の絆も深まりました。今年はウェルカムやミッドサマーなどのパーティーはもちろん，お好み焼きなど日本料理を全員でいっしょにつくって食べる日をつくったり，韓国とスウェーデンの留学生がはやく仲良くできるよう韓国料理をつくる日をつくったり，できる限りみんなで何かできるよう様々な計画をたてました。みんなでホテルを見に行ったり，サブライズで開いたバースデーパーティーなど，みんながそれぞれに喜んでいる姿は今でも思い起こされま

す。本当に楽しいひと時でした。

けれども2か月いっしょにすごしていれば，もちろんトラブルも起きます。そのたびにチューター同士で，時にはサマースク生とも話し合い，なんとか乗り切りました。楽しいばかりの毎日ではありませんでしたが，それでも今では笑って話せるようなことがほとんどです。

この2か月は普段淡々とした大学生活をおくっている私にとって本当に毎日がきらきらした日々でした。今年の夏は夢中になっていたバイトにもほとんど行かず（昨年サマースクールの楽しさを知って今年はそうすると決めていました），サマースクール中心の生活でしたが，その分皆と多く関わることができ，サポートできることも多かったと思います。そして私自身が，彼らから学ぶこともたくさんありました。

2か月という短い間にこんなにも強い，一生の絆がうまれるのは本当に奇跡だと思います。このサマースクールに関わっていらっしゃった先生方，留学生課の方，全ての方のご協力あってのおかげです。本当にありがとうございました。チューターのみんな，サマースクール参加者のみんなも本当にありがとう！

そしてこの素敵な出会いに，最高の夏に，心からありがとう。



宿舎チューター名簿

（学年順・50音順）

No.	氏名	所属学部
1	田邊圭佑	工学研究科機械システム工学専攻 1年
2	中島のぞみ	応用生物科学部獣医学課程 4年
3	藤井華子	教育学部学校教育講座 4年
4	三矢雅之	工学部社会基盤工学科 4年
5	小島秀祐	教育学部英語教育講座 3年
6	原田剛志	工学部社会基盤工学科 3年

No.	氏名	所属学部
7	依田芽生	教育学部生涯教育課程 3年
8	蒲原真奈美	教育学部理科教育講座 2年
9	半田実里	地域科学部 2年
10	松野綾野	教育学部理科教育講座 2年
11	箕浦みさき	地域科学部 2年
12	坂井悠里	応用生物科学部食品生命科学課程 1年



サマースクール感想文

サマースクールに参加した学生たちが書いた作文をご紹介します。サマースクールで感じたこと、日ごろ考えていることなど自由に書いてもらいました。一人ひとりの個性あふれる作文をお楽しみください。



「日本について 考え」

ヨハン・エク

今年の夏は本当にちがいます。私はたいてい夏休みにアルバイトをします。でも今年の夏休み私はぎふに住んでいてぎふ大学で勉強しています。

日本とスウェーデンをくらべて、たくさんちがうことがあります。日本はスウェーデンよりあついです。そしてぎふは本当にあついです。毎日大学に自転車で行く時汗がふきだします。

ぎふ大学はとてもいい大学だと思います。いい先生のおかげさまで。先生の日本語がわかりやすいと思います。そしていい教科書を使います。

ぎふにはたくさんもりと山があるからとてもきれいな町だと思います。山にのぼるのがたのしいと思って、ぎふでそのことがいろいろなところできます。そしてながら川は町の中にあるからおよくともできます。

日本の食べ物といえばすしです。スウェーデンにもすしがありますが、日本のすしはスウェーデンのよりおいしいです。そして私は日本のカレーが大好きです。

今までたくさんおもしろくてたのしいことがおきたけど一番たのしかったのは八まんに行ったことです。ぐじょはとてもきれいな町だと思います。ホストファミリーはとてもしんせつでした。ゴルフをしたり、高山に行ったり、おいしい食べ物をたべたりしました。私はもういちどホストファミリーの家にあそびに行きたいです。

この夏休みは本当におもしろくて今までたくさんあたらしいけいけんができました。もっとたのしいけいけんができるといいんですが。



「郡上と ホームステイ」

マヤ・ファルケ

岐阜に留学した時、郡上に行ったことは一番おもしろかったと思います。郡上はとてもきれいな村です。その村の中に吉田川があります。そして、郡上のまわりがたくさん高い山がありますから、私は郡上のしぜんと村が大好きです。ホストファミリーにあうまで、ほんとにしんぱいしました。「やさしくなかったら、どうする？」と思ったけどほんとうに、私のホームステイはすばらしくなりました。ホストのお母さんとお父さんと妹はとてもやさしくていいホストファミリーだったと思います。まず、いっしょにおんせんに行きました。それは私がはじめたおんせんに入った時でした。おんせんのカフェのかいだんで、日本人の男の人がねていました。私は「その男は死んでいるみたい。大丈夫かな・・・」と思ったので、ほんとにしんぱいしました。でも、かぞくはわらった、「それは日本でふつうですよ」と言っていました。そのけいけんはとてもおもしろかったです。次の日、ほらあなに行きました。とてもきれいでふしぎですが妹はちょっと不安になりました。そして、ほらあなで私たちはこうもりを見ました。ほんとにかわいいと思います！ある日の夕べ、郡上おどりをしました。ホストファミリーからゆかたをかしてもらいました。そしてそのあとでまつりに行きました。まずさむらいパレードを見たり、まつりの食物を食べたり、ゲームをしたりしました。そしてさいごに全部の郡上の人と郡上おどりをしました。「夢みたいだ」と思って、ほんとにたのしかったです。今、ホストファミリーに会えなくて、さみしい。さよならの時、みんなが泣きました。うつくしいしぜんと村とかぞくのために、私はぜったい郡上に帰

ります。だから、郡上は岐阜に留学をしていろいろなことをした中で一番おもしろかったと思います。



「日本の印象」

グンナル・ホルムベルグ

日本に来た時飛行機は十時間以上かかってあまり寝られませんでした。それに、ホテルはよやくしておかなかったから、初日は大変でした。成田空港に着いて、東京にあまり詳しくなかったから、ぐうぜんに変な新宿という、外国人には大変な所に行くことになりました。日本の都会の新宿の第一印象はあまり良くなかったです。どこでもうるさくて、とても疲れたから大変でした。それに、レストランの注文のしかたはスウェーデンのと違って、めったにカードで払えません。一日中とまる所をさがして、カプセルホテルを見付けました。そのカプセルホテルの階下にはおかまバーがありました。疲れたし、ちょっと変な所に着いたから、第一印象はあまり良くなって初めてホームシックになりました。しかし初日の後印象はすぐ変わりました。

次の日は友達の東京に住んでいるお兄さんにてつだってもらいました。いいホテルをよやくしたり、色々な楽しいことをしたりしてどんどん日本になれてきました。初日の後はいい経験ばかりで、印象はよくなりました。

今の印象は最初のと全く違います。日本は変な所がありますが、日本の文化と習慣が分かるようになったら、その変な所が減ります。また、日本が分かれば分かるほど、面白くなります。



「私の言葉リスト」

ジェシカ・カルソン

帰りたくない！

日本に来てから色々べんりな言葉をたくさん習いました。最近学外研で一番よく使うのは「帰りたく

ない」です。理由が多くあります。

日本に住んでいる時間は本当に楽しかったです。いい思い出をたくさん作りました。

初めは東京、浅草に泊まっていました。その時、最初のべんりな単語のカツ丼を聞きました。とてもべんりでよく使います。

次は「むかで」です。学外研に着いた時、すぐにむかでのことを注意されました。初めてのむかで見えた時から勝負が始まりました。むかでチームまだ負けています。

岐阜に来る前に、私はカラオケに行っていたから、のどが痛くなって、声がなくなりました。大丈夫なのにチューターによく「大丈夫？」と聞かれました。「親切だなー」と思いました。

岐阜に来てからホテルを見に行きました。すごくきれいで、とても感動しました。一緒に時を過ごしたチューターに感謝したいです。

いつも皆でUNOをしたり、色々なことを話したりしてとても楽しかったです。新しい言葉も習いました。言葉は「ずるい」です。

ほかの面白い経験は能をやりました。正座してべんりな言葉を聞きました。その後で正座したので足がしびれました。

2週間前にマーサでゆかたを買いました。よくマーサへ買いに行くから、言葉の「試着する」はよく覚えています。

この間郡上へホームステイのために行きました。私のホームステイ家族はとてもやさしかったです。一緒に面白いことをたくさんやりました。滝を見に行ったり、流しそうめんを食べたり、郡上の祭りに行ったりしました。ホームステイのお母さんに新しい言葉を教えてもらいました。それは「金魚」です。祭りで金魚を取ったからです。

最後のべんりな言葉はサマースクールの友だちと一緒に作ったのです。

皆でレストランへ食べに行きました。その時から「ケーキ放題」は本物の言葉になりました。



「日本語が下手なのに、友だち」

テレース・カルソン

日本に来る前に、一番心配したことはやはり私の一年間に習った日本語は十分かどうかです。2か月一緒に住むかわいそうな大学生にごかいされるかどうかなどです。

サマースクールの初めに、ちょっと心配していたので、私は気をつけて、あまりチューターと話しませんでした。

Welcome Party の時、自己紹介をされましたし、アルコールを飲んだからやっとなチューターズと話し始めました。チューターたちは覚悟していました。辛抱強くに私たちの変な日本語をきいてくれたので、かまわないで色々な話をしました。

ミッドサマーパーティーの時、ちょっとはやいけどチューターズは私の誕生日祝い事をしました。誕生日のおくりものとしてすいかを貰いました。本当に感動しました。本当の誕生日に焼き肉を食べに行ったり、色々なおくりものを貰ったり、みんなのやさしさを感じました。

チューターズはこの2か月私たちをいろいろ助けてくれました。誰も知らない国にいるし、文化の違いも知らないのだから、本当に助かりました。チューターがいなかったら、私たちの日本語はこんなはやく向上しないと思います。

サマースクールがもうすぐ終わるので、私の荷物をエアメールで送るなら、服のかわりにチューターをスーツケースに入れて、スウェーデンに帰りたいです。それならチューターと別れる必要がありません。

チューターと一緒にいる時がこのサマースクールの間の一番大切な時間です。

私の新しい目的は留学生として岐阜に戻ることです。そうすればもう一度チューターに会えます。

チューターのみなさん、本当にありがとうございました。いつか、また会いましょう！♥



「私が日本で過ごした夏」

ペトルス・キュエンディス

私は今、1ヶ月岐阜にいる。ここに来て本当に良かった。着いてから色々な面白いことを経験した。スウェーデンに帰った後、良い思い出があると思う。岐阜に着く前に東京にいて、すごく楽しかった。でも、東京と岐阜はぜんぜん違うから驚いて心配して、「これから2ヶ月どうしよう?!」と思っていたけど、何とか今までとても面白かった。色々な人と会って、友だちを作って、色々な所を見た。この機会があって感謝している。来年来るスウェーデン人と韓国人も楽しくて岐阜で夏を過ごせると良い。

最初の日から色々な活動があった。最近居酒屋の飲み放題のことをしに行き、「マリノ」というレストランでケーキ食べ放題のことをしに行った。太鼓をしに行き、能という伝統的な日本の劇も見に行った。今週、名古屋に相撲を見に行くから楽しみだ。岐阜の色々な所を知れば色々な面白いことができる。岐阜城まで上って、鶉飼いができて、自転車でどこでも行ける。学外研の近くにマーサ21とモレラとロフトがあるから楽しんで買い物ができる。

チューターたちにはお世話をしてくれたので感謝している。チューターたちのおかげで本当に楽しかった。留学生全員に優しく、自分の義務以上の事してくれた。私は事故にあって、その時に気分が悪くなって悲しかった。しかし、チューターたちが気分を良くしてくれて、色々な所に連れて行ってくれた。そんな人が寮にいて良かった。私を色々な事で手伝ってくれてありがたいし、チューターたちも色々な事を学んで、私たちと一緒に夏を過ごして、良い思い出を作れたらいい。

私は日本に来た、そして好奇心があったから、日本語と日本の文化についてもっと学んだ。私にとって一番大事で面白いのは日本人と日本語でしゃべって、日本語がもっとうまくなることだ。だから、先生たちの知識を利用して、チューターと話せる機会も利用したほうがいい。

今年の夏は岐阜で楽しく過ごした。



「ホームステイ」

クリストファ・クラソン

私はホームステイ時ののがとっても楽しかった。その家族といっしょに日常生活の色々なことをけいけんしました。DVDをレンタルすることからバーベキューの買い物までいっぱいおもしろいことがありました。

私はさらにさまざまな食べ物を食べてみました。とくべつにおいしかった物はかいとはちの子でした。とてもかんげいされたので、日本の家族を見つけたようにかんじました。

私とみんなは同じしゅみ、たとえばゲームとアニメーションがありました。それらの日常生活のことが私のきほんになりました。

しかしまれなこともたいせつだと思います。たとえば私と家族はきれいなたきを見ました。そんなけいけんは日本の自然の知識をふやしました。

日本とスウェーデンは同じじゃないから、日本で色々な知るのは大変です。言葉と生活のそついが多かったです。そして言葉を話すことと生活をけいけんすることはとてもいいことです。

それでホームステイはたくさん日本語を話したり、生活のけいけんするために一番いい方法だと思います。



「帰りたくない」

ヒューゴ・コレルト

日本ですごした時間はとても楽しかったと思います。日本人についての印象はとてもやさしくて、元気で、親切な人だということです。

岐阜にいる時、たくさんすぐくよい経験がありました。たとえば、ぼんおどりと能はとてもよかったです。一番よかったことは剣道のししょうとの勝負でした。もう一つはホームステイに行った時、日本の生活を経験できたことです。ひじょうに楽し

かったです。岐阜大学の中でいろいろな部活がありました。だからたいそうに入りました。たいそうをする人達は私をげきれいしました。みんなはとても元気で、親切な人です。そこですごした時はひじょうに楽しくて、よかったです。

ほかのおもしろい経験はどうげいをしたことです。むずかしかったけれど楽しかったです。山にのぼって、岐阜城を見に行きました。岐阜城はとてもきれいだと思いました。

山の一番上のけしきは大変きれいでした。下におりた時、私達はあぶなくておもしろい経験をしました。山を走っておりまして。十五分しかかかりませんでした。

学外研へ初めて来た時にとっても心配していたので、何をすべきか、分かりませんでした。その時にチューターが教えてくれました。

それはとてもよかったです。チューターにはとても感謝しています。一緒にすごして、友達になりました。その中には一生の友達もいます。神様のような人々です！

先生にも感謝しています。本当にお世話になりました。岐阜での生活は本当に楽しかったので、まだ帰りたくない！



「日本で習ったこと」

エレン・モスベク

岐阜で留学するのが本当によかったです。日本に来る前に日本についてたくさん習いましたが、ただかんこうするだけでは日本の文学や生活がよくわからないと思います。

たくさん面白い経験をいただきました。たとえばホームステイをした時、書道と茶道をやってみました。そして大学で能を見ました。でも一番楽しいことはチューターさんといっしょに遊んだことです。色々なことを見せてもらいました。飲み放題に行ったり、こうえんで遊んだり、カラオケに行ったり、パーティーをしたりしました。

初めはクラスはちょっと大変でしたが、チューターさんと話したかったから授業中にいっしょうけんめい勉強しました。でもスウェーデンに比べると

日本はやっぱり違います。時々学校で思い違いが起きます。大学の規則は違うのでとてもびっくりしました。でもしっぱいをしてもらいましょう。みんなはすごく優しいです。

私はぜったい日本にもう一回留学したいです。でもお金はもんだいです。日本はぶっかが高くして生活はむずかしいと思います。でもにゅうせいひんや肉は高価なのに、たくさんよくて安い店があります。百円店は私の一番好きな店です。たくさんべんりな物を買えるので留学してからよく買いに行きます。そこで家族にいいおみやげを買いました。スウェーデンにも百円店が欲しいです。

今から二週間で岐阜のサマーコースは終わります。みんなサマーコースの後で一週間旅しました。サマーコースの間に習ったことを使いたいから本当に楽しみです。



「岐阜と 体操の関係」

ビクター・ニルソン

岐阜に着く前に私は、サマーコースが始まるのをとても楽しみにしていました。岐阜の前には東京のことはもうあきてきました。大きすぎて、人がいっぱいいて、大変でした。

新幹線で東京から出て来たときのことをよく覚えています。笑顔で岐阜を目指していました。

岐阜は暑いと聞きましたが、今まではそれ以外の悪いところはないと思います。ちょっと田舎ですし、ペースは東京に比べたら、ゆっくりですし、とても住みやすいところだと思います。私たちが住んでいる学外研は大学とちょっと離れていますが、そんな大変なことではないです。みんなと一緒に暮らせることはとても楽しいことです。つまらない日は今まで一つもないです。スウェーデン人、韓国人、それからチューターのみなさんとは毎日楽しく過ごしています。一緒にしゃべったり、ゲームをしたり、カラオケに行ったりなどはよくすることです。岐阜の観光地や岐阜にあるモールなどにも行きました。これだけは大変面白い経験になるにちがいないですが、もっとあります。岐大にはサークルと部活がいっぱいあります。これをやってみることができ

ます。私は今体操部に入っています。練習は長いですが、習うことは思うより多いです。体操部はもちろん、日本語も先輩後輩の関係も習うことができます。私の場合、先輩たちはいつもとても優しいです。何でも手伝いますし、いろいろなことを教えます。

つまり、部活の専門以外に習うことがいっぱいあります。ルンド大学から来たサマーコースの参加者は今まで部活とサークルにあまり入らなかったようですが、ぜひ入ってみてください。



「岐阜での経験」

ティム・パルムローズ

私の岐阜生活はすごく楽しくて、面白いです。東京より岐阜のほうが好きです。私はスウェーデンから来たので静かな場所が好きです。スウェーデンの平静さになっているからです。

岐阜の悪いことがあまり多くないがふたつのすごく大変な悪いことがあります。それは天気と岐阜の道の狭さです。日本と特に岐阜の暑さはすごく大変だと思います。そして、岐阜の歩道と自転車に乗る道は狭すぎます。

しかし、岐阜のいいことがとても多いのでさっき書いた大変なことがかたんに無くなると思います。そのいいことは例えば、岐阜大学にはとてもいいことがあります。先生たちの教え方はいいからたくさんを教えてください。そして、岐阜大学で二つの部活に入りました。柔道と体操に入りました。部活のために私の留学生活の楽しさが上がりました。大学の食堂が作った食べ物はいつもとてもおいしかったです。

しかし、岐阜での私の一番好きなことはぜったいに岐阜の人々だと思います。みなはすごく優しく、いつも手伝ってくれます。岐阜の人々の中で私の一番好きな人たちは留學生たちのチューターさんです。チューターたちはとてもすばらしい人々だと思います。いっしょの時はいつもすごく楽しいです。この夏の成功はほんとうにチューターたちのおかげです。神様のような人々です！（^^）

私の人生の中でこの夏休みは一番楽しくて、大切だと思います。スウェーデンと比べて岐阜はとても

いい所だと思います。岐阜大学に留学するために一生懸命にルンド大学で勉強しなければなりません。

チューターさんたちと先生たちのおかげでたくさんならいました。

一生岐阜にいたいです。



**「おもしろいが
ちょっとふしぎな国」**

ヨハン・レンステト

私は日本で色々なおもしろいことを経験しました。スウェーデンに帰る時、嬉しい思い出を持って帰ります。悪いことを経験しなかったけど不思議なことがたくさんありました。たとえば日本人は英語が書いてあるTシャツがかっこいいと思っていますが、このことばはとてもへんですから意味はさっぱりわかりません。

日本のトイレもおもしろくて、へんだと思います。じょうほうはあまりわからないので、使い方はむずかしいです。ほかの不思議なことは一番近いバローというスーパーで同じ歌をいつも聞いたことです。

日本の大学のサークルとクラブはスウェーデンのと違います。スウェーデンにはサークルとクラブがありません。サークルとクラブに入ったらほかの人に会えました。

むかではこわかったのに、学外研にいるのはすばらしかったです。チューターとよく会話したから日本語を話すのは前より上手になりました。学外研にインターネットがありませんがそのことはたぶんよかったです。代わりに色々な所に行ったり、勉強したり、チューターとあそんだりしました。

エクスカッションはとてもおもしろかったです。活動もたくさんありました。郡上でのホームステイは本当に楽しかったです。日本の生活を前よりよく理解しました。スウェーデンに帰る時、日本からのたくさんのうれしい思い出を持っていきます。



**「サマースクールに
ついて」**

ロンクイスト・アンナ

この夏休みはとても楽しかったです。色々な事をしました。

岐阜市は蒸し暑いです。私は屋外でいつも汗をかきます。日本はスウェーデンより暑いです。

日本に来る前にたくさんムカデがいると思いました。

岐阜大学のサマースクールでたくさんの事を習いました。それで私の日本語がよくなりました。

日本とスウェーデンの同じ事は盆踊りとミッドサマーの踊りだと思います。

ホームステイはとても楽しかったです。私のホストファミリーから厚い持て成しを受けました。色々な楽しい経験をしました。私の好きな経験はラフティングです。すばらしい経験です。そして、毎日おいしい食べ物を食べました。私は日本の料理が大好きです。私は郡上八幡も大好きです。とてもきれいでしずかな村だと思いました。

岐阜に住む時にたくさん色々な事をしました。私は金華山に二回のほりました。金華山からの景色はとてもきれいだと思います。金華山の上でリスの村がありました。そこでリスにえさをやったり撫でたりしました。とても楽しかったです。

このサマースクールはとてもすばらしいです。日本へ来る前に日本語はむずかしいと思いました。でも日本で毎日れんしゅしました。そして今私の日本語はよくなりました。

私は日本からたくさんおもしろい思い出をスウェーデンまで持って帰ります。



「ブロックバスター」

シモン・セゲルブROMレクス

日本に来てからびっくりしたことがたくさんあります。たとえば、日本人が外人を見るとびっくりす

ることや、歩道で自転車に乗ることです。でも一番びっくりしたことは日本人が面白い映画に興味がないことです。

私は日本映画のおかげで日本に興味を持ちました。だから日本で会った人と映画について話してみることがあります。しかし日本アニメとハリウッド映画いがい話せません。工学部の学生に会った時、七人の中で二人だけ黒沢明を聞いたことがあると答えて、だれも「東京物語」を見たことはありませんでした。若い日本人は「スパイダーマン」や「ハリー・ポッター」や「ターミネーター」のようなブロックバスターだけ見るようです。それは本当に怖いと思います。スウェーデンのテレビで毎日往年の名画が見られます。（たとえばバスター・キートンの無声映画です。）日本のテレビは駄作だけ放送しているようです。

郡上のホームステイは大変楽しかったです。サマーコースの一番いい経験かも知れませんが、ホームステイのお母さんに小津安二郎の映画が好きだと言うと、お母さんは「そうなんだ……クリント・イーストウッドの映画はどう？」と答えました。

後々のために、最近の子供は両親に古い日本映画を見させられたほうがいいと思います。

たり、色々なことについてチューターたちと話したりしたし、あまりきょうかしよで勉強しなかった。

（すみません！）でも、日本でたくさんしゃべったし、あそびながら勉強できただろう。毎日楽しかったから「あー、今はおそらく一番おもしろい時だよね。もっと楽しくなるのは絶対無理なはずだ」と思った。郡上に行くまで、そう思っていた。

ホームステイファミリーに会った時ちょっときんちょうしたけど、みんなは大変やさしかったし、早く楽しめるようになった。そして、意外なほどホームステイの家族とあそべばあそぶほど楽しくなった。ホームステイファミリーといっしょに色々なおもしろい場所に行ったり、おいしい食べ物を食べたりした。日本の文化を経験したかったら、ホームステイファミリーと住むのが一番いいと思う。私はこの文章を書く時、もう一ヶ月日本にいただけだけど、スウェーデンに持って帰る思い出の中で、一番大切な思い出はおそらくホームステイの家族とあそんだことだ。そして、ホームステイよりもっとおもしろいことが日本にあるかどうか知りたいし、また日本をたんけんしに来るつもりだ。できれば、私のホームステイファミリーといっしょに。

私に岐阜に来させてくれてありがとうございます！



「げきてきな 留学物語」

アルヴィン・スマジス

ずっと日本に行くのはゆめで、2009年6月1日そのゆめはかなった。日本に着いた時、みんなはつかれたし、笑わせやすかったし、日本は違うわくせいのようなものだったから、全部がおもしろかった。なりた空港でみんなは日本のじどうはんばいきもすごくおもしろいと思った。「今よりもっとおもしろくなれるかな？」と思った。そして、サマースクールが始まって、チューターに会って、本当にもっとおもしろくなって、びっくりした。みんなは朝によわいののに、早く大学に行って、勉強した。でも、「勉強した」と言っても、一生けんめい勉強するのはむずかしかった。たしかに、日本語がもっと上手になりたかったけど、日本にいるうちに、できるだけたんけんしたかった。毎日色々な所に行っ



「日本の 留学について」

エリック・ウェンベリ

私は子供のころからいつも日本に行きたかったです。今年の夏私はぎふに住みました。ぎふ市はとてもきれいでおもしろい町だと思います。みなさんによくお世話になりました。

毎朝の授業を楽しんでいます。日本語の授業の後ですごくおもしろい日本の文化についてゼミナールがあります。私は最近サッカーをやっていませんが、ぎふ大学のサッカー部に入りました。ざんねんですが、雨がふったら練習はキャンセルです。

スウェーデンと日本をくらべてたくさん違うことがあります。たとえば自然や食べ物や人々は本当に違います。日本の天気にはびっくりさせられました。雨がふっても、汗をかきます。

学外りょうは私のすんでいる建物です。りょうで

留学生とチューターはいっしょにあそんでいます。おかげさまで日本の生活はとてもしやすいです。チューターたちとパーティーをしたりしよう旅行したりします。

先週の週末私たちはホームステイのファミリーの家に行きました。いっしょにゴルフをやって、居酒屋に行って、高校のやきゆのゲームを見に行きました。今週の週末私はもう一度行きます。本当に楽しみです。

今まで日本は幸せなゆめのような経験です。サマースクールをひらいてくれ、どうもありがとうございます。



「冒険
でしょ、でしょ」

ジョナタン・オーケルンド

子どものころから、私の夢は世界を全部見ることでした。特に、日本に行きたかったです。この夏休みにその夢は少し実現されました。サマースクールを作ったみなさん、どうもありがとうございます！！

日本にいる間は今までたのしかったです。へんなことがあって、たとえばどうろがせまくて車はほしいがわをはしますが、もんだいなかったです。日本に来てすぐなれました。一番たのしかったのは色々な所へ見に行ったことです。岐阜では小山があり、のぼることができるので、よかったです。ゆかたを着て花火を見に行ったのもおもしろいけいけんでした。郡上はとてもきれいでホームステイはたのしかったです。特に、郡上でぼんおどりをおどるのがとてもたのしかったです。

これから、ほかの場所を見に行ったり、写真をとったりすることをたのしみにしています。この私のはじめて両親といっしょじゃない旅ができるまでよくなることをのぞんでいますよ。

私の夢が実現できるかどうかわかりませんが、ぜひ何度も日本にもどりたいです。じゃ、日本か世界に会いましょう！どうぞよろしくおねがいします。



「わすれがたい
おもいで」

イム・ギユナム

かんこくとちかいくに、にほん。かんこくでほんとテレビでみたことはあるけど、くるのはこんどがはじめだった。

にほんのだいいちいんしょうはきれいだった。みちもたてもものなかもとてもきれいだった。いえがすこしひくいのがめずらしかった。

いままでのにっぺいのなかでいちばんおもしろかったのはやっぱりホームステイだった。とてもかていきなかぞくだった。おとうさんとおかあさんがとてもやさしくて、しんせつだった。いっしょにおんせん、はちまんじょうへいった。かぞくといっしょにいくのでとてもおもしろかった。よるにはおとうさんとおかあさんとにほんのぶんかとかせいかつなどをはなした。おかげでかんこくとおなじこととかちがうことがわかった。おかあさんのりょうりはほんとにおいしかった。まいしょくににほんのだいいひょうてきなりょうりをつくってもらった。また、こどもたちがとてもわんぱくなのでとてもおもしろかった。

りょうでチューターたちとよくしゃべるのでにほんごべんきょうのたすけになった。

チューターたちととしがすこしちがわなないので、すぐにしたしくなった。いっしょにケーキを食べにいくとかこうえんにあそびにいくとかいろいろなことをしながら、ほんとうにたのしいじかんをおくった。チューターがいないサマースクールはかんがえられない。

このサマースクールはぜったいわすれがたいおもいもいでだ。



「登ってよかった」

ファン・エンミ

岐阜に来てはじめて迎えた週末。何をしながら5

週末を過ごせばいいのか迷っている時、頭に浮かんだのが去年このサマースクールに参加したクルクルちゃんの「岐阜に行くなら岐阜城に登ってみるのは当然だよ。」という言葉でした。

みんなと一緒に昼ご飯を食べた後、12時半ぐらいに自転車に乗って岐阜城に向かって出発。涼しい風の中を自転車で進むのは本当に気持ちよいことでした。長良川を通過してようやく岐阜公園に到着。木の生い茂っているきれいな公園の中で本当に気持ちよくなって元気で山に登る前の写真を撮りました。この時までは私の前に何が起こるのが全く分かりませんでした。飲み物を買ってゆるゆる山登りを始めました。最初の10分は本当に元気。まわりの木や花などを見ながら気軽に岐阜城に向かうことができました。でも、その後、少しずつ目まいがしたり、おなかが痛くなったり、足がぜんぜん動かなくなったりしました。今ならもう少しで城かなと思っていると里程標に書いてあったのは「まだ1000メートル」。「えっまだまだなの？ どうして？」その里程標を見て本当に泣いてしまいそうになりました。

一緒に登り始めた韓国とスウェーデンの子たちのおおかたは先に城に行ってしまうので私の側に残ってくれたのがキムセとわんぱく3人（ティムとフューゴとピクター）でした。頑張っていると思って歩き始めるとまた動かなくなってまた休み。私のせいでみんなに迷惑をかけて本当に済まないと思いました。でも、みんなは私が「ごめん。」と言うと「大丈夫。頑張ってるね。」と言いながら私をばげましてくれました。この優しい子たちのおかげで諦めずに岐阜城に登ることができました。

岐阜城に登って見下ろした岐阜市の光景は本当に素晴らしかったです。穏やかな町並み、力強く流れている長良川。その景色を見ていると金華山に登るときの苦痛は全て消えました。山に登る時は辛くて登るのを諦めなくなった瞬間もありました。でも、みんなのおかげでその素晴らしい景色を見ることができました。

その景色を見ながら「諦めずに頑張ったのは本当によかったよな。」と思いました。

私をばげましてくれてみんなありがとう。



「みんなが先生」

チョン・スミ

私は日本語が上手じゃないです。ここの岐阜大学にきてからはじめてに日本語を習いました。そんな必要はありませんでした。みんなが先生でした。日本のチューターたちと韓国のともだち、スウェーデンのともだちみんなが、日本語を勉強するようにてつだってくれるし、はげましてくれました。そしてスウェーデンのともだちにも韓国語をおしえる先生にもなりました。ホームステイに行った時も日本のおとうさんに韓国語をおしえました。習うことしかできなかった私も先生になりました。うれしかったです。ひとことしか習わななくてもどる授業じゃなくて、日本語と日本の文化、スウェーデン語と文化と一緒に習えてとてもよかったです。そして、韓国語と文化をすこしでもおしえてもどれくらいかと思えました。

さいごに日本語をいっしょうけんめい勉強して韓国にもどって、ともだちに日本語をおしえる先生になれたらいいなと思います。

みんなありがとう。Tak soo mykke. 고맙습니다。



「郡上八幡」

キム・セヨン

日本伝統の町だと聞いて、行く前から胸がわくわくしました。やはり、とてもきれいな家と風景が私の目をとらえました。むずかしかったけど書道も習って、折り紙もしたし、かわいいこどもたちと会ったことがさらに私をたのしくしてくれました。

そして、ホームステイをするところも、韓国に愛情がいっぱいなおじいさんと会って、私のおじいさんみたいに感じました。たまに韓国語で話をしてくれることもかわいかったです。家ではすごく楽にいられるように私に配慮してくれました。とてもかわいふき、ふゆ、ふみのおかげでさらに笑ってたの

しい時間をおくりましたが、もっと子どもたちと話ができなかったのが残念でした。そして、郡上おどりを見て一緒におどりました。はじめてするすばらしい経験でした。それはとても忘れられない経験として印象にのこりました。郡上八幡での日本の家庭、ゆかた、茶道、まつりなど日本の文化をたくさんまんで、体験して、とてもよかったし、いっしょう記憶にのこるたいせつな経験でした。

んなすばらしい経験をできるようにしてくれた郡上の人々に感謝しています。私と家族になってくれたホームステイのおじさんとおばさんに本当に感謝をつたえたいです。本当にありがとうございました。



「郡上八幡での 3泊4日」

イ・セヨン

今度のサマースクールで私がいちばん楽しく待てたことは、郡上八幡でするホームステイでした。なぜなら、昨年にサマースクールに参加した私のともだちがホームステイについて、とても楽しかったと言ったからです。最初の日にはいろんなことをしたんです。書道はひさしぶりにしたからむずかしかったです。でも、書道の先生が最後に私が好きな字を書いてあるうちわをプレゼントしてくれたのでうれしかったです。小学校に行ったこともたのしかったです。小学生たちが私たちをととても歓迎してくれたことと、最後に女の子が私に折り紙をくれたので感動しました。でも、それより感動したのは郡上八幡に流れる川がととてもきれいなことと、すごくきれいで古い町でした。それは一生忘れられない経験として私に残るでしょう。そして、ホームステイがすこし心配でしたが、ホームステイの家族（おじさんとおばあさん）はととても親切でやさしかったので楽になりました。ホームステイ家族と阿弥陀ヶ滝へ行ったり、日曜日は高山へ行ったりしました。たきは前日、雨だったのですごく激しくて、すばらしかったです。ホームステイで食べた食べ物はすごくおいしかったので、おなかがいっぱいになるまで食べました。郡上おどりもすばらしい経験でした。韓国はあんまりまつりがいないことと、おどりはしないから日本の文化をたくさんたのしむことができました。だからもう一度この郡上おどりに参加したいと思っています。そのほかにした、ゆかたを着たことと、茶道をしたことも韓国ではあんまりできないことなのですばらしい経験をしたと思います。そして、こ

総括とアンケート集計結果

8週間コース参加学生	ルンド大学（スウェーデン）	17名
4週間コース参加学生	ソウル産業大学（韓国）	2名
	木浦大学（韓国）	3名
		計22名

今年度のサマースクール（受入、以下略）は、定員25名で募集を行い、22名の申込があった。昨年度までは参加学生に学費援助をしていたソウル産業大学が、今年度から援助を行なわなくなったため、折からの円高ウォン安も影響し、同校からの参加学生が例年より少なかったが、定員はほぼ満たされたと言っている。

例年、参加学生のサマースクールへのコメントや感想は、筆記によるアンケートと、授業最終日に実施するまとめの会（反省会）で得ている。しかし、今年度はサマースクール受入コーディネーター兩名が7月末より出校が不可能となったため、まとめの会が実施できなかった。まとめの会では、筆記アンケートでは表面に出てきにくい学生の本音を聴取することができ、有益なコメントが多々得られるが、今年度はその機会を失ったことを残念に思っている。

筆記アンケート（A3版2枚）は、サマースクール日程終了直前（7/27）に配付、最後のイベントである歓送会（7/29）までに提出することとし、全参加学生22名から回答を得た。アンケート内容は、日本語授業、日本事情講義、見学と旅行、宿舎とチューター等についてである。以下適宜、アンケート結果を参照しつつ、今年度のサマースクールを総括していきたい。

昨年度から取り組んでいる試み

本サマースクールは、昨年度から、「①学生の安全重視、②地域密着型への志向、③担当者の負担軽減」という3点に焦点を当てて改善を図っている。今年度は、これらを更に一歩進ませることができた一方、新たに見えてきた課題もある。それぞれの項目について、以下に述べる。

まず、「①学生の安全重視」であるが、昨年度は

岐阜大学の平成20年度政策経費（重点施策推進経費）によりスクールバス運行費用を得た。大学キャンパスと宿舎学外合宿研修施設（略称学外研）は約8キロの距離があり、直通の路線バスもない。今年度も、昨年度のバス利用者データと参加学生コメントを添付資料として提出し、単年度予算である同経費を申請し、取得することができた。昨年度は、登校用1便、帰宅用1便の計2便であったが、授業終了後すぐに帰りたい学生と、キャンパスでゆっくり過ごしたい学生の両方がいるため、今年度は帰り2便すなわち計3便を運行したいと申請したが、幸いこちらの希望通りの予算を得ることができた。今年の6、7月は、昨年の猛暑に比して暑さは楽だったものの、梅雨がいつまでも続き、雨に祟られた。そのような天候の中、スクールバスを提供でき良かったと思う。

しかし、通学時の安全はある程度確保できたものの、好奇心旺盛で活発な学生たちは、自転車で縦横無尽に岐阜の町を走り回る。バスより自転車で通学したほうが気持ちいいと主張する学生もいる。それを禁止することはできないし、しようとも思わないが、今年度もやはり自転車事故が発生した。大きな事故は2つで、1つは登校用のスクールバスに乗り遅れた学生が、大急ぎで自転車で大学へ向かう途中に、乗用車と接触するという事故だった。結果的には大きな怪我にはならなかったが、頭を強く打っていることから通院、検査が複数回に及んだ。運悪く郡上プログラム開始前日の事故だったため、学生には同プログラムの参加を見合わせるよう指導した。学生の状態が心配だったのも勿論だが、何かあった場合に郡上のホームステイ受入ご家族に迷惑をかけてもいけないという意識も強く働いた。サマースクール中一番の楽しみであるホームステイができなかったことを学生が非常に残念に思ったことは想像に難

くないが、大学が提供するスクールバスに乗り遅れて自転車で登校し、その結果事故に遭遇したのは、冷たいようだが学生本人の責任であると言わざるを得ない。怪我が深刻なものでなかったことが、何よりであった。

もう1つの事故は、休日の自転車事故である。持っていた傘が前輪に巻き込まれて転倒し、この学生も頭部を打った。休日で大学教職員が対応できず、やむを得ず電話連絡を受けた受入コーディネーターが病院へ行くよう指示した。休日・時間外・急患という条件が重なったため、診療費が跳ね上がり、事故学生が頭を抱えるという事態にもなった。2ヶ月間というサマースクール期間中、参加学生の誰一人として怪我也も病氣もしないということはある得ない。怪我人や病人が出た場合の対応はまだまだ確立しているとは言い難い。来年度以降の大きな課題となるであろう。

2番目に掲げた「②地域密着型への志向」は、着実に進展させた。昨年度、地域を意識してプログラムに新規追加・拡大実施した美濃・土岐・長良川鵜飼の各プログラムは、昨年度の経験を生かして、プログラム内容の選択と集中（美濃・土岐）、実施の取りやめ（鵜飼）とした。前者が好評を博したことは、後掲アンケート結果でも証明されている。また、昨年度は、2007年度まで実施していた京都への1泊旅行を諸事情から取りやめたが、旅行がなくなって残念がっていた学生の様子を見て、今年度は地域を意識した上高地・高山・白川郷を回る1泊旅行を企画した。この旅行の是非について参加学生から直接詳しいフィードバックを得るためには、アンケートで尋ねるよりまとめの会でいろいろ聞いたほうがよいと考え、そうするつもりだった。それが今年度は前述の理由によりまとめの会が実施できなかった。それならばアンケートでこの旅行について問うておけばよかったものを、それも失念してしまった。これは受入コーディネーター土谷の不覚である。幸い旅行に対する不評の声は聞こえてこないで、次回もう一度プログラムに盛り込んで、その時こそは学生のフィードバックを得ようと心している。

3点目の「③担当者の負担軽減」については、昨年度サマースクール専従の非常勤職員を、サマースクール期間中雇用するという大きな一歩を踏み出した。これは自他共に認める成功を収め、今年度も1名を雇用した。先に挙げた自転車事故学生の通院同行や事故後のケアなど、同職員の果たした役割は非

常に大きい。勿論、書類作成や学生への連絡事項伝達、宿舍状況の把握等の業務にも力を発揮してもらい、このポストは今後間違いなく存続すべきものであると確信した。

非常勤職員の雇用によって状況は目覚しく改善しているものの、サマースクールの危機管理の責任体制にはまだまだ甘いところがある。現時点では、事の重大さや緊急度に関わらず、様々な情報が受入コーディネーターに入り、受入コーディネーターがそれぞれケースをどうすべきか判断したり対応したりしているという状況である。こうなるにはやむを得ない事情もあるが、あまりにも特定の人物に情報や責任（何か起きた場合に取らなければならない社会的責任という意味ではなく、臨機応変に判断を下さねばならないという責任）が集中することは、今後安定的に過重な負担を課すことなく事業を継続するためには、望ましいことではない。時間をかけて良策を探っていくべきである。

宿舍施設と教室問題

昨年度、喫緊の課題として提示した宿舍施設の問題（各学生が宿泊する部屋に空調設備がないこと）は、今年度は残念ながら間に合わなかったが、来年度のサマースクール開講までには整うことが決まった。今年度の参加学生は、蒸し暑い宿舍を経験する最後の学生となってしまい申し訳なかったが、大きな懸念が解決することを心から嬉しく思う。

それに対して、日本語授業を行なうための教室の確保は、今年度は都合がついたものの来年度以降は白紙であり、改善したとは言えない。今後も粘り強く現状を訴え、大学全体の理解を得る努力を続けるしかない。類似のケースとして、能の実演や狂言の実演を行なっている大学内施設柳戸会館和室存続が力強く思い起こされる。柳戸会館は、2009年度後半から改修工事が行なわれるが、当初計画では会館2階の32畳の和室は、洋室に変更されることになっていた。しかし、これだけの広さの和室は、サマースクールの実演講義に止まらず重要であることを訴えた。このことも恐らく一因となったと思うが、和室から洋室への変更はしないことになった。大学施設の有効活用を積極的に提案しながら、日本語教室についても事態の打開を図っていきたい。

今年度の課題（問題）の来年度以降の改善に向けてここまでは、昨年度から継続した課題について述

べてきたが、今年度新たに発生した課題（問題）もいくつか見られた。ここからはそれらについて述べたい。

今年度の4週間コース参加学生のうちの2名が、実は日本語学習歴がほとんどゼロであるということが、来日後発覚した。本サマースクールは、協定校への参加学生募集要項で、日本語初級レベル修了程度（日本語能力試験3級合格程度）であることを明記しているが、その情報が先方に十分伝わっていなかった。当該学生2名の日本語授業参加は、授業担当者の工夫により可能となったが、今後このような事態は避けねばならない。幸い、当該学生2名の所属校教員に事態を詳しく説明し、今回は先方でも当方でも注意するという事で同意した。サマースクール参加には日本語レベルの規定があることを、より明確に認識してもらえよう、送付書類にも工夫を加えるつもりである。

日本語授業については、後掲アンケートを見る限りでは大きな変更は必要ないと思われるが、授業担当者間では、より工夫した授業方法も可能ではないかとの意見交換が行なわれている。現状に満足することなく高みを目指す日本語授業担当教員に、謝意を示したい。また、日本事情講義についても、大きな不満は見られないものの、このままでいいと安住するつもりはなく、来年度また知恵を絞りたいと思っている。

来年度は、昨年度、今年度の挑戦を更に発展させる、または一応の決着をつける年度となるであろう。しかし、それらに一応の決着はついたとしても、改善すべき点は、まだまだ新たに見出せるだろう。課題が尽きないということは、ある意味、挑戦し続けるに値する、やりがいある事業を任されているということである。そのように発想を転換し、来年度に臨みたいと思う。

今年度のサマースクールも学内外の多くの方々のご好意とご協力をいただき、無事全日程を終えることができました。エクスカッションでお世話になった郡上、土岐、美濃の皆様にはお礼を申し上げますと同時に、今後も変わらぬご協力を心よりお願い申し上げます。

サマースクール参加学生に本物を体験させるために、実演をお願いしている能の味方團先生・田茂井廣道先生、狂言の山口耕道先生・茂山良暢先生に

は、今年度も快くお引き受けいただきました。どうもありがとうございました。

また、岐大生とサマースクール参加学生をどう交流させると両者にとってメリットがあるかを考える機会とヒントをいただいている工学部数理デザイン工学科フレッシューズセミナー担当の青木正人先生、新田高洋先生にもお礼申し上げます。

今年度初の試みであった役員の先生方との昼食会では、多くの先生方のご参加をいただきました。この場を借りて、再度お礼申し上げます。

サマースクール事務実務を一手に引き受けている留学生支援室（旧留学生課）では、サマースクール終了と時を同じくした2009年度8月1日付人事異動で、眞野初室長と、サマースクール担当薬師若菜主任が留学生支援室を離れました。これまでのご尽力に深くお礼申し上げます。留学生支援室の室員の皆様、サマースクール専従非常勤職員白木久美子さんにも深く感謝申し上げます。ありがとうございました。学外研管理人西川節子さん、留学生センター教務補佐森瀬真理さんには、今年度も行き届いたご配慮をいただきました。そして、愉快で元気な宿舎チューターズの皆さんにも大いに感謝しています。来年度も無事サマースクールが実施できることを祈念して、稿を終えたいと思います。（文責：土谷）

【2009年度サマースクール（受入）

アンケート集計結果】

（・マークは学生の自由記述コメント。原則として学生が書いたとおりに記載し、英文には和訳を付した。）

全回答者数：22

I 日本語の授業（Japanese language classes）について

1. 日本語のプログラム（午前は授業・午後は自習 self-study, 月曜～木曜）について

- とてもよかった 10
- よかった 12
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

2. クラスで使った教科書などのレベルについて

- ちょうどよかった 10
- 難しすぎた 2
- 少し難しかった 4
- 少し簡単だった 6
- 簡単すぎた 0

3. 日本語の教え方について

- とてもよかった 7
- よかった 15
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

4. 日本語の授業時間数について

- ちょうどよかった 20
- 多すぎた 1
- 少なすぎた 1

II 日本事情の講義（Japan-related lectures）について

1. 日本語の授業のほかに、日本事情の講義があることについて

- とてもよかった 4
- よかった 12
- 悪かった 6
- とても悪かった 0

2. 日本事情の講義を通して日本についてたくさん勉強することができましたか。

- できた 9
- 少しできた 8
- あまりできなかった 5
- できなかった 0

3. 日本事情の講義の中で、どれがよかったですか。下から2つ選んでください。

- 岐阜大学について（7/2） 0
- 岐阜県の自然・産業（7/7） 2
- 能・狂言（7/14） 5
- 相撲（7/15） 18
- 狂言実演（7/21） 11

※ルンド大生だけ

- 能実演（6/19） 7
- 日本の経済 economy（6/29） 1

どうしてその講義がよかったですか。理由を書いてください。

- 見るのがおもしろかったです。（能・狂言）
- しぜんとスポツ（＝スポーツ）が好きです。（岐阜県の自然・産業、相撲）
- おもしろかったからです。（能・狂言、狂言実演）
- 武道のスポーツが好きだから。えんげきにきょうみがあるからです。（相撲、能実演）
- おもしろかったからです。（相撲、能実演）
- スウェーデンのわかい人にすもうとの（＝のう）は一ばんおもしろいと思います。（能・狂言、相撲、能実演）
- たのしかったし、日本の文化よく習いましたから。（相撲、狂言実演）
- おもしろいかった。（能・狂言、狂言実演）
- のうとすもうはれきしがあることですが、economy はぜんぜんわからないことです。ぎふけんと大学についてはすこしおもしろいですが、もういちどうあまりわからない。（能・狂言、能実演）
- 面白くて楽しかった。でんとうてきなスポーツを見てよかった。（相撲、狂言実演）
- 前には相撲についてちょっとへんな競技だと思ったんですが、講義によって相撲がおもしろいものなのを知りました。（相撲、狂言実演）

4. 日本事情の講義で、ほかに勉強したいトピックがありますか。あれば、書いてください。

- ぎふしについてこうぎ。
- 日本のれきしについて。
- 日本のマンガとアニメです。
- しゅうかんとれきし。(さむらいについて)
- 日本のりょうりはおもしろいと思う。そんなぶんかはいいです。

5. 日本事情の講義の回数について

- ちょうどよかった 15
- 多すぎた 5
- 少なすぎた 2

Ⅲ 日本人学生との交流授業 (Exchange Class) について (ルンド大生だけ)

1. 工学部数理デザインの学生との交流(6月17日)について

- とてもよかった 2
- よかった 12
- 悪かった 3
- とても悪かった 0

2. このような交流授業を、何回くらいしたいですか。

- 0回 (しなくてもいい) 1
- 1回 8
- 2回 5
- 3回以上 3 (12回 (1名回答))

3. 交流授業について感想や意見があれば書いてください。また、日本人とどんなトピックについて話したいか書いてください。

- わからないです。
- 工学部学たちはちょっとシャイだったと思うから、みなはちょっとしずかさぎた (=しずかさぎた) と思います。
- 私はメールの左だち (=友だち) とあまりはなしませんでした。日本人にあった時、みんなはミクス (=ミックス?) のテーブルでさわさせられた (=すわらされた) ので、それはとてもこまかった (=こまった) と思います。そして、トピックをつかったほうが良いと思います。

Ⅳ 見学 (Excursion) について

1. 見学 (美濃 6 / 18 : ルンド大生のみ・土岐 < 7 / 6)・相撲 < 7 / 16) は、それぞれよかったですか。

【美濃 6 / 18・ルンド大生のみ】

- とてもよかった 13
- よかった 4
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

【土岐 7 / 6】

- とてもよかった 19
- よかった 3
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

【相撲 7 / 16】

- とてもよかった 19
- よかった 3
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

感想や意見を書いてください。また、ほかに行きたい所や、サマースクールでしたいことがあれば書いてください。

- よくぎふのとなりのまち行きたかった。
- Japanese Gameshow
和訳：日本のゲームショー
- けんがくに行きましたはとてもたのしかったんですけど、高山に行った時はちょっとこまったと思います。そのけんがくのまえでじょうほうがなかったですからと思います。
- 全部はすごく楽しかったです。特にみのでやっただいこです。行きたい所なら…よくわかりませんが、近くに有名なおんせんがあれば、行けばよかったと思います。
- とてもよかった！
- よかったです。
- 私はみなみアルプスにのぼりたかったです。うんどうするのが好きです。
- とてもよかった。
- とてもよかった。
- とてもたのしい時間でした。

Ⅴ 郡上でのプログラムについて

プログラム (書道 calligraphy, 郡上おどり Gujo dance, 紙細工 paper craft, 剣道 / ゆかた, 茶道 tea ceremony, ホームステイ) はどうでしたか。

- とてもよかった 18
- よかった 3
- 悪かった 0

- とても悪かった 0
 (郡上プログラム不参加者：1名)

感想や意見を書いてください。

- けんどうのことはあまり（＝あまり）おもしろくない。一人だけがけんどうをしてみたかった。
- It was great, I learned a lot about the ways and culture in Japan. Also the activities were fun. It would be better, if we knew well in advance that we were to make a public speech so that we could settle who should speak without arguing.
 和訳：日本の習慣、文化についてたくさん学べたことはよかった。また、アクティビティも楽しかった。でも、私たちがスピーチをすることになっていることを前もって教えてもらえると良かった。そうすればもっと穏やかに誰がスピーチをするかを定めることができた。
- したことと行ったでしょう（＝ばしょ）は多すぎるので、私はすぐくつかれたんです。
- 日本に来てから経験ことの中で、郡上はおそらく一番楽しかったです。
- 郡上はきれいで、プログラムはよかったです。
- とてもよかった（＝よかった）。
- とてもよかった。
- とてもよかった。
- きれいな郡上でいろいろな日本の文化を体験したのもよかったしホームステイも本当に楽しかったです。

Ⅵ 宿舎 (dormitory) とチューターについて

1. 宿舎の設備 equipments について

- とてもよかった 7
 よかった 15
 悪かった 0
 とても悪かった 0

宿舎にほしい設備があれば書いてください。また、問題点も書いてください。

- Bad washing machines. Old equipment. (vacuum cleaner etc) Lack of air condition-

ers. Too few fridges. No equipment (lack of equipment) to clean one's room

和訳：洗濯機が良くない。設備が古い。(掃除機など) エアコンが足りない。冷蔵庫が少なすぎ。各自の部屋を掃除する装置がない。(足りない)

- 22：00以降たつきゅうしたいです。
- へやはあつい。私のせんぷうきはたくさんおとをつくるから、このせんぷうきをつくったうち（＝つけているうち）にねるはむりだ。
- Most of the equipment was satisfactory although it would be more comfortable if air conditioners were installed in all sleeping rooms.
 和訳：エアコンがすべての部屋に取り付けられていればもっと快適であったが、ほとんどの設備には満足している。
- よかったかど（＝よかったけど）、おふろとインターネットがありませんでした。それはとてもたいへんと思いました。
- インターネットとコーラー（＝クーラー）がほしいです！
- インターネットは必要です。
- わからないです。
- エアコンがほしいです。
- Remote controller in the public room on the 4th floor
 和訳：4階集会室の（テレビ）リモコン
- Internet access
 和訳：インターネット回線
- 水が出るきかいがあれば…。
- 水の中に錆が入っている感じがします。
- 部屋があついです。

2. チューターが宿舎にいることについて

- とてもよかった 14
 よかった 8
 悪かった 0
 とても悪かった 0

その理由を書いてください。

- みんなは最高です！
- よく日本語を使いました。それでたくさん日本のともだちを作りましたから。
- べんりでナイスでした。

- 神様のような人々です。
- みなはやさしくて、いつも何かおもしろいことを私たちといっしょにしたかったからです。それにチューターと日本語をれんしゅうできたから、チューターたちのおかげで前より上手になりました。
- チューターはとてもやさしかったです。
- All tutors were very kind and helpful. It would be good if we had received a list of the tutors their number, e-mail and maybe a picture. Also the schedule showing the presence of the tutors at Gakugaiken was impossible to read because it was only in Kanji
和訳：すべてのチューターはとても親切で助けてくれた。チューターの電話番号、Eメール、そしてたぶん写真も渡してもらってからもっと良かった。また、学外研のチューター宿泊担当表は漢字でしか書いてなかったので読むことができなかった。
- たしょうのチューターはたしょうのがくせいいつもあそんだ。あまりほかの人もあそんだ。
- 毎日楽しくなったし、日本語を使うきかも増えたから、チューターと一緒に住むのはとてもいいことだと思います。
- It was great having locals guide us around Gifu. I think that all of us are very pleased with the efforts that the tutors put into their duty, making it easier to live in Gifu for all of us. The only thing I felt displeased with, and I'm sure there were other beside me that felt the same way, is how some of us got special treatment, meaning that the tutors spent more time with them doing things than they did with the rest of us.
和訳：岐阜を案内してくれる地元の人たちがいてよかった。私たち全員が岐阜で生活しやすくするためチューターは任務を果たそうとしてくれて、その努力に私たち全員がとても満足していると思う。唯一私が満足していないこと、きっと私以外にも同じように思っている人がいると思うが、チューターが特定の人たちだけと多くの時間を一緒に時間を過ごし、その特定の人たちが特別な扱いを受けていたことである。

- いつもやさしくて（=やさしくて）、いつもともだちがなってくれた。にほんごのべんきょうのたすけになった。
- 日本語の勉強がもっとできる。
- 聞きたいことをすぐに聞いてみるのができてよかったです。でも先きにサマースクールに参加していたスウェーデンの子たちがもうチューターたちと親しくなっていたので後で合流した私たちがチューターたちと親しくなるのがちょっと大変でした。

Ⅶ サマースクール全体について

1. このサマースクールの全体的な評価 evaluation について

- とてもよかった 14
- よかった 8
- 悪かった 0
- とても悪かった 0

2. これからのサマースクールのために、提案 suggestion や意見があれば書いてください。

- そのままやってつづけて…。
- もっときゅうけいがあるなら皆はもっと元気になると思います。でもやっぱりサマースクールはとても楽しかったです。たくさんを習いました。ありがとうございます。
- 学外研でインターネットがあったら、良かったです。
- もっと長いサマースクールがほしかった。
- 私に来年もサマースクールに入らせてください！
- がくがいけんでインターネットに入れてください。
- Everything was very well arranged and I had a great time. Thank you!
和訳：すべてとてもうまく準備されていてとてもすてきな時を過ごせた。ありがとう！
- 4階の部屋は暑いです。
- All in all I spent a good time here in Gifu through the summer course. Unfortunately I wasn't pleased with everything. First off, we were all unlucky with the weather. Now, there's not much you can do about the weather but I hope that there's some way to work around this in case next summer be-

comes rainy as well, perhaps by providing equipment. Second, we were all bothered by the delayed usage period of the air conditioners in the class room, it'd be appreciated if those can be turned on sooner. Lastly, I'd really appreciate it if the excursions were not only more often but also if we could have more time during the excursions.

和訳：全体的に言うと，サマースクール期間中，岐阜ですてきな時を過ごせた。しかし残念ながら，すべてのことには満足していない。第一に私たちは天気に恵まれなかった。今すぐに天気に関して対処できることは少ないが，来年度の夏も同様に雨の日が多くなるという状況を考え，たぶん設備を整えるなど何らかの形で対処してもらいたい。第二にクラスルームのエアコン使用可能時期の開始が遅かったため，私たち全員が不快感を味わったので，すぐに（開講時期から）エアコンが入れられるとうれしい。最後に，エクスカージョンを何回も開催してもらえるだけでなく，エクスカージョン中もっとゆっくり過ごせる時間があるとうれしい。

- 授業とかほかの物はとてもよかったです。でもあるチューターが自分が好きな子ばかりあそんでることはよくないと思います。
- とてもとてもよかったです。でもチューターがちょっとひとたちをさべつをする感じがしたのであれはよくなかったです。

第二部 夏期短期留学（派遣）

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿（合計8人）

日程：2009年8月27日（木）～9月25日（金）4週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	本 田 みのり	教育学部美術教育講座	4
2	武 田 康 史	工学部応用情報工学科	2
3	古 田 大 樹	工学部社会基盤工学科	2
4	小 林 愛 美	応用生物科学部生産環境科学課程	2
5	野 村 侑 加	応用生物科学部生産環境科学課程	2
6	茂 木 万友香	応用生物科学部生産環境科学課程	2
7	深 谷 知 世	教育学部数学教育講座	1
8	中 村 知 帆	医学部看護学科	1



事前研修

留学するにあたり、まず初めに不安を覚えたのが自分の英語の能力でした。1年間全く英語を勉強していなかった自分にとってこの事前研修は、今まで習ってきた英語を思い出すのに最適だったと思います。

事前研修は週2回行われ、授業内容としては色や大きさなどのボキャブラリーを増やしたり、買い物に行く際に使えるフレーズを使って会話するなどの実践的な英語が主で、ゲームをしたりディスカッションもしたりと難しいこともしましたが、授業中は笑いが起こったりして雰囲気はかなり良いものでした。

講師の方は外国の方なのでもちろん授業はすべて英語で進められ、自分はバイトの関係上週1回しか出席することができませんでしたが、内容や雰囲気はグリフィスでの授業と割と近い感じだったので、グリフィスで実際に授業を受ける際も戸惑うことなくスッと授業の雰囲気に入り込めたので、事前研修はとても有意義なものだったと感じています。最初は話すことはもちろん、聞き取ることもままなりませんでしたが、徐々に話している内容が理解できるようになり、積極的に話すようにもなりました。

この事前研修で身につけたボキャブラリーやフレーズ、またコミュニケーション能力は実際のオーストラリアでの生活や授業で使う事がありましたし、不安の解消にも大いに役立ちました。

また、今回はこの事前研修への参加率が低かった

のですが、他のサマースクール参加者と顔合わせをするという意味でも参加する意義があります。顔合わせをしてサマースクールに関する情報の交換を行うことで、向こうでの生活により一層備えることもできます。

こういった様々な面を持ち合わせている事前研修ですので、ぜひ参加すべきだと思います。

（武田 康史）

事前研修は大変ためになりました。家で一人単語帳とにらめっこしているよりはるかに役立つと思います。私は自分の発音に全く自信がなく、始めのうちは可能な限り無言を貫いていました。しかし他の人達がどんどん話している姿を見ることで、私も恥ずかしがってばかりでは駄目だという意識が芽生え、とにかく発言してみようと思えるようになりました。拙い言葉でも皆必死で理解しようとしてくれます。当然きちんとした文章で言えるに越したことはないですが、何より話そうとする意志が大切なのだと感じました。授業は毎回楽しんで参加できました。ゲーム等も交えながらワイワイ進み、あっという間に時間が過ぎて行きました。先生役を務めてくださった3人の留学生には心から感謝をしています。ありがとうございました。

（小林 愛美）



授業について

GRIFFITH ENGLISH LANGUAGE INSTITUTE
GOLD COAST

CLASS : GE4/5-MORNING CLASS TIMETABLE FROM 31 AUGUST 2009

Day	MONDAY Brett	TUESDAY Christine	WEDNESDAY Brett	THURSDAY Christine	FRIDAY Brett
8:15 am to 9:15 am	INTEGRATED SKILLS	(OPTION CLASS- CHECK CLASS & ROOM ON NOTICE BOARD)			
9:15 am to 10:15 am	INTEGRATED SKILLS				
10:15 am to 10:30 am	B	R	E	A	K
10:30 am to 11:30 am	READING AND WRITING	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS REVIEW - G & V TEST
11:30 am to 12:30 pm	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	LANGUAGE LAB	COMPUTER LAB	
12:30 pm to 1:40 pm	L	U	N	C	H
1:40 pm to 2:40 pm	ILC	INTEGRATED SKILLS	INTEGRATED SKILLS	SPEAKING AND LISTENING	INTEGRATED SKILLS 2:00-2:40 NEWSPAPERS

学校では General English（以下 GE）というコースで日常生活に役立つ英語を学びました。クラスは GE 1（易）～GE 5（難）の 5 段階にレベルが分けられており、私は GE 4・5 合併クラスに配属され、生徒 8 人の少人数クラスでした。クラスメイトの英語のレベルは高く、英語の勉強に対するモチベーションも非常に高かったので、毎日密度の濃い内容の授業を受けることができました。また、先生は e-mail アドレスを教えてくれたので 24 時間いつでも質問ができました。

クラスメイトは主に南アメリカ、ヨーロッパ、アジア出身で全員が「英語を話したい!」という強い意思を持っていて、競うように英語を話していました。私はなかなかクラスに馴染めず黙っていたら、先生から「20年間オーストラリアに住んでいても全く英語が喋られない日本人もいれば、3ヵ月でぺらぺらになる日本人もいる。」と言われ、その日から積極的に英語で話すようになりました。自分の考えを表現することで、友達が私のことを受け入れてくれて、会話は弾むようになりました。すると、自分自身でも確信できるくらい英語が上達していきまし

た。2人のクラスメイトとは今でも連絡を取り合っているの、将来再会したいです。

授業では自然な英語を習得する為に、正確な文法で早く話すことや、よりナチュラルな表現で話すことが求められました。文法や語彙を知っているだけでなく、使えなくては意味がないので、宿題は毎日 30分以上ネイティブスピーカーと話すこと、店の店員やバスで待っている人と交流することでした。少し緊張する宿題でしたが、日本には英語を話せる人が少ないので、とてもいい経験になりました。

グリフィス大学に通って、英語で交流する魅力を実感したので、日本に帰国してから早速英語を話せる人や留学生と英会話をしました。これからも国際交流を続けていきたいです。また、私は来年から教師になるので、この経験を活かして子どもたちに英語の面白さを伝えていきたいと思います。

（本田 みのり）

まず 1 日目に英語の学力テストが行われます。テストでは Writing, Grammar, Speaking が行われ、その結果によってクラスが分けられま

す。私は1番下のGE1というクラスだったのですが同じクラスにサウジアラビアや中国、ベネズエラといったそれぞれ違う言語を話す同じような英語力の人たちがいました。思ったのは、日本人は、Grammarはできるのだけど実際の会話（Speaking, Listening）が苦手、他の国の人たちは話しているうちに文法がぐちゃぐちゃでもちゃんと会話になっています。私のクラスは他のクラスと違って人数が5、6人という少人数（他のクラスは15人くらい）でそのためほとんどクラスみんなで会話しながら勉強していく感じで、当たる数もたくさんあり、授業中に無駄話になることはしょっちゅうでそれも全部英語だから、私にとったら本当にどのクラスよりもよかったんじゃないかなと思います。初めはあたまのなかで完璧に文を作ってから言葉にしていたけどそれではついていけなく自然に単語のみとか、考えなくても意見の言い合いができるようになり、とりあえずジェスチャーでも簡単な単語でも伝われば会話できるんだな—と思い、そう思ったからは外国人に対して英語を話すことが楽になった気がします。

毎日の授業では、英語を英語で勉強するということがわからない単語とかどうしてもでてきてしまいそういうとき、電子辞書を使うと注意され、英英辞書か先生に英語でどういう意味か聞くように心がけました。内容ではSpeaking, Listening, Reading, Writing, Grammarが主で、どれも簡単な内容でそんなに苦ではなかったです。だから自分に合ったクラスにいけることは本当にいいことだと思います。週に2回、自分で今の自分に足りない、勉強すべきところを自由にやる授業（ILC）というのがあり、その授業では映画をみたり本を読んだりgrammarを勉強したりしました。また、毎週金曜日に1週間やったGrammarとVocabularyのテストがあり、またクラスによりWritingやListening, Speakingのテストがおこなわれます。

クラスのみならずもちろん昼休みや休み時間、休日など、友達の友達などいつも自分から話しかけることを心がけ、最後にはほんとにたくさんの友達ができ、どこに行っても友達にあい「Hi!」「Morning!」「How are you?」などと言い合えるようになれました。会話をたくさんすることがやっぱり大切なのだなと実感しました。

（古田 大樹）

授業は午前2コマ、午後1コマありました。テストは週に3回あり、グラマーのテストは毎週、スピーキング、ライティング、リスニング、リーディングのテストは隔週でありました。わたしのクラスのテストはどれもそれほど難しくなかったと思います。しかし、スピーキングのテストは2人ペアになって与えられた話題について先生の前で会話をして、それを録音するというもので、英語で会話することに慣れていないわたしには会話の中で自分の考えを英語で話すことは難しかったです。また、宿題は1日1〜2枚程度、簡単なグラマーのプリントがでる程度でした。たまに自分のホームタウンの紹介についての英文を書いてくるなど、ライティングの宿題もありました。

はじめはすべてが英語で進んでいく授業や、他の学生がみんなちゃんと英語で話しているのに、自分はみんなが何を話しているのかわからないし、ちゃんとした文ではなく単語を羅列することしかできないという状況にあせりを感じました。しかし、先生は常に聞き取りやすいようにゆっくり、はっきり話してくれたし、わからない単語があったときもより簡単な英語で説明してくれました。実際、1週間もすれば先生のジョークもわかるようになったし、クラスの中で自分一人ができないわけではなく、むしろグラマーやライティングでは他の国の学生よりもできることがわかったので安心しました。3週目、4週目には授業の内容も先生の言いたいポイントもはじめに比べてかなり理解できるようになっていたもので、クラスの中でもかなり積極的に発言することができるようになったと思います。

わたしのクラスは先生も学生もみんな陽気な人ばかりで、いつも笑いの絶えないクラスで本当に毎日楽しかったです。そのせいなのか、外国の傾向なの



した。とても可愛くてよく冗談を言ってくれる楽しいおじいさんでした。Deeは本当のお母さんのように私を気遣ってくれました。夜は寒くないか、とブランケットを出してくれたり、帰宅すると一緒に話もしました。週に何度かパートに行っていました。Echoは私に来る5週間前からホームステイをしていた女の子で、とても英語が上手でファザーとマザーと本当の家族のように生活していました。バスの乗り方やグリフィス大学への行き方が分からなかった私に丁寧に教えてくれました。終バスがとても早いこと、夜は一人で出歩くと危険なこと、夕飯のあとに言うお礼の言葉（ごちそうさまのかわりにいつも Thank you for dinner と言っていました）などたくさん事を教えてくれた、お姉さんのような存在でした。Echoは試験に合格してグリフィス大学の本校に行ってしまったので2週間しか一緒に生活することができませんでした。夕飯は毎日家族みんなで食べました。一番会話をする時間も長く、とてもいい勉強になったと思います。

最初はなかなか会話に入れず、yes, no, thank you, しか言えませんでした。私が何か言おうとすると真剣に聞いてくれ、また会話を聞かされたときに相槌の打ち方や反応の仕方も学ぶ事ができました。怖がらずに文法が多少自信がなくてもジェスチャーや簡単な単語で伝えられるので、どんどん話したほうが良いと思ったし、そうするほうが上達できると感じました。実際日本人はとてもシャイだと John に言われました。（最後は「話しすぎだ」と言ってくれましたが。）食事はいつも美味しくて楽しみの一つになりました。オーストラリアの主食はポテトで、ライスも出してくれましたがタイ米だったのでちょっと日本のとは違っていました。最初はあまりのボリュームに驚いてしまいました。しかし、Deeはいつも「Just leave. (残しておけばいいわ。）」とってくれました。結局私はほとんど完食していました。食事の時に「Nice!」「Great!」「Lovely!」など「美味しい!」という気持ちを伝えることはとても大事でした。「美味しい」と言うと John はとても喜んでくれました。食後にはアイスやクッキーをすすめられました。（私はいつも「I'm full. No, thank you.」と断っていましたが。）朝食はトーストかシリアルで、自分で準備しました。分からない事は何でも気軽に聞けるので心配することはありませんでした。ホームステイ先から学校への行きかたは人それぞれですが、特に私の家はバス停から1,8

キロ離れていて毎日20分歩いてからバスに乗っていききました。毎日3,6キロ歩くのはいい運動になりました。（通学片道50分くらいでした。）また、家の周りにあまり街灯はなく暗くなると少し怖い雰囲気でした。一度バス停まで迎えに来てもらった事もありました

が、JohnもDeeも60代で夜の運転はあまりしたくないようでした。遊んでも帰りは暗くなる前の方が自分にもホストファミリーにも安全だと思います。

帰国の際には手紙を渡しました。最後に送ってもらう車の中で、今までの思い出を話しているときに私は泣いてしまいました。本当にいい経験ができました。ホストファミリーにはとても感謝しています。

（中村 知帆）

私のホームステイ先は本当に良かったです。ホストファミリーはマザー、ファザー、とその娘さんと言ってもマザーとファザーは70歳近かったので娘さんは50近かったです。

私の他に中国人とブラジル人の留学生がいました。その2人の留学生はすでに3カ月くらい前からいたらしく、仲良しで、英語はペラペラで始めはついていけませんでしたが、始めというか結局最後までついていけない感じでしたが…私の家は学校からバスを使って20分くらいのところにあって、比較的近かったです。でも終バスが17:45とかでとても早かったです。でも、終バスを逃したときはマザーやファザーが迎えに来てくれました。本当に親切なマザーとファザーでした。基本的にご飯はファザーが作ってくれました。朝はシリアルかトースト、昼はサンドウィッチ(パン2枚分)・ヨーグルト・果物・



なのにタクシーの運転手は観光客などを相手にすると異常なお金を請求したりわざと遠回りしたりすると聞いていたのであの時は少し怖かったです。週末カランビン動物園へ行きました。コアアラを抱いて写真をとったりワニを触ることができたり、バードショーを見ることができたりしてとても楽しかったです。日本の動物園とは違い、園内に自然がたくさんあり、さまざまな鳥やトカゲを間近で見ることができたことが本当に良かったです。次の日はサーファーズパラダイスにあるQ1というゴールドコーストが一望できるオーストラリア唯一の展望台に行きました。展望台にQBARというバーがあり、コーヒーを飲みながら見たゴールドコーストの夕焼けはとてきれいでした。わたしはこのように、休日、ほとんどゴールドコーストの観光地へ出かけて過ごしました。ゴールドコーストにはたくさんの観光地があります。4週間ではそのすべてをまわることはできず、もっと行きたい所がたくさんあったので、休日の過ごし方に困ることはないと思います。また、わたしはすべての休日を外出して過ごしましたが、ホームステイ先によってはホームステイ先の家族と過ごすこともできるし、遠くまで旅行に行くこともできるので人それぞれいろいろな過ごし方があると思います。

（野村 侑加）



休日（放課後）したことを全部挙げたいと思う。まず着いて次の日に中国人の友達8人と私（日本人1人）で学校の裏にあるビーチへ行った。オーストラリアについて次の日のことで周りに日本語を話す人がいなく英語のみだったし全員初めて会う人だからお互いを知るためになれない英語を使い、時には紙に書いて説明したり辞書を見せて説明したりとすごい内容の濃い1日だった。1日でだいぶ海外に来たのだなと実感したし友達が一気に増えた。Surfers Paradiseにもたくさん行きました。予定のない放課後はほぼ行っていました。安いお土産屋や、Nittele（利用した携帯電話会社）に行ってお土産券をもらって使いに行ったり、もちろん海でおよいだりしました。Nitteleはいろいろと情報を提供してくれるので活用すべきです。オーストラリアは冬だからといっても昼は日本の夏くらい暑いので海にも入ることができます。むしろ入りたくなります。でも夜はすごく冷えるのでスウェットやパーカーは必要です。食べ物や服の買い物は、Harbor TownやAustralia Fair, Pacific Fairという大きなショッピングセンターに行きました。どれもたくさんの店があり絶対行くべきです。また近くのバスケットコートでバスケットをしたり友達のホームステイ先やできた友達のマンションでBBQをしたりもしました。

困ったことはバスがだいぶブルーズで遅れることや運転が荒いことです。いつも帰り乗り過ぎたりしていました。日が落ちるのが早くまた終バスが早いので暗い中歩くことがあってやっぱり日本とは違って安全ではないので気をつけたほうがいいです。

たくさんの友達を作ること、休日や放課後、休み時間の過ごし方が大きく変わってくるとおもしろい国の人と話していろいろな国の文化に触れることは、考え方も大きく変わると思います。

（古田 大樹）

・実弾射撃

サーファーズパラダイスの一角にASA（Australian Shooting Academy）というところがあり、本物の拳銃を撃つことができました。日本人インストラクターの方が常駐していて受付もスムーズに行うことができ、初心者や女性の人でも手軽に楽しめるということでリラックスして体験することができました。今回選んだのはリボルバー拳銃で、見た目より重く、また発射の衝撃や音もモデルガンと

は比べ物にならないほどすさまじいものでした。最初のうちは的に当てるのに苦労しましたが、慣れてくるとだんだん真中を狙うコツがつかめてきてとても面白かったです。すべて打ち終わった後、両腕とも疲れていて、映画のように片手で撃つというのは無理なことだと実感することができました。日本では体験できないことなので、体験して本当によかったと思いました。

・サイクリング

自分のホームステイ先には自転車が置いてあり、ホストファザーも「自由に使ってもいいよ」との事だったので、暇なときはよく同じホームステイ先の中国人の人と一緒にサイクリングへ出かけました。長い時は1時間以上漕いでいたこともありましたが、一番良く足を運んだのはRUNAWAY BAYというところで、波が穏やかな海があるのでよくそこで泳ぎました。

オーストラリアフェアへ行ってみたり、周辺の探索を試みたりとしましたが、オーストラリアの道は比較的アップダウンが多いことに気がつきました。しかし、ゴールドコーストではちゃんと自転車専用レーンが車道に設けられていて、車のドライバーも近付くと慎重に運転してくれるので安全にサイクリングを楽しむことができました。車の通りも少なく一番速く移動できる手段に間違いのないと思います。

・BBQ

休日に、自分のホームステイ先にみんなを呼んでバーベキューをしたことがありました。バーベキューは大抵ディナーのようで、庭にバーベキュー用のコンロがあって、玄関前のテラスでみんなで会話を楽しみながら夕飯を食べました。一番困ったのは帰りでしたが、ホストマザーが親切にもみんなを近くまで送っていただきました。

他にも平日の夕飯に、台湾の子にバーベキューに誘われてついていったこともありました。高級マンションの5階のプールサイドにバーベキューをするスペースがあり、自分たちで肉を焼いたりしてワイワイ楽しみながら食事ができました。そのあと騒ぎすぎて大家さんに怒られましたが、いい思い出となりました。

(武田 康史)

オーストラリアに着いていきなり三連休があり、初日はどうしたらいいかわからず家で過ごしてしまいました。事前にみんなと連絡を取ったり、計画をしておくと思いしました。バスで簡単に大きなショッピングセンターに行くことができます。わたしは毎週末買い物をしていました。(サーファーズパラダイス、オーストラリアフェア、パシフィックフェア、ハーバータウンなど)スーパー巡りがわたしはとても面白かったです。

また、グリフィス大学には学生割引のプランが掲示されているので参加したいものがあれば、有効に使える便利でした。グリフィス大学に居る担当の人を通じて申し込む事ができます。そのプランでサマスキの仲間とカランビン動物園に行きました。コアラを抱っこして写真を撮影したり、bird showを見たりすることができました。また、ちょうどその近くのビーチでは彫刻などの展示がされている期間だったので、みんなで歩いて見て回りました。

最後の週末はサマスキのみんなと1泊2日でモートン島へ行きました。申し込みはサーファーズパラダイスで出来ます。日本人のスタッフなので気軽に相談できると思います。モートン島へ行くために車でブリスベンまで送ってもらい、フェリーに乗りました。島での移動は全て4WD車で、とても激しいので車に酔いやすい人は酔い止めを用意するといいかもかもしれません。モートン島では砂すべりやスキューバダイビングが出来ます。砂すべりはこつをつかむことが難しく、目も口も砂だらけになりました。

(私は水着を忘れたので海には足までしか浸かることができませんでしたが、それでも充分楽しめました。) キャンプだったので温かいシャワーなどはありませんでしたが、島には街頭などのほとんどの電気がないため星がとてもきれいで行ってよかったと



思います。直前になって申し込みをすると予約がいっぱいになっていることがあるので、早めにみんなと相談すると良いかもしれません。平日は授業もあるし、終バスも早いので数少ない休日を有効に使ったほうが良いと思いました。ちなみにホストマザーはいつも「休日は遊びに行かなきゃ！」と言っていました。今思うと事前にもっと調べて早めに計画を立てておけば、もっといろいろな場所へ行けたと思います。クラスメイトと仲良くなれば一緒にショッピングをすることもできるし、車に乗せてもらって出かけることもできました。（私はクラスメイトの運転でビーチへ連れて行ってもらいました。）

（中村 知帆）

■ わたしはオーストラリアで出来た友達と Byron Bay に行きました。

そこはゴールドコーストから車で1時間ちょっとのところ、本当に綺麗なところでした。

車がないと行くのにも大変だと思います。Byron Bay ではクジラ・イルカ・カメ・マンタを見ることが出来ました。遠くてどれも小さくしか見られなかったけれど、野生の動物が見られて本当に感動したし、あの景色にあの動物たち…本当に良い経験というか忘れられない思い出になりました。

クジラの尾びれは迫力があって、イルカは小さな群れというか家族みたいな感じで、泳いでいるのが見られました。始めにマンタを見た時は、何あれ!? って感じで、なんの生物か理解出来なかったけれど、Byron Bay についての案内を見ていたら、マンタも生息していると書いてあったので、私が見たのはマンタだったのだとわかりました。

Byron Bay は岬を歩いて一周（!?）すると1時間



くらいかかるけれど、どこからの角度でも海が見えて景色がそれぞれ違うので、本当に楽しめたというか良い景色と巡り合えました。

海が近くて潮風が強かったけれど、海の匂いが肌でも感じられたし、海の偉大さみたいのもわかったような気がしました。

岬を少し離れたところにはいろんなお店があって、そこでお昼ご飯に天ぷらを食べました。日本のとはちょっと違ったけど、美味しかったです。あととても美味しい揚げパンの店があると言うので連れていってもらって買いました。中にはチョコクリームが入っていて、外にはシナモンパウダーがかかっている本当に美味しかったです!! 残念ながらお店の名前は思い出せません…

…本当に Byron Bay の景色はすごかったですこの文章だけでは表現しきれないし、きつと行ってみたいとわからないと思いますが本当に綺麗なところでした!! オススメスポットだと思います。

それ以外の休日は毎週岐大のメンバーでいろんな所に行きました。わたしたちは結構みんなで行動することが多かったけど、むこうで出来た友達とどこかへ行ったり、一人旅をしたりすることもよいかと思います。

（茂木 万友香）

心境の変化

この旅が始まって、最初は正直英語が少しくらいしゃべれなくてもなんとかなると思っていました。しかしそれは自分が英語ができないことに対するただの言い訳にすぎなかったことがすぐわかりました。最初にホストマザーに会った日、私は、彼女が私にしゃべっていることの意味が全くわかりませんでした。幸い親切な方だったので諦めずに何回も繰り返して言うてくれたり、ゆっくり他の語で言い換えたりしてくれましたが、自分でも驚くくらい何を言っているのかわかりませんでした。そのためその日はずっと筆談でコミュニケーションをとっていました。このままではやばいと思い辞書を片手に、持ってきた英会話の本を読みあさりしました。オーストラリアはイギリスとちょっと発音が違うところがあり、“a”を“ai”と発音するので“day”が“die”に聞こえるなど、リスニングにはとても苦労しました。学校が始まって授業も英語のみになってくると、慣れてきたのか授業中発言できるようになったり、家でも進んでしゃべりかけられるようになっていきました。少ししゃべれるようになると語彙も増えていき、だんだん話すことが楽しくなっていました。たくさんの人と会話しているうちに、日本人はリスニングとスピーキングが弱いことに気が付きました。中国人やサウジアラビアの人は、先生の言っていることが理解できているのにもかかわらず、英文法においては日本人の方が優れているように感じました。実際に彼らに聞いてみると、やはりそちらの学校ではスピーキングとリスニングを重点においた授業をやっているみたいでした。そのことがわかってから、会う人会う人に声をかけてしゃべる機会を増やしたり、積極的になっていきました。ある程度話ができるようになったとき、ふと将来何になりたいのか友達に聞いてみました。ただ単に話せるようになりたい人もいましたが、ほとんどはこの語学学校ではなく大学院まで行き、仕事に役立てようと頑張っている人ばかりでした。そんな人たちに刺激を受けながら、一緒に図書館に行って勉強したりして自分の英語に対する価値観が変わっていきました。

1か月とは早いもので、慣れたころにはもう帰る日が近づいていました。友達はまだまだここで勉強してうまくなっていくのに、自分だけ止まってしま

うと孤独感を感じ、もっともっと勉強したいと思うようになりました。日本に帰ってからも現地の友達とコンタクトをとって英語から離れないように、日本でも上達するように心がけています。この旅で学んだことを生かして、今後の英語学習に力を入れていきたいと思っています。

（深谷 知世）

わたしはとにかく今回、思い切ってサマースクールに参加してよかったです。わたしはもともと英語に対する苦手意識が強く、ぎりぎりまで外国にいても何もできずに終わってしまうのではないかという不安にかられてしまい、なかなか参加の決心がつかなかったのですが、実際現地に行ってみたらみんなすごくいい人で、何もできないなどということはなく、ただ話したい、コミュニケーションをとりたいたいという気持ちだけで毎日をすごしました。

現地に行く前に初めの1週間はホームシックにかかるかもしれないと聞いていましたが、むしろ日本に帰りたくないという思いが強かったです。それはきっとよいホームステイマザーの家にお世話になることができたからだと思います。彼女は一人暮らしで、普段は1階で生活しているので夕食のときしかゆっくり話すことができなかったのですが、いつもわたしのためにゆっくり話してくれて、いろいろなことを教えてくれました。はじめは何を言っているのかわからなくて静かなディナータイムを過ごすという感じでしたが、だんだんと話せるようになり、本当にいろいろな話をしました。

もともと英語のレベルが低かったわたしは実際4週間という短期間できちんと自分の考えていることを的確に話すことは難しく、伝えたいことがあるのにどうやって伝えていいかわからないというもどかしい時をたくさん過ごしました。自分の単語力とリーディング力の低さも改めて実感しました。しかし、そんなつたないわたしの英語でもジェスチャーなども交えて何回もいろいろな単語を使って説明するといいことを理解してもらえる瞬間があり、そのときは本当にうれしかったです。

わたしは今回サマースクールに参加して、いい意味でまわりの目を気にしないでなりふり構わず行動

することができるようになったと思います。現地にいる間にできるだけ英語を聞けるようにと毎日映画を英語字幕で見たり、学校の帰り道では日本人ともずっと英語を使って帰ろうとしたりしました。また、外国の友達を持つことができたのも今回サマースクールに参加してよかったことの一つです。わたしはパソコンが苦手インターネットなんて全く使わない人間でしたが、外国の友達やホームステイマザーと連絡をとるために少しずつパソコンを活用しています。

わたしは今回サマースクールに参加してもっと他の国の人と話すことができるようになりたいと思うようになりました。日本にいる今、わたしができることは文法を勉強しなおしたり、単語の勉強をしたり英語を聞いたり書いたりすることだと思います。それをただ思っているだけではなく、実際行動に移せるようになりたいです。今回は英語ができるようになりたいというきっかけをつかんだ1か月でした。また機会があれば海外に留学してみたいです。そして次は、勉強してから挑戦して、今回はできなかった本当に考えていることをきちんと伝えられるようになりたいです。

（野村 侑加）

オーストラリアに1か月行って、英語を勉強するにはすごく短いと思いました。友達になったほとんどが1年以上の留学でオーストラリアの大学へ進学しようとしている人ばかりで僕たちは観光でしかないと言われてきました。行くまでは1か月はすごく長いと思っていたからそういうのを聞いて初め驚きました。しかし実際終わってみると本当に短いと感じました。大学に進学という目標から将来の目標まではしっかりとみんなしてそのために英語を話せるようにならなくてはいけないから、という風に近い目標を常にもっていてやっぱり自分たちと英語を勉強する気持ち、心構えが全然違うことがよくわかって、自分がすごく子供で考え方が甘いのだなと実感しました。

また、とにかく友達をたくさん作ろうとたくさんのはじめて会う人に声をかけ実際に50人ほどの友達ができ、毎日会話をしていく中でだいぶFriendlyになれたと思うし毎日日記を書くとか、今日はどうしようとか毎日考えておくと無駄に過ぎることがなく毎日充実できました。

ホームステイをして生のオーストラリアの文化や

生活に触れたり、いろいろな国のの人々と触れ合いその国の文化に触れ（ちょうどドラマダーンの時期でした）日本とだいぶ違ったり似ているなあとという部分を見つけることができ本当にいい経験ができました。

（古田 大樹）

軽い気持ちで参加した私ですが、今では本当にサマースクールに参加してよかったと思っています。一か月間どっぷり英語に浸ることで当然英語、私の場合特にリスニング力が上達しました。この力は必ず将来役に立ちます。しかし英語の上達も大切なことではありますが、何よりさまざまな国の人々と友達になれたのが大きいと思っています。私が今まで当然だと思っていたことは諸外国では当然ではありませんでした。文化や習慣が異なることも違うのかと思ったことが多々ありました。理解できない、また理解してもらえないことも多く、異文化交流というのは難しいと思いました。同時にだからこそ面白いとも思いました。世の中様々な人がいて様々な考えを持っていることを知り、またその考えに直に触れることができたことが私にとって最大の収穫です。

（小林 愛美）

オーストラリアに行って変わった一番の変化は、英語力、自主性、積極性は向上したことです。

GELIに来ている多くの方は自分より年上の人で、たいてい「よりよい仕事を得る」ためにGELIを卒業し、グリフィス大学へ進学するという人がほとんどでした。

そのためみんな授業も寝ることなく真剣に先生の話に耳を傾け、質問や発言も積極的に行っていたので、英語を真剣に学ぼうとしているのが伝わってきましたし自分も負けられない、という気持ちにさせられました。残念ながら成績優秀とはいきませんが、英語の力はかなり上がったと思います。

また休憩中や昼食の時間も、英語で積極的に会話を行っていたり、英語の書き取りを自主的に行っていたりする姿もありました。それゆえにGELIの人たちはみな仲がとても良く、日本でも見習っていくべきだなあと感じました。

そういったことに影響されてか、普段あまり話をしない自分も、最初はそれほどでしたが徐々にクラ

スのみんなに積極的に話しかけコミュニケーションをとるようになりましたし、授業中も発言をしていくようになりました。

それは日本に来てからも変わっておらず、人に話しかけたりするのも抵抗がなくなったし、面白いことや興味を持ったものに積極的に参加するようになりました。

英語力はもちろん上がるものだと思いますが、留学はそれ以外にも自分の心を成長させるのにとってもよい経験になりました。

（武田 康史）

 オーストラリアに行く前は英語が出来るようになったらいいなとか、まあそうじゃなくても楽しめればいいかとか、行くこと自体に興味があるだろう…とか目標なんて全然決めてなかったし、オーストラリアに行くこと自体、気分で決めたというか、とりあえず夏休みだし、日本を出てみたい、くらいにしか考えていなかった。

他にも候補はあったけど、オーストラリアにはコアラがいるし!!動物が多いし、学校の事業で行くから安心だな…本当にそんな感じで決めました。

実際に向こうに着いて不安とかはほとんどなくて、これから一か月どんな感じになるんだろーとわくわくした感じでした。

始めはやっぱり言葉が通じないし、伝えたいことが伝わらないもどかしい感じもあったけど、まあしょうがないか、これがあたしの実力だ。なんて開き直って、単語をつなげてなんとか会話していた。

当たり前だけどオーストラリアは日本と全然違って、とても新鮮な気分だった。

何を見ても初めてだし、まず言葉が違う!!ああ、ここがオーストラリア…そんな感じで初めは過ごしていた。

学校や日々の生活に慣れて、いろんなところに遊びに行ったり、いろんな国の人とたくさん会話したり、そんな何気ない日々も今ではかけがえのない日だったんだと思う。

いろんな国の人と話す文化の違いに驚くことも多かった。

日本に帰ってきてどんな風に自分の心境が変わったかはまだイマイチわかってないのかもしれないけれど、オーストラリアでの生活は本当に楽しかったし、いろんな初体験をして、本当に良い経験になったと思う。きっと私自身成長したと思うし、何かど

こか変わったんじゃないかと思う。

オーストラリアを出る時は本当に日本に帰ってくるのが嫌だった。日本に帰ってきて学校が始まってもなかなかオーストラリアでの生活は忘れられないし、戻りたいなってよく思った。まあそんなこと今は無理だし、今は今の生活を全うしないといけないんだなー、オーストラリアでの生活はある意味夢みみたいな感じだったんじゃないかと思う。

結局あたしはオーストラリアで楽しただけなんじゃないか!?とも思うけれど、それはそれで一番良いのかもしれない。何事も楽しまなきゃ損だと思った。

けど、今はまだめっちゃめっちゃオーストラリアが恋しいです。

（茂木 万友香）

 今まで海外旅行はしたことはあったのですが、いつも親任せで英語を話す機会は全くありませんでした。せっかくいままで勉強してきたのだから、思いきって今回サマスクに参加しました。正直はじめは自信がなく、ちょっとオーストラリアで生活していけるのか怖かったです。とりあえず、あいさつと笑顔と感謝は忘れないようにしようという気持ちでした。最初の数日は学校の授業も、夕飯の時の会話も聞えるもの全てがリスニングのようで毎日とても疲れていました。しかし、だんだん慣れてくるもので、夕飯のときにはいろいろな話をするのがだんだんできるようになった気がしました。最初の頃はどんな話題にしたら良いのか、分からなかったのでわたしはよく二人に質問をしていました。（いつから留学生を受け入れているの?や日本に来たことはあるの?など）自分の話しやすいことから話していけば、ぎこちなくても会話はできると思います。特にわたしが心に残ったのは、2週間ほど生活をした時に「だんだん生活に慣れてきました。」とわたしが言うと、ホームステイマザーのDeeが「そうね。でも、最初は辛かったし寂しかったでしょ。みんな同じよ。」と言ってくれたことでした。本当に留学生の気持ちを分かってくれることが分かり、安心して下手な英語でも話そうという思いになりました。大学でも最初はほかの学生が英語で話しかけてくるので怖気づいていましたが、みんなとてもフレンドリーでもっとクラスの子と話したいと思うようになりました。（国によって英語の発音が独特で面白いのでどんどん話してください）だんだん

話すときの文法はあまり気にしなくなりました。文法を気にしすぎて、しっかり考えてから話そうとしているとなかなか話せないな、と感じました。主語と動詞があれば言いたい事はなんとか伝わります。それよりも話すことが大切だと感じました。振り返ってみると1か月経って、ようやく怖さがなくなったくらいだったのでもっと初めから積極的になったほうが後悔しないし、上達すると思いました。

（中村 知帆）

ソウル産業大学

●韓国 ソウル産業大学参加者名簿（合計7名）

日程：2009年8月3日（月）～8月21日（金）3週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	三 浦 小百合	教育学部英語教育講座	2
2	石 井 優 紀	地域科学部地域文化学科	2
3	半 田 実 里	地域科学部地域構造学科	2
4	山 田 紗矢香	工学部生命工学科	2
5	松 尾 有 美	教育学部生涯教育課程	1
6	青 木 優 果	地域科学部	1
7	牧 野 友 紀	地域科学部	1



事前研修について

サマースクールに行くことが決まってから、私たちは、岐阜大学に留学に来ているソウル産業大学の学生さんたちに先生となってもらって、韓国語の研修を受けました。

今年は毎週月曜日と水曜日の授業後にみんなで集まって、約二時間の授業を6月から7月まで受けました。簡単なあいさつから高度な文法事項などを最初の一時間に、そして、残りの一時間は韓国の文化や料理、音楽に触れる時間でした。時には、今話題のドラマ「花より男子」のワンシーンを使っ

て、東方神起の歌を翻訳する授業など、私たちがより韓国語を楽しめるように留学生さんたちが用意をしてきてくれました。研修が終わった今も、彼らと連絡を取り合って交流を深めています。

今回の事前研修でお世話になったキム・ソンスさん、パク・キョンナムさん、パク・ヒヨンさんにこの場を借りてお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

（松尾 有美）



授業について

■午前 [韓国語授業]

韓国語の授業は毎日午前中に行われました。授業は英語と韓国語で進められましたが、絵の描いてあるカードを使用されたり、先生が、理解し易い英語や韓国語を使ってくださったりして、問題なく自然に授業が進められていきました。

授業は、母音を覚える基礎的な分野からの始まりでしたので、これからの勉強に役立てることができた人や今までの勉強の復習ができた人とそれぞれの勉強の仕方があったと思います。

先生たちがとてもユニークで楽しい授業を行ってくださったので、「習う」というよりは「楽しむ」という気持ちで授業を受けることができました。

（半田 実里）



■午後 [韓国文化の授業]

韓国文化の授業は、学内または学外に移動して行われました。

■韓国音楽■（3回）

先生はとてもユニークな方で、言語を超えたコミュニケーションがあることを改めて実感しました。歌謡曲「Nobody」「마리아 (Maria)」「나 항상 그대를 (私はいつもあなたのことを)」・童謡「곰 3 마리 (熊3匹)」「올챙이와 개구리 송 (おたまじゃくしとかえるの歌)」「우리 모두 다 같이 손뼉을 (韓国版 幸せなら手をたたこう)」・民謡「아리랑 (アリラン)」など、踊りを交えて習いました。

今韓国でヒットしている曲を選んでくださったので、取り組みやすく、授業以外でも歌ったり踊ったりして、韓国の学生と楽しむことができました。また、先生が、英語や日本語に訳してくださったので意味も理解することができました。スクリーンに映像を映し出してくださったり、歌い方の指導を先生自ら手本となって見せてくださったりしたので、本当に終始笑いが絶えない授業でした。

(三浦 小百合)



■お面作り■（1回）

お面作りの授業では、絵の具を使って真っ白な既成のお面に色付けをしました。用意されていたお面は、どれも韓国内の様々な地方の伝統的なお面ばかりで、授業の始めに先生が丁寧に一つずつ説明をしてくださいました。私が選んだものはソウルの伝統的なお面で、本来の目の上にあるもう一つの目でこれから先の未来を見ることができるのだそうです。

わいわいとみんな小さい頃に戻ったように自分だけのオリジナルお面（タル）を楽しく作りました。最後には、みんなの個性が凝縮されたとてもユニークなお面が出来上がり、みんなでかぶって記念撮影をしました。

(松尾 有美)



■テコンドー■（1回 ※学外）

韓国の伝統的スポーツであるテコンドーを、お寺で半日体験しました。屋外で行うとのことでしたが、日陰であり、またマットもあったのでほっとしました。先生はとても熱い方だったので、やる側としてもかなりやる気が出ました。半日ということも



あり、「習う」というよりは突きや蹴りを「体験」し、そしてテコンドーの「精神」を学びました。最後には、突きと蹴りのコンビネーションテストを受け、全員が先生から修了証を受け取り気持ちよく終わることができました。

（石井 優紀）

■クッキング■（1回 ※学外・午前）

韓国において初めての課外活動は、料理教室でした。私自身韓国の料理が好きだったのでとても楽しみでした。作った料理は、食べたことのないものばかりで《アンドンティンパ・トククンパ・チャプチェ》という3品です。ゴマ油や唐辛子など普段日本では使わないような調味料を使い、作りながら完成し食べることを想像していました。一つの班に一人以上のバディが就き一緒に料理をしたので、仲良くなる機会にもなりました。味は、「やっぱり韓国料理は美味しい」と思うことができるものでした。一般の旅行ではできないことなので良い経験になりました。

（半田 実里）



■マナー■（1回）

韓国の伝統的なマナーについて学ぶ機会がありました。食事に関するマナーやお酒の席でのマナーなど、初めて知ることがたくさんありました。この授業では韓国の伝統的な衣装の「チョゴリ」を着せてもらうことができました。チョゴリには男性用のパジ（ズボンを意味する）チョゴリと、女性用のチマ（スカートを意味する）チョゴリとがあります。また、チョゴリとひとことにいっても、着るシーンによっていろいろな形のものがあるということも学びました。日本と韓国を比較してみても、男性と女性

の違いがはっきり表れているという印象を受けました。

授業を通して韓国のマナーについて学びましたが、自分の国のマナーについて私はよく知らないことに気がつきました。また、礼儀としても、他の国のことを学ぶ前に自分の国についてよく勉強しておくべきだと思いました。さらに日本で当たり前にしてきた行動が外国ではタブーであるかもしれないという意識を持ちました。難しいことではありますが、異国の人とコミュニケーションをとる場合には、語学はもちろん必要ですがマナーも身につける必要があると感じました。

（牧野 友紀）



■映画■（2回）

映画の授業では、2回に分けて1つの映画を見ます。1回目の授業で単語や短文の意味を調べて、ところどころ映像を止めながら見進めていきます。わたしたちが見たのは英語訳すると My Little Bride という題名のラブストーリーです。映画には英語の字幕がついています。面白かったけれど、細かいところが分からなかったので、日本でも見ようと思いビデオレンタルショップに行きましたが、そのDVDを探してもなかったことだけが残念です。

（青木 優果）

■韓国太鼓（チャンゴ）■（1回 ※学外・午前）

この授業では、韓国の伝統的な太鼓のチャンゴの演奏方法を学びました。チャンゴは皮を張った太鼓で、叩き方や左右の叩く場所によって音が変わります。先生が実際の演奏を見せて下さいましたが、それは手さばきがとても速く、迫力があり、間近で聴いていた私たちは圧倒されました。

そして先生は叩き方を使い分けた演奏方法を教えて下さいました。しかし、皆なかなか上手いかず、きれいな澄んだ音を出すのが容易ではありませんでした。それでも楽しく皆で奮闘し、最後は全員で曲を演奏することができました。

（山田 紗矢香）



■NANTA■（1回 ※学外）

NANTAは、ソウルではもちろんアジア初でブロードウェイでの長期公演を行い、現在27ヶ国212ヶ所の都市で公演が行われている韓国を代表する舞台です。ストーリー展開がとてもコミカルで、公演中は終始笑いが起きていました。キャストは5人と少ないのですが、それぞれがコックや支配人など個性的なキャラクターを演じていてとてもおもしろかったです。コミカルなストーリーだけでなく、なんといっても見どころは圧倒的なパフォーマンスです。包丁やフライパン、鍋は楽器になり、会場を楽しませてくれました。舞台は観客も参加することがあり、キャストさんが客席にやってきて観客が舞台にあがることもありました。私も舞台に上がり、ショーに参加させてもらえてとてもいい思い出になりました。

セリフはほとんどなく、音や目で見て分かるパフォーマンスだったため、言葉のわからない私たちも楽しめるとても素敵な舞台でした。

（牧野 友紀）

■フィールドワーク

■韓国民俗村■

韓国民俗村には朝鮮時代の村が再現されていて、私たちは村内を歩きながらソウルの農家の家や両班の家、釜山の農家の家など様々な建築物を見学しま

した。ここでは、歴史映画やドラマの撮影もされているらしく日本でも有名な「チャンギムの誓い」の数々の場面のロケ地にもなっているそうです。この日はあいにくの雨でしたが、午後からは次第に晴れてきて、「農楽ノリ」という伝統武道の公演を見ることが出来ました。「農楽ノリ」とは賑やかな音楽に合わせて、長い紐のついた帽子をかぶった若者が力強く踊る、韓国の伝統的な踊りだそうです。また陶芸体験をして、今回のサマースクールの記念となる鉢に絵付けをしました。お昼ごはんはプルコギをごちそうになりました。とろけるほど美味しかったです。



■昌徳宮（チャンドクン）■

最後のフィールドトリップは昌徳宮（チャンドクン）に行きました。昌徳宮は1405年に太宗が建てた朝鮮の王朝第二の王宮で、初めは法宮（王が住む第一の宮廷）である景福宮（キョンボクン）に引き続き離宮として建設されたのですが、以後王たちが主に昌徳宮に居住しながら実質的な法宮の役割を果たしたとされています。建物のスケールの大きさ



に私はとても驚きました。中でも、芙蓉池という休息のために造られたという、敷地内の綺麗な池はとても神秘的で、今自分がどこにいるのか忘れる程に時間と空間を越えるような美しさでした。

■国立民族博物館■

昌徳宮へ行った午後に、景福宮の敷地内にある「国立民族博物館」へ行きました。館内には三つの展示室があり、それぞれに大きなテーマが掲げられてい

ました。第一展示室は「韓民族生活史」、第二展示室は「韓国人の日常」、そして最後、第三展示室は「韓国人の一生」というものでした。また、私たちが見学をした日には、特別展示として昔から今に至る「結婚衣装」の展示が行われていて、日本人も韓国人も台湾人も、女の子は熱心に見学していました。

（松尾 有美）



◆◆◆◆◆ チューターについて ◆◆◆◆◆

ソウル産大の学生が3週間チューターとしてお世話をしてくれました。基本的に研修生1人につき1人ついてくれます。チューターの中には、同じ寄宿舎に住んでいて毎日顔を出してくれる学生もいました。チューターの多くがバディクラブというクラブの一員で、普段から留学生のお世話をしています。そのため他国に興味があり、英語でコミュニケーションがとれる学生が多いです。また、日本語ができるチューターも多かったため、正確なことを伝えなくてはいけないときは助かりました。

現地で必要なものを買う為にスーパーを案内してくれたり、休みの日や授業終了後に遊びに連れて行ってくれたりしました。さらに、宿題を手伝ってもらったり、体調が悪いと事務室まで連れて行って職員の方に話をすることまで助けてくれました。とにかく、困ったことがあったらなんでもチュー

ターが助けてくれます。毎日お世話してくれたチューターのおかげで本当に、安全に最高の日々が過ごせました。

（三浦 小百合）





昼の食堂は午前の授業を受けるランゲージセンターの近くにありますが。朝の食堂とは違って、いくつかあるセットメニューの中から選ぶという形式です。こちらはお昼どきになると学生さんたちがたくさん入ってきて、多くの人に利用されているようでした。

私は、お昼は食堂よりも食堂の隣にあるカフェテリアとコンビニ（ファミリーマート）をよく利用しました。カフェテリアにはコーヒーショップのようなドリンクメニューはもちろんパンも売っていて、寄宿舎に戻って昼食をとるときはカフェテリアのパンをテイクアウトしたり、コンビニで昼食を買ったりしました。ちなみにファミリーマートはこの他に寄宿舎の近くにもう一店あり、とても便利でした。



■外食■

バディのみなさんは私たちを大学周辺のご飯屋さんをはじめ、いろいろなところに食事に連れて行ってくれました。大学周辺にはたくさんの飲食店がありました。サムギョプサル、ピザ、焼き肉、鍋ラーメンなど、3週間を通して学内だけでなくたくさん外食もしましたが、どのお店のご飯もとてもおいしかったです。休日や、平日の夕方は時間があるので、バディのみんなや友達と外でご飯をいっしょに食べることが多かったです。みんなとの食事はとても楽しいし、コミュニケーションをとることができる大切な時間でした。ちょっとした会話も、すべて勉強になりました。

（牧野 友紀）



ソウル産業大学の周辺

正門付近には学生向きのお店や、カラオケがたくさんあります。焼肉は7,000ウォンくらいで食べられます。最寄りの駅（地下鉄、コンロン孔陵駅）へ行く途中のダイソーでは、日用品や韓国グッズが安く買えます。寮のそばの門から、20分くらい歩いたところには、“SAVE ZONE”や“HOME PLUS”という大きなデパートがあります。

お土産に韓国のりやコチュジャンが欲しいときはこの食料品売り場がお勧めです。

大学近くにも、楽しめるところがたくさんあります。優しくて明るいお店の方とのやりとりもすてきな思い出です。

（青木 優果）

生活について

韓国での生活は、上記のような授業や課外活動を含め、様々なことがありました。休日にはバディのみんなが、ロッテワールドや韓国の観光地に連れて行ってくれました。私達だけでもそれぞれが行きたい場所を巡りました。その中で、地下

鉄やバスの乗り方を学べたと思います。

また、バディだけでなく寄宿舎の近くにいた学生とも友達になることができました。彼らも寄宿舎で生活をしていたため、身近な存在であり、私達を食事に連れて行ってくれたり、学内を案内してくれた





國的 karaoke 到處都有，當然我也常常和同學們去歡唱一下。

在台灣也有 karaoke，但是我覺得韓國的 노래방 真的很棒。我最常去的地方就是「明洞」，在旅遊書上得知那邊非常有名，所以我去了五次，真的非常熱鬧。這次的韓國之旅不僅讓我學到一點韓文，也給我很多機會可以和日本同學練習說日文。謝謝大家！

（訳）初めての韓国で、すごく楽しかったです。この三週間は、韓国語を学んだり・韓国文化を体験した上に、違う国籍の友達がたくさんできました。皆と一緒に暮らしたことは楽しかったです。一番印象深いのは、韓国にはどこにでもカラオケがあったことです。もちろん私は台湾でも友達と一緒にいきますが、韓国の方がよかったです。私がよく行った場所は「明洞」です。観光の情報で取り上げられていたりしてとても有名な観光地であり、5回も行きました。本当にいい場所だと思いました。今回の旅行は、韓国語を学んだだけでなく、日本人と一緒に日本語で話すチャンスも多かったのでみんなに本当に感謝をしたいです。

Finally, we still had to say good-bye to each other. It's really sad. In fact, we are Three-week friends but actually we are friends forever. If I have second chance, i will choose to visit Korea again. Thanks for everyone in this three weeks. It was unforgettable memory in my life.

岐阜大学の皆さん、本当にありがとうございました。

◆◆◆◆◆ 全員の感想 ◆◆◆◆◆

◆三浦 小百合 2年 教育学部◆

韓国と日本には過去に悲しい歴史があります。文化も違えば、考え方も違います。しかし、共通に持つ趣味や考え方も多くあります。お互いの文化や言語を教えあうことで、いつのまにかかけがえのない友になりました。言語が違ってても、お互いに英語が完璧でなくても、伝えたいことは通じます。

しかしその一方で、伝えきれない思いも沢山あり、もっと英語がもっと韓国語が話せたら…と歯がゆい思いを何度もしました。この経験は今後の私を変える大きなきっかけになると思います。

日本の学生との違いを知ったのも私にとって衝撃的でした。海外に行かなくてはわからないことがいっぱいあります。

韓国語はもちろん、これからもっと充実した大学生活を送るために大切なものをたくさん学び、たくさんの方に気づきました。本当に参加して良かったです。

こんなにすばらしいプログラムを用意してくだ



さった留学生センターの先生をはじめ、受け入れ先のソウル産業大学の職員の方々、チューターに感謝します。ありがとうございました。

◆半田 実里 2年 地域科学部◆

私はサマースクールに参加して、「自分にとって大事なものはなんだろう？」ということを考えてました。韓国では、日本にいてはわからないことや言葉を知ることができましたし、普段できないことをたくさん楽しく有意義な体験ができました。また、さまざまな国の学生と会話をすることができたので、「自分って物事考えてないな～」と思ったりもしました。このサマースクールがこれからの大学生活の土台となり、更に様々な企画に参加し行動に移していきたいです。

そして、今回できた友達はこれからもずっと友達です。次は私が日本を紹介する番です。

みんな！！ 待ってるよ～(ω) 또 만나요～!!



◆山田 紗矢香 2年 工学部◆

今回のサマースクールが、私にとって初めての海外であったので、渡航前は多くの不安を抱えていま

した。しかし共に過ごす仲間たちがいることで、その不安は間もなく消えてしまいました。岐阜大学の仲間はもちろん、ソウル産業大学の学生をはじめ台湾やそのほか様々な人々に、私は支えられながら安心して、この3週間を楽しく過ごすことができました。お世話になった全ての方々に、感謝いたします。

実際に韓国で、韓国の文化に触れ、ソウル産業大学でできた多くの友達と共に過ごしたことで、以前よりも韓国に興味を持ち、身近な国だと思えるようになりました。

私にとってこのサマースクールは、私の世界を大きく広げてくれました。そして、普段はできないような素晴らしい経験を多くすることができました。このプログラムに参加することができて、本当によかったと思います。



◆石井 優紀 2年 地域科学部◆

今回行った韓国への三週間が、私にとって初の外国での経験でした。もちろん楽しいことも多かったのですが、一方で辛いこともあったのが事実でした。思うように伝えられないためもどかしかったので

す。でも、向こうの人たちはその気持ちを取っ払うような接し方だったというのが印象的でした。韓国で出会った全ての人たちに感謝したいです。それ以上に、一緒に三週間生活した仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。



◆青木 優果 1年 地域科学部◆

自分にとってとても刺激的な3週間でした。海外の方と話すのはじめての経験でした。韓国語が分からないので、英語を使うことが多かったのですが、自分の英語力・韓国語力の未熟さを痛感しながら相手の言っていることを理解しよう、自分の思っていることを伝えようといつも必死でした。会話や、普段の生活の中に驚くことがたくさんあり、毎日が濃く面白かったです。友達や先輩との共同生活も想像以上に楽しく、まちがいなく一生の思い出です。



◆牧野 友紀 1年 地域科学部◆

今回のサマースクールで韓国へ行くまでは、授業で韓国語を「読む」ということには慣れていたのですが、「聞く」「話す」ということに関しては本当に自信がありませんでした。しかし、今回3週間韓国

へ行き実際に生活したことにより、少し自信がついたような気がします。また、今まで授業で読み書きしていた韓国語を、コミュニケーション手段のひとつとして考えるようになりました。特に、日本に帰ってきてからそれを強く感じます。日本に帰ってきて韓国語で話す機会というものが全くなくなり、とても寂しく感じています。

ソウル産業大学での授業はもちろんですが、毎日何をするにしても勉強で、本当に充実した3週間を過ごすことができました。日常でのパディの人たちとの会話であったり、店でのやりとりであったり、日々韓国語を耳にし、使うことで「使うための韓国語」という認識を新たに得ました。

そして、今まで勉強してきたほんの少しの知識でも簡単な会話ができるということに喜びを感じ、自分の韓国語が通じるということはとても嬉しかったです。しかし、やはり知識が足りず自分の気持ちが伝えられないということがたくさんありました。課題ができたことでもっと韓国語を話したい、話せるようになりたいと強く思うようになりました。

今回の経験で、普段机上で読み書きするだけでは分からないことをたくさん学ぶことができました。語学を学ぶ上で、環境というのはとても大事だと思います。友達、新しい考え方、その地へ行くことで新たに得るものはたくさんありました。もともと興味本意で選択した韓国語ですが、実際に韓国へ行って本当によかったと思っています。韓国語を勉強するのがもっと楽しくなりましたし、もっと韓国が大好きになりました。今回の経験を生かしながらこれからも韓国語を勉強し続け、もう一度韓国へ行きたいです。

◆松尾 有美 1年 教育学部◆

私にとって初めての海外渡航ということで、楽しみが多ければ多いほど、心配なこともたくさんありました。ですが、現地の学生さんや先生、食堂のおばさんなどの温かさに触れ、出国前の不安が日に日に消えていくのを感じました。たとえば言語が通じなくても、ボディランゲージや紙とペンでの筆談やお絵かき、簡単な単語を並べて話すだけでも、私たち人間はこんなにもお互いの意志を伝え合い、毎日を過ごすことが出来るのだな、ということに改めて気づかされました。普段語学を勉強していると、どうしても「完璧に話そう!」と思ってしまいがちですが、完璧じゃなくたって「話したい!」と

木 浦 大 学

●韓国 木浦大学参加者名簿（合計2名）

日程：2009年7月27日（月）～8月6日（木）2週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	岩 田 かな子	地域科学部地域文化学科	4
2	川 本 梨 絵	地域科学部地域文化学科	2



男女に分かれて全員で御堂に布団を敷いて寝ました。

次の日は、希望者はお坊さんと同じように朝の3時に起床し、セレモニーに参加しました。朝食の後、お寺の中にある建物を紹介してもらいました。お寺には博物館もありました。

食事は食堂でとりましたが、肉類は一切なく、ご飯と野菜のおかずが6種類くらいあり、ボールのような銀食器にご飯とおかずを入れて、ビビンバにして食べました。朝・昼・夜すべてが同じメニューでした。

【Samul-nori】

サムルノリとは、かね(꽝과리)・どら(징)・チャング(장구)・太鼓(북)を用いて行う韓国の伝統的な農楽のことです。様々な種類の打楽器があり、みんなで先生の合図に合わせて演奏しました。また、日本の能とか狂言のような、短い物語に合わせて演奏したり踊ったりしました。先生がユニークな方で、魅力的な話し方をするので、私たちは見る見るうちにサムルノリの世界に引き込まれました。

サムルノリは一日目の授業だったのですが、楽器を演奏したり踊ったりすることで、他の日本学生や、参加者たちと随分打ち解けることが出来たと思います。

【Tidal Flat Sediments】

ムアンにある干潟に行きました。汚れてもいい服装で出かけて行き、裸足で干潟に入りました。干潟には1~2センチくらいの小さな穴があちこちにブ

ツツツ開いていて、底を掘ってみると小さなカニや、ムツゴロウが出てきました。干潟の粘度の高い土はやわらかくひんやりとしていて、ズボズボと膝上まで沈んでしまうほどでした。

また、生きたままの小さなタコを食べました。天然の塩味が効いていて、おいしかったです。小さなタコでも吸盤の力が意外と強く、唇にくっついて、食べるのが大変でした。

日本にいたら、幼い子どものように、あんなにはしゃいで生き物を捕まえたり泥遊びしたりすることはないし、岐阜は内陸なので、絶対体験できなかったことだと思います。

【Understanding Other Countries' Culture】

参加者たちが、それぞれの国の文化を紹介する授業でした。民族衣装を身にまとしてプレゼンする人もいました。私たち、佐賀大学、神戸大学、岐阜大学の日本人チーム5人は、浴衣を着て、プレゼンしました。日本の食文化として、お好み焼きやたこ焼きの作り方を説明したり、日本の有名な曲「SUKI-YAKI」を紹介して歌ったり、日本の盆踊りを全員で踊りました。各国のプレゼンが終わった後は、全員で韓国の伝統衣装、「韓服（ハンボク）」を着て、記念撮影をしました。さまざまな国のプレゼンを聞いて、今まであまり知らなかった国のことも知れたことで、興味が湧き、またそれらの国にもいつか行ってみたいと思いました。

(川本 梨絵)



短期留学（サマースクール）参加者アンケート

グリフィス大学

[アンケート回収結果] 回収者7人／参加者8人中
回収率：87.5%

1. 先方の大学での研修について（表示の点数は、いずれも平均点を表示）
- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。
- Writing（Postの書き方、自分の町の紹介、テーマについて論述、テーマにそってA4 2枚を50分以内に書く）
4.2点（回答数：5）
- Reading（本、新聞、オーストラリアについてのプリント、本を読んで質問に答える）
4.0点（回答数：4）
- Listening（会話を聞いて、聞こえた文を書いたり、質問に答えたりする、CD、映画、ニュース）
3.7点（回答数：3）
- Grammar（現在完了、過去完了、過去進行形などの時制）
4.3点（回答数：6）
- Presentation
5.0点（回答数：1）
- Speaking（2人で様々な設定に合わせて会話をする、曲や問題）
3.5点（回答数：4）
- Spelling and pronunciation（語彙力）
5.0点（回答数：1）
- Speaking & Listening（Option class）
3.0点（回答数：1）
- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。
- カランビン（ゴールドコーストで最も有名な動物園、Griffithのtourで動物園を回った）の1日旅行
4.7点（回答数：3）

モートン島（モートン島に1泊2日、tourで行った）

5.0点（回答数：1）

射撃（本物の銃を使っ的に向かって撃った）

5.0点（回答数：1）

c. 先方の受け入れ体制について

- 1) 生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？
（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）
- ①ホストファミリー、同じ家に住む留学生
・家事全般
②窓口のスタッフ
・教室掲示の見方を教えてくれた。
- 2) 勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？
（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）
- ①担任の先生
・クラスに不満がないかよく聞いてくれた。E-mailアドレスを教えてくれて、24時間質問ができるようにしてくれた。
・まちがった英語の訂正
・自分の苦手分野を考慮して、どんな勉強に重点をおくべきか考えてくれた。
・勉強を教えてくれた。
- ②ホストマザー
・まちがった英語の訂正
- ③大学の友達
・まちがった英語の訂正
- 3) その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？
（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）
- ①同じホームステイの人
・いろんな所へ連れて行ってくれたりした。
- ②Receptionist
・カランビンのガイドをしてくれた。いろいろ話をした。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください）

適当 1人

長い 0人

短い 6人

（12週間：4人，半年：1人，1年：1人）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・インターネットの入金をもっと簡単にしてほしい。
- ・コピーを\$5~でなく，1枚からできるようにしてほしい。
- ・4：30に学校が閉まるのは早すぎる。
- ・自習室がないのが困った。
- ・とても充実していたし，満足している。

2. ホームステイについて

部屋の広さ 1部屋 8畳：2人，10畳：2人，12畳：1人

a. 部屋にあった設備を記入してください。

ベッド(ダブルベッドの場合もあり)，机，ベッドサイドテーブル，間接照明，クローゼット，ドレッサー，ソファ，テレビ，DVDプレーヤー，エアコン

b. 食事はどうしていましたか？

- ・朝：シリアル，ミルク，パン，フルーツ，フレッシュジュース，ティーを作ってくれた。
- 昼：バナナ1本。夜：1プレート(肉，野菜，ポテト or ごはん)。
- ・朝：自分で用意。昼：自分で買う。夜：ホストマザーの料理。
- ・朝：自分でトーストかシリアルを作って食べた。昼：自分で買って食べた。夜：作ってくれた。
- ・朝夕はもちろん，お昼はランチを持たせてくれた。
- ・朝：自分で作る。昼：自分で買う。夜：ホームステイマザーが作ってくれた。
- ・朝：自分でトーストを焼いていた。昼：サンドウィッチを作ってくれた(平日)。夜：マザーが作ってみんなで食べました。

c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・夜とても寒かった。
- ・インターネットが使いえなかった。
- ・洗濯は，あまりやってくれなかったので，自分でやった。

d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと，要望など記入してください。

(良かったこと)

- ・常に良いホストファミリーがいたので，何でも質問をして，すべての質問に細かく丁寧に答えてくれた。
- ・夕食の時には，オーストラリアの文化や歴史について教えてくれて大変勉強になった。
- ・バスの利用方法等，日常生活の事を教え，サポートしてくれた。
- ・安全
- ・家事をしてくれる。
- ・Griffithに通う中国人のほかに地元の大学に通うオーストラリアの人，ヨーロッパから学校に通う人がいて，みんな英語がペラペラで，そんな中で毎日生活できたことは良かったと思う。
- ・お昼を持たせてくれたし，とても親切で本当に良かったです！！
- ・学生1人，マザー1人だったので，話し相手が私だけなので，ゆっくり話すことができて良かった。しかし，マザーが1階に住んでいて，私は2階(台所，リビング，寝室，バスルーム有り)に住んでいたため，絡みが夕食時しかなくて，さびしかった。
- ・本当に親切で感謝しています。平日に昼食を持たせてくれたことが助かりました。

(悪かったこと)

- ・真夜中に寒かった。
- ・勉強机が小さかった(←ホストファミリーに相談したら解決。)

3. 生活全般について，トラブルがあればその対応も記入してください。

- ・トラブル：ブリスベン→シドニーのフライトが前日にキャンセルになった。

相談相手：ホストマザー

対応：自分で空港会社に電話して新しいフ

ライトを予約した。

- ・トラブル：バスが遅れたり、来なかったりして困った。夜歩くのが怖かった。

相談相手：友達

対応：早めに帰る。

4. 所要経費について（平均）

支出総額 489,454円

内 訳

参加費 382,000円（航空費・宿舎費含む）

食 費 32,786円

保険料 13,697円

その他 60,714円

参加費について

高い 5人 適当 2人 安い 0人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・留学生支援室の方や太田先生、生協の伊藤さんの説明は非常に分かりやすかった。
- ・メールをしっかりと送信してほしい。届かない場合が多々あった。
- ・スムーズにやっていただけたので、ありがたかった。
- ・分かりやすく迅速にできた。

（出発前の事前研修について）

- ・もっと高いレベルの内容をしてほしい。
- ・とても良かったです。
- ・今後どうすべきか先輩の話など具体的に分かり、安心できた。
- ・用事とかぶってしまったので、2週に1度くらいしかいけなかったけれど、自分のできなさがよくわかったので、出発前の気合を入れる機会となった。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・私の人生の宝になりました。大学1年次から、岐阜大学に来た留学生と関ってきたので、オーストラリアでは、過去に岐阜大学で仲良くなった友達がたくさんの素晴らしい場所を案内してくれたり、英語を教えてくれた

りました。留学はたった1ヶ月でしたが、私の大学1年から4年までのすべてが集約された感覚でした。帰国してからもホストファミリーと電話をして彼らは近々日本へ旅行をしに来るようなので、ぜひ案内して、この素敵な出会いを長く続けたいです。

- ・何か価値観みたいなものの視野が広がりましたし、英語をもっと深く学んで、話せるようになりたいと思いました。
- ・一番に、英語に生で触れることができて良かった。外国人の友達もたくさんできたし、価値観も変わり、もっと積極的になろうと思った。英語をもっと勉強したいと思った。
- ・本当に良い経験となった。英語で英語を勉強できたし、本当にたくさんの外国人たちと友達になることができた。初めて会う人とフレンドリーなコミュニケーションがとれるようになったし、オーストラリアの生の生活を体験できたし、たくさんの考えさせられることがあり、良い留学だった。もっと長くいたいと思った。
- ・オーストラリアで過ごした1か月は本当に充実していたし、楽しかった。日本に帰ってきたくないって思ったし、もっと居たいって思っていた。もう少し英語ができたならなーとも思ったけど、何とか伝えられることは出来たし、なにより、いろんな人と出会って、本当に良い経験ができた！！
- ・はじめはその日あったことを夕食の前に必死に英文にして、ホームステイマザーと話していたけれど、最後は英文にしないで夕食にのぞんでいた。正直、そんなに英語力がついたのかと言われると自信がないけれど、ただただ周りの人たちと会話がしたいという思いでいっぱいだった。今回の留学では本当に思っていることを伝えることができないまま帰国したので、もっと英語で外国の人と話したいという思いを強くもつことができた旅だったと思う。
- ・1か月がとても短く早く過ぎたと感じました。短い間でしたが、参加してよかったと思います。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・私は、他の日本人よりも英語に接する機会が多く、少しは慣れましたが、オーストラリアで「もっと日本でボキャブラリーを増やしておけば良かった」と何度か後悔しました。オーストラリアでは、「しゃべる」チャンスです。文法やボキャブラリーを覚えるのは日本でもできるので、しっかり勉強しておくといいと思います。しかし、1番大切なのは、日本でも英語に耳を傾けて、ネイティブスピーカーがいたら、積極的に話して、英語を話すことに対して恥ずかしがらない心を持つことだと思います。
- ・冬といっても昼間は暑いので、半袖の服も持っていった方がいい。
- ・旅行の予定は事前に立て、行く前に予約等した方がいいかも。
- ・自分が変わるかもしれません。ぜひ行ってみてください。
- ・大きな旅行は、ちゃんと前もって日本で予約をしていった方がいい。
- ・E-mailなどちゃんと連絡をとれる手段を準備して行くべき。
- ・案外うまいこといくからあまり心配しすぎる必要はない。
- ・夜はこわい。
- ・日本の英語の参考書は、必要ないと聞いていたので、持っていかなかったが、実際行ってみると、必要だと思うことが何度もあったので、余裕があれば持って行くといいと思う。
- ・私はよく学校帰りは歩いて帰っていたが、この時、日本の友人と一緒に帰る機会が何度かあり、その時に、日本語は使わず、英語しかしゃべらないというルールをつくって実行していた。多分これがすごくためになったので、同じ日本人同士でもせっかくだから英語を使うように心がけるといいと思う。
- ・積極的に話すことが大切。
- ・日焼け止めが必要。
- ・スーツケースは大きいほうがよい。

8. お礼の手紙について

- 出した（帰る前に渡した場合を含む） 7人
 （誰に？ ホストファミリー 7人 一緒にホームステイしていた学生 2人）
 出していない 0人

備考

- ・帰る前に長文の手紙を書いて直接渡したので、日本へ帰ってからは、E-mailのみしか送っていません。

ソウル産業大学

[アンケート回収結果] 回収者7人/参加者7人中
 回収率：100%

1. 先方の大学での研修について（表示の点数は、いずれも平均点を表示）
- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。
- 基礎韓国語（文法、発音、簡単な動詞） 3.6点（回答数：5）
 - 基本文法 4.0点（回答数：6）
 - 発音 4.3点（回答数：4）
 - 会話 4.5点（回答数：4）
 - 読み 5.0点（回答数：2）
 - 韓国文化を学ぶ 5.0点（回答数：3）
 - 韓国音楽 5.0点（回答数：2）
- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。
- 民族村見学 2.7点（回答数：3）
 - 楽器演奏 4.3点（回答数：4）
 - 民族博物館 4.0点（回答数：1）
 - Nanta 観劇

- 5.0点（回答数：4）
テコンドー
- 4.8点（回答数：6）
料理
- 4.5点（回答数：6）
寺院滞在
- 2.5点（回答数：2）
フィールドトリップ Changdeokgung／国立民族博物館
- 3.7点（回答数：3）
お面作り
- 4.5点（回答数：2）
Pop-music
- 5.0点（回答数：2）
マナー・韓服
- 4.5点（回答数：2）
文化遺産観光
- 5.0点（回答数：1）
韓国映画
- 5.0点（回答数：2）

c. 先方の受け入れ体制について

- 1) 生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？
（その人はどんなことをしてくれましたか？
何か問題はありましたか？）
 - ① Sehoon Jung 先生（語学センターの先生）
 - ・毎日付き添ってお世話していただきました。
 - ・大学周辺、寄宿舍、教室の案内
 - ・PC 利用環境の設定
 - ② バディ・クラブ（留学生と交流してくれる学生の部活、1人に対して1人の韓国人学生がついて世話をしてくれる。）（バディ：チョン・ヘジン、ホン・セヒ、ユン・ヒョンジュン）、岐大留学生の友人（パク・キンス）
 - ・大学周辺、寄宿舍の案内
 - ・生活必需品の買い出し（近くのスーパーの紹介）
 - ・アクティビティの授業を一緒に受けてくれた。
 - ・遊びに連れて行ってくれた。
 - ③ 保健の先生、食堂関係者
 - ・体調管理（最初の1週間の間、毎日体温を測ってくれました。）

- 2) 勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？
（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）
 - ① キム・チュンジュ先生（月・水担当／ソウル産業大の先生）、クォン・オヒ先生3（火木担当／キョンヒ大学の先生）
 - ・基礎韓国語の授業（休み時間の指導も含む。）
 - ・留学生の紹介
 - ・韓国語の単語帳をほしい人に、割引で提供してくれた。
 - ② バディ
 - ・勉強の手伝い（ただし、勉強は基本、自分でする。）
 - ・ガイドさんが韓国語や英語で説明をしていた時など、わかりやすく英語または少しの日本語で説明してくれた。
- 3) その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？（名前、分かれば役職も教えてください）
（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）
 - ① チューター（バディ）、岐阜大学留学生の友人、寮の学生たち
 - ・休日に遊びに連れて行ってくれた。
 - ・宿題を教えてもらった。
 - ・自宅にも招待してくれた。
 - ・敢えていうなら、連絡手段がなかった。
 - ・バスのシステムで不安なことがあったときに安心できるまで教えてくれた。
 - ・寮や学内施設・設備の説明や地下鉄・バスの乗り方を教えてくれたり、私達が行きたいところまで時にはついて来てくれたりしました。
 - ・普通の旅行者では行けないようなところにたくさん連れて行ってくれました。
 - ② 偶然、食堂で出会った人
 - ・食堂に初めて行った時、食堂のおばさんにこの食堂ではないと言われた際に交渉してもらった。
- d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください）
 - 適当（回答数：4）
 - 長い（回答数：0）
 - 短い（回答数：3）

（4週間：1人，8週間：1人，4～5週間：1人）

- e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。
各国で勉強してきているレベルに差があった（岐阜大学参加者のなかでも）。

2. 寮について

部屋の広さ 1部屋（5畳：1人，6畳：1人，7畳：1人，7～8畳：1人，10畳：1人）

- a. 部屋にあった設備を記入してください。

個室（2人部屋）：有線 LAN ケーブル，扇風機，ベッド（下にタンスあり），クローゼット，机，いす
共用：ソファ，テレビ，クーラー，冷蔵庫，洗濯機，洗面所，シャワー（シャワーのみ），トイレ（2箇所）

- b. 食事はどうしていましたか？

- ・朝は学食，昼は学内のカフェ，夜は外食。
- ・朝食・夕食は食堂で（経費に含まれるため），昼食はコンビニで買ったり食堂で食べたりした。
- ・基本朝食・夕食は寄宿舎についている食堂へ行き，昼食はカフェテリアや一般の学生たちが行く食堂に行っていた。夜は学校の前のお店（焼肉やトッポッキ，ピザ等）に食べにいたりすることも多かった。
- ・朝：食堂（無料）又は，自分で買ったパン。
昼：学生会館のカフェテリア，食堂（有料）。
夜：食堂（無料），学校の近所で外食。
- ・寄宿舎の食堂，学校前の飲食店，学校内のコンビニ・カフェテリア。
- ・朝と夜は食堂で食べられます。夜は外食も多かった。昼はカフェテリアでパンを買ったりしました。

- c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・部屋ではお湯（カップラーメンが作れるほどの）などなく，調理をすることのできない環境だったため，少し困ることがありました。
- ・私の部屋には，洗濯物干しがなかったので，

隣の部屋で借りました。

- ・部屋によって日当たりが違い，エアコンの設定温度が私たちには寒かった。

- d. 寮について良かったこと・悪かったこと，要望など記入してください。

- ・共同生活は本当に楽しいし，多くを学べます。台湾の学生と共同生活ができたのも，貴重な体験でした。
- ・最初はすごく汚かったです。また，前いた人の荷物が置いたままになっていて良い印象を受けませんでした。ですが，一度掃除してしまえば，とても住み心地がよかったです。良かった点はリビングルームがあり，個室が付いているという作りであり，同室であったみんなと共同生活を味わうことができた点です。
- ・設備が新しくとてもきれい。使いやすい。私たちは7階の部屋だったが，エレベーター完備だったので楽だった。テレビはNHKの衛星放送が観られるほか，韓国の番組はもちろん，中国の番組も見られる。
- ・3週間仲間と共同生活することで，とても絆が深まり，日本にいるときよりもお互いに親密になった。
- ・2人部屋がいくつかあって，1つの大部屋だったので，毎日コミュニケーションがとれて，とても楽しかったです。

3. 生活全般について，トラブルがあればその対応も記入してください。

なし

4. 所要経費について（平均）

支出総額 174,571円

内 訳

参加費 110,857円（航空費・宿舎費含む）

食 費 15,333円

保険料 7,588円

その他 45,000円

参加費について

高い 0人（航空費は高かった 1人）

適当 2人

安い 5人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・最初から最後まで大変お世話になりました。
- ・公募が知りにくかった。はじめ、5人までの受入れと聞いた。5人を超えているにも関わらず、留学生課は期限まで募っていた。しかし、その後で実は先着順だと聞かされ、あとで応募した子たちは行けないと言われた。またまた、その後、10人まで行けるようになったと連絡が入ったが、情報をもっと分かりやすく提示してほしい。（受入数の変更についてはソウル産大側の都合による。）
- ・航空チケットの手配を最初から全員分するようにある程度指示してもらえると良かったと思います。

（出発前の事前研修について）

- ・留学生と学生主体で研修させていただき、仲間も自然と深まり、本当に良かったです。
- ・会話や韓国での生活について学ぶ機会（韓国留学生による授業）を作っていただいたことにより、韓国での生活に役立ちました。
- ・留学生課から得た情報と現地での対応が全く違った。（送迎の有無など）
- ・留学生課の現地情報が少ないため、自分で調べた。
- ・とても充実した楽しい時間でした。事前に学校や近郊の様子も知ることができ、良かったです。
- ・韓国の留学生に韓国語を教えてもらいました。感謝しています。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・本当に3週間充実した日々でした。初めは韓国ドラマや音楽が好きという理由で参加しましたが、韓国という国や人、言語も興味を持って帰ってきました。それは本当に先方の暖かい受入れのおかげです。感謝しています。
- ・参加して本当に良かったと心から思う。これに参加したことで、韓国人や韓国に留学してきている他国の人も友達になれたこと、また同じ経験をした日本の仲間をもてたことをとても嬉しく思う。さらに、韓国語だけでは

なく、英語と触れ合えたことも良い刺激になって良かった。

- ・プログラムでこんなにもやってもらってよいのか？と思うくらいのものでした。（あんなに安いのに…（笑））授業はもちろんでしたが、課外活動に行くことが多くて充実していたと感じます。ですが「韓国語を勉強した！！」と感ずることができなかった点が悔しいです。また、直接学校を通しての人とも友達になることができてよかったです。さらに、岐阜の学生とも3週間濃い生活ができ、これからも良い関係を築いていくことができそうです。このプログラムに参加することができてとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・3週間はとても短いもので、すぐに終わってしまった気がする。韓国語の勉強ができたのはもちろん、韓国の学生と一緒にサマースクールを過ごした台湾人の学生、その他大学内の寮に住む様々な国の留学生と交流できるなど、幅広く、多くの友達を作ることができた。韓国の文化に触れることはもちろん、平日頃から学生たちと交流するので自然と韓国語を使うことができた。韓国の学生はいつも行動を共にしてくれ、いろいろと教えてくれて、とても感謝している。楽しく、問題無く3週間を過ごせたのは彼らのおかげである。また機会があれば、もう一度行きたい。
- ・最初は、言葉が上手く通じなくてどうなることかと思ったけれど、みんなとても優しく、毎日毎日があらたな体験で満ちていました。私にとって最初の海外旅行でもあり、今回の短期留学は私のこれからの進路に大きな影響を残すものとなりました。長期留学も視野に入れて大学生活を送っていきたいと思います。
- ・私にとって、すごく楽しかったし、価値のある3週間でした。今まで海外にも行ったことがなかったのですが、他の文化に触れ、日本との違いを知ったり、学んだりするのはとても興味深かったです。じぶんたちについてお世話をしてくれたバディの学生たちや大学の寮生たちはとても気さくで、3週間という期間でしたが、仲良くなることができました。外国の人と接して仲良くなるのがこんなに

も楽しいなんて思っていませんでした。これからも連絡を取り合っていきたいし、会えたらいいなと思います。彼らと接する中で、自分の英語力、韓国語の力のなさも身にしみてわかり、これから勉強しなくてはいけないし、勉強したいと思えるようになれました。一緒に参加した友達や先輩にも仲良くさせてもらい、忘れられない旅になりました。参加して本当に良かったです。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・ パソコンは学内にもありますが、持っていくと便利です。
- ・ 韓国人留学生は、たくさんのことを教えてくれます。
- ・ 普段から一緒に遊んでいたのので、友人も紹介してもらいました。
- ・ 絶対にスーツケースは大きいのがいいと思います。
- ・ 自分の周りにいる人だけではなく、寄宿舎の周りにも怖がらずに話しかけると良いと思います。日本に興味を持っている人が多く、快く様々な話をしてくれます。
- ・ 3週間というのは最初に思っている期間よりも短いと感じると思うので、その一瞬一瞬を大事にしてほしいです。
- ・ 韓国の学生・先生との日常会話は英語であるが、簡単な韓国語が使えると良い。また日本語がとても上手な学生が何人もいたので、どうしても困ったときは頼れる。
- ・ パソコンは必須。寮にはインターネットが敷かれているので、無料で利用することができる。持っていかなくても、大学内で利用できる場所はあるが、やはり自分のパソコンを持って行った方が便利。日本へのメールなどはもちろん、友達になった学生たちとコンタクトが取りやすい。写真などをその場で彼らと交換できるのでよい。また、メールなどでコミュニケーションをとった方が伝わる時があるので、いいと思う。
- ・ 事前に、日本のおみやげを、かなり多く持っていくとよい。交流する学生、お世話になる人はとても多いので…。
- ・ 日用品は近くのスーパーで買うことができる。雑巾やゴミ袋、シャンプー、石鹸、洗濯洗剤、ハンガーなどを買った。ダイソーなどが学校周辺にあるので、日本から多く持っていくかなくても、必要なものは何でも買うことができる。
- ・ 買い物は、現金はもちろん、クレジットカードがあると便利。現金は、日本円でいくらか持っていき、必要に応じて学校内の銀行で韓国ウォンに換金できるので、韓国ウォンに空港の銀行でたくさん替える必要はない。
- ・ とにかく自分の知っている単語・例文を実際に声に出して使ってみることで、どんどん新しい会話につながっていくと思います。なので、事前に基本的な単語・動詞・言い回しを確認してサマースクールに望めば、もっともっと有意義に3週間を過ごせると思います。
- ・ 日本のお菓子やグッズをたくさん持っていくと良いと思います。行く前に、韓国の流行の曲や芸能人を知っていると、会話が弾みそうです。

8. お礼の手紙について

- 出した 5人
- 出していない 2人

備考

- ・ 先生方にはメールする予定です。
- ・ 韓国人のバディ・クラブと一緒にサマースクールを過ごした台湾人の子たち、お世話になった先生たちに、1人ずつ、みんなで寄せ書きをして、帰国前に渡した。また、帰国後に個人的に台湾人の子たちや韓国人の学生に改めて、手紙を出した。住所が分からない人はメールでお礼をした。
- ・ 最終日に参加者全員で、先生、一緒に3週間プログラムに参加した台湾の学生、バディに寄せ書きを渡し、個人的にバディと特によくしてもらった台湾の子に手紙を書いて渡しました。

木 浦 大 学

[アンケート回収結果]：回収者2人／参加者2人中
回収率100%

1. 先方の大学での研修について（表示の点数は、 いずれも平均点を表示）

- a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Understanding about Korean History and Culture

3.0点（回答数：1）

韓国語（入門レベル）Korean Class

2.5点（回答数：2）

- b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

サムルノリ Samul-nori

5.0点（回答数：2）

ヒュンダイの造船所 Visiting Hyundai-Sambo Shipbuilding Co.

3.5点（回答数：2）

韓国料理講座 Making Korean Traditional Food

5.0点（回答数：2）

珍島 Jin-do Area

4.0点（回答数：2）

Exploring Haenam

3.0点（回答数：1）

テンプルステイ Temple stay

5.0点（回答数：2）

韓国のお茶会 The Art of Ceremonial Tea-making

5.0点（回答数：2）

韓国の凧揚げ Making a Korean Traditional Kite

5.0点（回答数：2）

韓国のやきものづくり Making Korean Pottery

3.5点（回答数：2）

ムアンの干潟 Tidal Flat Sediments in Muan

5.0点（回答数：2）

Exploring Bosung area

4.0点（回答数：1）

各国参加者による自国紹介 Understanding Other Countries' Culture

5.0点（回答数：2）

韓国の歴史

3.0点（回答数：1）

木浦市散策

3.0点（回答数：1）

緑茶畑

4.0点（回答数：1）

ハス公園

4.0点（回答数：1）

c. 先方の受け入れ体制について

- 1) 生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）

①チューター

・生活に必要なものを買に行く際一緒についてきてくれたり、韓国語を教えてくれたりした。

②ユン先生（おそらく留学生センターの事務）、木浦大学の教授(女性)、昔木浦大学の教授で、現ロシアの大学の教授（男性）

・司会、引率、何かあったときに報告をした。

- 2) 勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）

①チューター

・問題はなかった。

②韓国語の先生

・韓国語の授業（全部で3回）。

- 3) その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）

① English name がジョセフという事務の男性の方。

・司会、引率、何かあったときに報告をした。初日に学校到着後、夕飯を食べていないといたら、夕飯を食べにつれて行ってくれた。

②ユ先生

・プログラム全体を通して、時間管理など、留

学生に付いて様々なことをしてくれた。

③韓国人学生チューター

- ・寮に泊り込んで一緒に生活した。
- ・外に遊びに行くときつきそってくれた。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください）

適当（回答数：0）

長い（回答数：0）

短い（回答数：2）

（3週間：1人，4週間：1人）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・プログラムは全体を通して英語で進められ、他国の留学生も全く韓国語を話せない人たちがばかりだったので、韓国語を勉強するつもりで行ったのだが、必要なのは英語力で、なかなか韓国語を使う機会がなかった。
- ・授業も説明も全て英語だったので、わからないことが多く困った。

2. 寮について

部屋の広さ 1部屋(約6畳：1人, 約8～10畳：1人)

a. 部屋にあった設備を記入してください。

シャワー、トイレ、洗面所、エアコン、ロッカー、机、ベッド、ブラインド、靴箱、たな（ベッドの上、机の上、洗面所）、洗濯物をかけるところ、ベッド、扇風機

b. 食事はどうしていましたか？

- ・寮の食堂で。
- ・寮の食堂，うち2日は外食だった。

c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・蚊が多い。

d. 寮について良かったこと・悪かったこと、要望など記入してください。

- ・シャワーやトイレが2人に1室あったことと、エアコンがあったのはよかった。トイレトペーパーが支給されないのは困った。日当

たりも悪くて、洗濯物がなかなか乾かなかった。

- ・部屋は収納スペースや洗濯物をかけるところが多くて使いやすかった。
- ・韓国人と同室だったので、けっこう日常で使う韓国語を勉強できた。違う国のひとどうしが二人部屋になっていたのも、他の参加者もとても楽しそうだった。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

なし

4. 所要経費について（平均）

支出総額 56,050円

内 訳

参加費 22,050円（航空費・宿舎費含む）

食費 1,500円

保険料 0円

その他 29,000円

参加費について

高い 0人

適当 0人

安い 2人

備考

- ・電車、バス、フェリー代だけで、宿舎費は無料でした。
- ・その他は、木浦の時の小遣い、プログラム終了後、ソウル観光をしたので、その費用。

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・岐阜大学から木浦大学へ、私たちがいつ行くか連絡がされていなかったため、木浦大学の日本語が話せるチューターから自宅に電話がかかってきて途中心配だった。

（出発前の事前研修について）

- ・サマースクールの内容に関する情報が少なすぎた。
- ・会話の練習をもう少ししてほしい。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・最初は、日本以外にも、ロシア、スペイン、中国、マレーシア、台湾という諸外国から留学生がいるために、プログラム自体が英語で進み、他の留学生たちとのコミュニケーションがうまくとれなかったり、韓国語を学びたい、という気持ちが満たされなかったりして、楽しいものではなかった。英語で話すことにも少しずつ慣れてきてからは、いろいろな国の文化に触れることが出来て、とても充実した時間を過ごすことができた。いろいろな国に友達が出来て、いつかその国々を訪れてみたいと思った。そして、私自身も、もっと日本の文化を知って、日本を紹介できるようになりたいと思った。
- ・今回はいろいろな国の人と関わることができてとても勉強になったし、世界中に友達ができすぎてうれしかった。韓国語の授業が入門レベルで3回しかなかったので、あまり韓国語はできなかったと思っていたけど、韓国人と同室だったことや、チューターが日本人に優しくしてくれ、わかりやすい韓国語を話してくれていたのが、生きた韓国語を勉強することができた。また、木浦大学のサマースクールは参加費が無料というのも魅力的だ。ソウルに比べて物価も安いので、プログラム中に使うお金はほとんどなかった。木浦大学のサマースクールは何年も前からやっており、「思い出づくり」がたくさんできるようになっていたと思う。フェアウエルパーティーの時にアルバムをもらったり、寄せ書きも学校側が用意してくれたりしていた。これらを作る時間もプログラムに組み込まれていた。私は今回、木浦という、韓国の田舎町に行けたことがとても楽しかった。飛行機でふらっと短時間で行くのも良いが、フェリーや電車、バスを乗り継いでいくと、人々の生活をのぞくことができるととても興味深かった。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・英語力・日本特有のお土産・レターセットを持っていくといいと思った。
- ・私はソウル産業大学と木浦大学の両方に行き

ましたが、木浦はソウルとはまた違う楽しさがあります。参加者が違う国のひと、というのも良さの一つです。日本語を話せる韓国人もたくさんいますが、韓国語と特に英語がメインなので、どちらかができたらプログラム中には不自由しません。私はどちらもできないので不自由しまくりでした。しかし、できないなりになんとかついていこうとすると勉強になります。参加費が無料なので、費用の面ではあまり問題なく行きやすいと思います。ソウルではできないような韓国ならではの体験もたくさんできるので、ぜひ行くことをおすすめします。

8. お礼の手紙について

- | | |
|-------|----|
| 出した | 1人 |
| 出してない | 1人 |

備考

Facebookで連絡はとったが、お礼状というと、誰に出してよいかわからない。

〔特別寄稿〕

ソウル産業大学サマースクールに参加して

学術情報部国際企画課 留学生支援室 事務補佐員 都築 真弓



キャンパス内の噴水（語学堂の前面）

1. 申し込み

申請用紙に記入するメールアドレスは、一番よく見る携帯のアドレスにしたほうがよかった。大学の休日に、ソウル産大から空港でのピックアップについてのメールが届いていたが、気がついたのは、帰ってきてからだった。

2. チケットの購入

インターネットでeチケットを購入。1週間滞在のチケットで金額は手数料など込みで約4万円だった。同じチケットでもう少し安いチケットもあったが、空席がなかった。申し込んだ日からキャンセル料が発生することには驚いた。

入金はコンビニで行った。すごく簡単で振込料も少なく済んで便利だと思った。

3. 仁川空港から高級リムジンバスにて移動

空港から高級リムジンバスにて移動。蘆原（ノウォン）行きのチケットは14,000ウォン。ソウル産業大学に一番近い下溪（ハゲ）駅はノウォン行きバスの終点。

空港内のバスのチケット売り場でチケットを購入して、空港の出口を出るとバス乗り場がある。ノウォ

ン行きのバス乗り場は3Bと10Aの2か所。3Bの停留所で人を乗せた後10Aの停留所に行くので、確実に座りたい人や、降りるのが心配で運転手の近くに座りたい人は3Bから乗ったほうがよい。私は、確実に降りれるかどうか心配で、運転手の近くに座りたかったので、3Bの乗り場から乗車。

バス停にバスが来ると荷物をバスに入れてくれる係りの人が来るので、その人に自分が降りる駅を告げ、荷物を預け控えの札を受け取る。

高級リムジンは3列シートなのでゆったり座ることができ、乗り心地もよかった。

ソウルの街中を抜けるまでバスの停留所はなく、最初の停留所の水落山（スラッサン）駅から終点のハゲ駅までは10分くらいだったような気がする。

4. ハゲ駅からソウル産業大学まで

ハゲ駅は、駅と言ってもほかのバスも停車する普通の停留所。駅のすぐ近くの道路にタクシーが止まっていた、簡単にタクシーに乗ることができた。ハゲ駅から大学の門まではほぼ基本料金2,400ウォンだったが、門から寄宿舍までの距離が結構あって、それでも3,000ウォン位だった。

タクシーを降りて歩いていると、バディの学生が声をかけてくれて、寄宿舍に案内してくれた。



ソウル産業大学正門

5. 寄宿舎に入室

引率の先生2人を含む1週間コースの金沢工業大学の学生と一緒に、入室前のオリエンテーションと体温の計測を受けた。

私たちが着くとすぐ保健管理センターの先生が車でおいでになり、寄宿舎の1階の食堂で、手の洗い方の講習と体温の計測があった。ただとても暑い日だったことと、オリエンテーションを行った食堂にクーラーが入っていないことが、首の頸動脈あたりで図る体温計だったので、脇の下より温度が高く計測されやすいこともあり、何度も何度も計測された。私は37.4度あり、その日は夜7時に先生が部屋まで来て再計測があった。日曜日だったにも関わらず、保健センターの先生がいらっしゃったこと、思った以上にインフルエンザの対策が徹底していることに驚いた。



寄宿舎（1階は食堂）

6. 寄宿舎（ドミトリ）

寄宿舎は男子寮と女子寮に分かれていて原則女子寮に男子は立ち入ってはいけないことになっている。私も含め岐阜大学の学生は2007年に完成したKB Dormitoryという寄宿舎の7階の部屋を使わせていただいた。ソウル産業大学の建物の側面には建物番号があり、外国から来た人には建物を探すのにとっても便利だと思った。KB Dormitoryの番号は42番で、2階か3階までは大学のゲスト用の部屋にもなっているようで、金沢工業大学の引率の先生（男1名・女1名）もこの宿舎を使用されていた。

通常だと、部屋に入るのにカードキーを使うそうだが、サマースクールの学生にはカードキーはなく、常に玄関のドアはかぎが掛かっていない状態だった。

ドアを開け中に入ると、そこにはリビングがあり、テレビ・冷蔵庫・ソファ・物干し・クーラー・掃除機があった。床は木のフローリングで（床暖房と思われる）温かみがあって清潔感があった。窓も二重窓になっていた。リビングの奥には2ベッドルームが3室あり、6人の学生が生活できるようになっていた。

各部屋のドアは各自に知らされた暗証番号でロックすることができ、ドアを閉めると自動ロックされるようになっていた。しかし間違えると警告音が鳴り、私は夜中に鳴らしてしまい、焦った。部屋には、勉強机・いす・ベッド・片面の壁には扇風機が設置されていて、インターネットも設置されていた。ただ、一部屋はせまいので、話し声や音楽を聴くときなどお互いに気配りが必要だと思った。私は幸いに同居人はいなかったため、気楽でよかった。

寄宿舎の中には、洗面台2・トイレ2・シャワールーム1・洗濯乾燥機1があった。



寄宿舎内（ベッドルーム）



寄宿舎内（リビング）

シャワーは1つなので、6人の女子学生の場合は朝組・夜組と分けて使用していたようだ。

寄宿舎を退去するときは、掃除は各自が行い、本学国際交流会館のように掃除チェックはされなかった。

3週間のサマースクールの岐阜大生の部屋の冷蔵庫は、以前の学生が食べ物を入れたままで退去したらしく、彼女たちは入居した日の夜中まで掃除をしたということだった。

7. 授業

午前の授業は9:30から12:20まで。午後の授業は14:00から15:50まで。午前の授業中には、先生が10分程度のトイレ休憩を途中に入れてくださった。

授業は英語で進められるが、内容はわたしでも理解できた。授業はテキストに沿って進められるが、3週間コースの学生は台湾の学生と一緒にいたこともあり、テキストが英語+韓国語で、ちょっと苦労したようだ。

授業中は絵や字の書かれたカードを使ったり、二人一組でペアになったり、グループで学習したりとても楽しかった。テキストの練習問題は宿題になったり、小テストもあった。宿題と復習で毎日1時間以上は部屋で勉強をしたと思う。

サマースクールに参加する前に、事前の韓国語研修があったので、岐阜大学の学生のレベルはかなり高く、学生たちはソウル産大での授業は簡単すぎたかもしれないが、初歩からやり直すことができよかったという学生もいた。

岐阜大学以外の学生で、台湾の学生の韓国語のレベルは初級だったが、3週間目にはハングルも読める状態だったし、授業も問題ない学生がほとんどだった。台湾の学生は、英語はもちろん日本語も話せる学生がいて、感心した。

1週間コースの金沢工業大学と室蘭工業大学の学生のレベルは初級程度だったと思う。サマースクールは毎日のBasic Koreanのほかに、3週間コースには韓国のお面作り、陶芸、韓国料理作りなどの体験授業があったようだ。最後の1週間には、韓国の伝統マナーや伝統衣装の体験授業、韓国大衆音楽の授業（この授業の講師の先生はとてもユニークな先生で、歌あり、踊りありで、あっという間に授業がおわってしまった）、またソウル国際禅センターで禅の講義（英語で講義があったが、英語と内容が難

しすぎてよくわからなかったのが残念だった）と座禅の体験をした。

また最後には、ユネスコ世界遺産のChangdeokgung（昌徳宮）と国立民族博物館の見学があった。このときは建物の説明をしてくださる専属のガイドさん（ソウル産大がサマースクールのために雇ってくれていた）が英語で建物や歴史について、バスの中からクイズなどを入れてわかりやすく説明してくれた。

課外授業では観光バスを使って移動するのだが、大学所有の大型バスだったので、本当にびっくりした。岐阜大学にも大型のスクールバスがあるとよいと思った。



昌徳宮



韓国大衆音楽の授業風景



ソウル国際禅センター
(後方は、ソウル産大の大型バス)

8. 食事

朝食と夕食は42番寄宿舍の向かいにある43番寄宿舍の1階にある食堂で食べた。一般の学生たちは入り口にある機械で指紋を認証して食事をとっていた。私たちはサマースクールの名札をかけて食事をした。

朝食の時間は7:30から9:00まで。夕食は17:30から18:50までと決まっていた。

ご飯・キムチが2種類・おかず・汁物があり、汁物は食堂のおばさんがついでくれて、「たくさん食べなさい」と言ってくれてとても親切だった。中には汗が出るくらい辛いものもあったが、残したら申し訳ないので頑張って食べた。どれも韓国家庭料理といった感じで、おいしかった。とくに印象に残っているのは、ビビンバとコロケとカレーライス。辛い韓国料理の中で、甘口のカレーがほんとおいしかった。

ただ、夕食が終わる時間が早いので、授業後どこかに出かける学生は食堂で食べず外食する人もいた。朝食も食事時間に間に合わない学生はパンなど買って食べていた。

昼食は、学生会館の食堂で各自お金を払って食事した。

定食が5種類くらいあり、値段は2,000ウォンから3,000ウォンと安く、もちろんおいしかった。食堂で食べない学生は、学生会館内にあるコンビニでお弁当を買ったり（コンビニはすべて定価の1割引きだったので驚いた。ただしレジは学生がやっているようで、おつりがよく間違っているのに注意される様子が言われた）、コーヒーショップでサンドイッチを買って食べていた。



食堂での食事

9. バディ

サマースクールの学生ひとりひとりにソウル産業大学の学生が付いてくれて、午後の授業と一緒に参加して授業のお手伝いや通訳をしてくれたり、見学に行くときは写真を撮ってくれたり、布団を部屋に運んでくれたりといろいろお世話してくれた。時々しか来ないバディもいたが、授業後も買い物に付き合ってくれたり、自分の家に日本人学生をホームステイに招待してくれたバディもいたようだった。

ただ、日本に留学したいとか、日本に興味があるからバディになった人ばかりではないようで、日本語が全く話せないバディ（彼は日本の首都は京都かと私に聞いてきたし、話すときはいつも英語だった）や、日本でなくアメリカに留学したいというバディもいた。

バディの中に岐阜大学に交換留学に行きたいという学生を探してみたが、見つかることができなくて残念だった。交換留学中にとった単位をソウル産大で生かして早く卒業したいので、工業系大学に留学したほうが自分にとって良いと言った学生もいた。

岐阜は日本の中心に位置し、東京にも京都や大阪にも行くのに便利で、良いところだとアピールしてきたので、たくさんの学生が交換留学に来てくれると良いと思った。

最終日のフェアウェルパーティーの時にサマースクールに参加した学生と同様にバディも修了証をもらっていて、記念に残ってとてもよいと思った。

バディは単にサマースクールに参加した学生のお世話係りという存在だけではなく、韓国のいろいろなことを教えてくれて、「もう一度韓国に来て勉強したい」という気持ちにさせてくれた存在だったと思う。



修了書を受取る岐大生

10. 岐阜大学の学生の様子

私は最後の1週間しか、参加できなかったが、岐阜大学の学生は、他大学の学生に比べ何事にも積極的で、学習のレベルも高く優秀だったと思う。ただ、サマースクールが終わりに近づくとつれ、授業中にくとうとして、先生に「体調がわるいのか？」と心配を掛ける学生もいた。

また、本学から参加した学生は自分たちで考えて、バディ・台湾の学生・授業をしてくださった先生にお礼の寄せ書きを作っていたようだった。手作りでとてもいいと思った。

金沢工業大学の先生に「どうして岐阜大学の参加者は女子ばかりなのか？」と聞かれたが、来年は是非、男子学生も参加してほしいと思う。

11. 最後に

今回のサマースクール参加において留学生センター太田先生、留学生支援室の皆さんに大変お世話になり、ありがとうございました。

1週間という短い期間でしたが、韓国語はもちろん、今の自分の仕事においても大変勉強になりました。私が得たソウル産大の情報は来年のサマースクールに参加する皆さんのためにぜひ役立てたいと思います。

参加した学生さんに伝えたいことは、自分が思っている以上に周りのたくさんの人の協力が合って参加できたことにもっと感謝してほしいということです。自分たちの力だけでやり遂げたサマースクールのように思っていたかもしれないけれど、留学生センターの先生、ソウル産大の職員の方々、岐阜大の職員、ソウル産大の留学生、生協の職員、両親、家

族の目に見えない協力やサポートがなかったら、こんなに楽しい留学はなかったことに、きっと何年か後に気がつくと思います。私も学生時代はそうでしたから。

ほかの大学に比べ、勉強意欲も高く、何事にも積極的な岐阜大学の学生はソウル産大でもきっと高い評価を受けたことと思うし、私も岐阜大学からの参加者として、鼻が高かったです。

最後に、バディとの楽しい思い出だけが留学ではないし、留学で得たことをこれからの学生生活や人生に是非生かしてほしいです。

語学留学することは簡単には実現しないかもしれないけれど、実現するまであきらめずに夢を持ち続けてください。私も、今でも夢をあきらめずに持ち続けています。



ソウル産大担当者とともに
(筆者：中央)



ソウル産大語学堂

岐阜大学短期留学（サマースクール）担当者一覧

部 局 等 名	氏 名	担 当
留学生交流委員会委員長 教学担当理事	古 田 善 伯	総括責任者・日本事情講義
留学生交流委員会 副委員長 留学生センター長	小 林 浩 二	副総括責任者・エクスカーション引率・ 日本事情講義
教 育 学 部	大 関 泰 宏 ★	エクスカーション引率
地 域 科 学 部	小 西 豊	エクスカーション引率
医学系研究科・ 医 学 部	高 橋 優 三	医療担当
工 学 部	大 矢 豊	エクスカーション引率
応用生物科学部	岩 澤 淳	エクスカーション引率
連 合 大 学 院	深 田 恒 夫	会計監査
留学生センター	太 田 孝 子	派遣コーディネーター・日本事情講義・広報
留学生センター	森 田 晃 一	受入コーディネーター
留学生センター	橋 本 慎 吾 ★	日本語授業・日本事情講義・歓送会
留学生センター	土 谷 桃 子 ★	受入コーディネーター・歓送会・ エクスカーション引率
留学生センター	吉 成 祐 子 ★	日本語授業・広報

★は、留学生交流委員会委員ではない者を示す。

今年度、サマースクール（受入）報告書の編集を担当させていただきました。サマースクール（受入）では日本語授業を受け持っていたので、サマスク生とは授業内での交流が主でしたが、こうして報告書の内容全体に目を通してみると、1ヶ月あるいは2ヶ月のサマースクール（受入）期間に彼らが様々なことを経験し、充実した日々を過ごしたことがよくわかりました。そして、短期間ながらも確実に彼らの日本語力が向上する理由もわかりました。日本語授業での学びが寄与しているのはほんの一部であり、サマースクールで行われる全ての活動や経験があるからこそその向上だと痛感しました。特に、チューターさんとの交流、それは特別なイベントではない毎日の生活、一緒に過ごす時間が大きな役割を果たしており、その充実感はサマスク生そしてチューターズ双方の感想文から伝わってきます。日本語教師の立場からすると、うれしいような悲しいような、ですが、こちらも負けずに充実した日本語授業が提供できるようにがんばらねばと、来年に向けて気合いが入りました。

(よ)

今年のサマースクール（派遣）は、オーストラリアのグリフィス大学（4週間コースに8名）、韓国のソウル産業大学（3週間コースに7名）に加え、新規開校の韓国の木浦大学（2週間コース）へ2名（同校からの割り当て）と、計17名が参加した。ソウル産業大学は当初5名の割り当てで、参加者の選出に戸惑ったのだが、昨年度の参加学生の態度等が評価されたのか、最終的には希望者全員が参加することができた。しかし、参加申し込みが過ぎてからも何人かの辞退者が出るなど、最終的な参加者が決定するまでには幾多の変動があり、気をもむことが多かった。事前の語学研修も昨年同様、交換留学生に講師を依頼して英語とハングルの2講座を開いたのだが、英語講座への学生の参加が思わしくなく、課題が残った。サマスク自体は報告書に記載された通り有意義だったようだし、参加者の中から、1年間の留学希望者が幾人か誕生しているのだから、各自にとってのサマスクの影響が大きいことは理解できるのだが、個々の影響が、もっと多くの学生たちにも及ぶことを願ってやまない。

今年は留学生支援室の都築真弓氏がソウル産大のサマスクに1週間参加して、授業や課外活動、交流等を体験し、特別寄稿を寄せてくださった。今後、教職員もできるだけ参加して各国のサマスクの実態を知り、相互の交流やサマスクの充実、参加者へのアドバイスなどに役立てることができればと考えている。

なお、ここ数年、報告書の表紙の色は、派遣学生に「サマスクの印象を色で表わすとどんな色か」を尋ね決定しているのだが、今年の印象は各校とも「水色」ということであった。報告書を読み直すと共にこの表紙を見て、各自が受けたものを思い出し、新たな気持ちで追いつけていってほしい。

今年も、留学生支援室の薬師若菜氏、後任の若井仁美氏、生協の伊藤道生氏、後任の笹木英之氏に大変お世話になった。また、編集・校正では粥川美重子氏にご尽力いただいた。記して、謝意を表したい。

(お)

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2009報告書

〒501-1193	岐阜市柳戸1-1
発行年月日	2009年12月
発行者	岐阜大学
電話	058-293-2138
F A X	058-293-2143
印刷	西濃印刷株式会社



Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center

